

はじめに

東京大学農学部附属演習林は、1894（明治27）年に千葉県清澄に設立された千葉演習林をはじめとする。その後、北海道演習林、秩父演習林、愛知演習林、富士演習林、樹芸研究所、田無試験地が順次設立され、現在、本部および7地方演習林によって構成され、総面積3万2千ヘクタールの森林を有している。

過去100年余にわたり蓄積されてきた教育研究利用の実績は、きわめて貴重であり、その成果をフィードバックしながら演習林では森林科学・生物材料科学を中心とする教育実習ならびに研究に最適な試験研究フィールドとしての森林の管理運営を行っている。農学部にとどまらず、本学はもとより学外の様々な分野に利用されているのも演習林の特徴のひとつである。さらに、地球環境規模での森林の社会的重要性が高まる中で、演習林所属教官の研究活動も、今までにもまして活発化している。

現在、東京大学では大学院重点化の方向で新しい大学の再編が図られており、附属施設としての演習林も大学院の教育研究に十分に対応していく必要がある。

これまでの蓄積と成果を継承し、新しい研究教育に対応していくためには、まず演習林自ら真摯に実状を検討するとともに、演習林に対する内外の十分な理解を深めていくことが何より重要である。

年報が演習林に対する理解の一助となり今後の発展につながれば幸甚である。

1997年3月31日

東京大学農学部附属演習林長
熊谷 洋一

目次

I	演習林の概要	1
II	演習林の活動	2
II-1	利用状況	2
(1)	利用概況	2
(2)	演習林を利用して行った論文等	2
(3)	全利用者	9
1	千葉演習林	9
2	北海道演習林	18
3	秩父演習林	22
4	富士演習林	27
5	愛知演習林	28
6	樹芸研究所	30
7	田無試験地	31
II-2	教育活動	35
(1)	大学院（講義・実験・演習）	35
(2)	学部講義等	35
(3)	他大学への非常勤講師	36
(4)	講習会・セミナー等	36
(5)	実習	37
II-3	研究活動 - 地方演習林の試験研究課題 -	39
(1)	千葉演習林	39
(2)	北海道演習林	44
(3)	秩父演習林	46
(4)	愛知演習林	50
(5)	富士演習林	51
(6)	樹芸研究所	51
(7)	田無試験地	52
II-4	研修	54
(1)	技官	54
(2)	事務官	55
(3)	安全・防災	55
II-5	山火事予防活動	56
II-6	国際交流	57
(1)	国際学術交流協定	57
(2)	国際シンポジウム	57
(3)	外国人研究者招聘	57
(4)	外国人研究者の講演会	57
(5)	外国人研究者の来訪	57
(6)	外国出張	58
(6')	海外研修旅行	58

(7) 共同研究	58
II-7 出版・広報活動	59
(1) 演習林報告	59
(2) 演習林	59
(3) 著書	59
(4) その他	59
II-8 科学研究費・受託研究等によって行われた研究(1995年度)	60
(1) 科学研究費	60
(2) 他研究機関との共同研究	61
(3) 受託研究	61
(4) 奨学寄付金	61
II-9 各種委員会報告	62
(1) 運営委員会	62
(2) 地方林長会議	62
(3) 補佐会議	62
(4) 演習林会議	62
(5) 将来計画委員会	62
(6) 試験研究計画委員会	64
(7) 演習林編集委員会	65
(8) 演習林施設委員会	65
(9) 全演の事務主任会議	65
(10) 技術官等試験研究・研修会議	65
II-10 学外各種委員会	66
II-11 試験研究業務	67
(1) 各演の森林施業と土地管理	67
1 千葉演習林	67
2 北海道演習林	68
3 秩父演習林	71
4 愛知演習林	71
5 樹芸研究所	73
(2) 業務関係	75
II-12 主要設備	80
II-13 年間行事表	81
III 資料	82
III-1 人事異動	82
III-2 平成7年度 予算及び決算額	84
III-3 平成7年度 歳入決算内訳書	85
III-4 平成7年度 演習林収入歳入決算内訳細分表	85
III-5 歴代林長および演習林機構図(平成7年度)	86
(1) 本部	86
(2) 千葉演習林	87
(3) 北海道演習林	89
(4) 秩父演習林	90

(5) 愛知演習林	92
(6) 富士演習林	93
(7) 樹芸研究所	93
(8) 田無試験地	94
IV 教職員の写真	95

I 演習林の概要

1890年に、東京農林学校は帝国大学に併合されて農科大学となり、1894年にはその附属施設としてはじめて大学演習林が房総半島の東南部に位置する清澄に設けられた。これが、今日の東京大学千葉演習林である。引き続いて、地域の生態的条件、教育研究目的に応じて、北海道演習林（1899年）、秩父演習林（1916年）、愛知演習林（1922年）、富士演習林（1925年）、樹芸研究所（1943年）、田無試験地（1956年）が設置された。現在、当演習林はこれら7つの地方演習林と本部から構成されている。千葉演習林は暖帯林及び中間温帯林に位置し、その面積は約2,200ha、スギ、ヒノキ、マツなどの主要林木の育成技術と持続的森林施業に関する試験を100年余にわたって実施してきた。また、モミヤツガ、広葉樹からなる天然林を有し、これらの試験研究、貴重な天然資源は学内外の様々な分野の研究・教育に多大の貢献をしている。また、近年では、自然史や立地生態系に関連した調査、研究が幅広く行われている。

北海道演習林は亜寒帯に位置し、その面積は約22,800ha、択伐施業の実証的かつ理論的研究を通じて林学ならびに北方林業の発展に寄与してきた。特に1958年以降、北方地域の森林の持つ環境保全機能と木材生産機能との調和を図る森林施業実験（林分施業法）が行われ、その成果は国の内外から高い評価を受け、この施業法の提案者である高橋延清名誉教授はエディンバラ公賞を受賞している。各種の試験林が造成され、また奥地天然林には11,000haに及ぶ鳥獣保護区が設けられ、北海道の森林動植物に関する各種の調査・研究に利用されている。遺伝子資源・生物資源の宝庫として世界的に貴重なフィールドである。

秩父演習林は温帯に位置し、その面積は約5,800haである。その山容は険しく、森林環境は変化に富み、生物相もきわめて多様である。また、大面積にわたる貴重な原生林を対象に森林生態系に関する調査・研究が数多く行われている。また、育苗・育林技術、天然林の更新、中部山岳林の施業法などに関する研究も行われている。そのような多様な森林を背景に、当演習林は森林植物学、森林土壌学、森林土壌学など多くの実習教育の場となっている。

一方、愛知、富士、樹芸、田無の演習林は、主に林学個々の専門領域に対応した特別な研究・教育林として設置されている。

愛知演習林では、低生産性林地を対象として森林水文ならびにせき悪地の造林法に関する研究が主に行われている。森林水文に関する60年余にわたる量水観測は、わが国における土壌保全、水文研究の科学的、技術的発展に重要な役割をはたしてきた。さらに、今日では、河川の不安定化、洪水の増大などで苦しんでいる熱帯地域への国際協力の面でその貢献が期待されている。

富士演習林は富士山麓山中湖畔に位置し、森林の保健休養機能の開発及び評価を中心的課題としている。

樹芸研究所は伊豆半島南端にあり、特用樹木の利用と育成に関する基礎研究と温泉熱を利用した熱帯・亜熱帯産樹木の育成試験が実施されている。

田無試験地においては、造林学、森林植物学、森林動物学などの生物系諸分野の圃場実験、室内実験などが行われている。

事務部、研究部からなる演習林本部は弥生キャンパス農学部設置されており、各地方演習林を有機的に結びつける役割を担っている。事務部は、庶務、会計、管財、用度の4掛からなり、全演習林の予算、人事、国有財産管理などを統括している。

研究部は4名の教官を擁し、演習林全体の試験研究計画の円滑な実行を支援・統括する役割を担っている。また、全演習林にまたがる総合的なプロジェクト研究の立案と実行、森林科学その他専攻、他分野との共同研究を推進する企画・調整機能を有するとともに、各教官はそれぞれの専門において独自の研究を進めている。一方、「演習林報告」及び「演習林」の発行、森林科学関係雑誌の受け入れによる図書館機能、各演習林における気象観測結果のとりまとめと公表、演習林の各種基本データのデータベース化とその提供などの業務が行われている。現在、インターネットに接続されたネットワークシステムが導入され、各地方演習林を結ぶ枢軸としての研究部の情報機能が一層大きくなっている。さらに、大学院農学生命科学研究科森林科学専攻の協力講座として、森林生態系学、森林遺伝子科学、森林情報・システム学、森林水資源学の4分野からなる森林生態圏管理学大講座を組織し、博士課程及び修士課程の学生を受け入れて大学院教育を行っている。

II 演習林の活動

II-1 利用状況

(1) 利用概況

本演習林では演習林の利用状況を把握するために、利用団体・利用目的を問わず、演習林を利用するものに対して「演習林利用申込書」の提出を義務づけている。この申込書により

利用演習林名

利用代表者所属機関・部局（学科・研究室）・職

利用の目的（又は研究課題）

利用期間

利用人数

を知ることが出来る。以下ではこの申込書をもとにして、今年度の演習林利用状況を表1にまとめた。

表1 演習林利用状況（1995年度）

	教職員	学生	院生	その他	人員計	延べ利用者数
学内	484	747	444	131	1,806	7,493
学外	1,020	1,262	220	10,578	13,080	17,527
合計	1,504	2,009	664	10,709	14,886	25,020

1995年度は14,886人の利用があった。利用者の内訳は学内1,806人、学外13,080人であり、学外の利用者が多い。また、教職員、学生、院生の利用者数合計4,177人に対して、その他は10,709人となっており、演習林が研究者のための研究フィールドであるばかりでなく、自然観察・林内見学など一般市民に解放された教育の場であることが浮き彫りにされた。

なお、利用日数と利用人数とを掛け合わせた延べ利用人数は25,020人であり、一日平均68.5人が演習林を利用した勘定となる。演習林を利用して行った論文等をII-1-(2)に、また1995年度の全利用者を、II-1-(3)にまとめた。

(2) 演習林を利用して行った論文等

発表者全氏名	第一発表者所属機関	学部等	題名	誌名	ページ
東京大学農学部附属演習林千葉演習林 抵抗性マツ研究資料集編集委員会	東京大学	農学部	マツノザイセンチュウ病に対し抵抗性をもつアカマツ・クロマツの選抜育種に関する資料集		1-216
大里 正一・佐倉 詔夫・糟谷 重夫・岸 洋一	東京大学	農学部	マツノザイセンチュウ抵抗性マツの選抜育種と抵抗性苗の実用化		1-36
鈴木 誠・龍原 哲・石原 猛・南雲 秀次郎	東京大学	農学部	千葉演習林におけるスギ高齢林分の間伐方法に関する検討	日林誌77-4	314 - 320
Yong-Chi Yang・南雲 秀次郎・Yung-Nai Yao・大里 正一・Wen-Liang Lin・龍原 哲・Hsiu-Yen Lin・鈴木 誠	台湾大学	農学部	COMPARISON OF THE GROWTH AND DEVELOPMENT OF CRYPTOMERIA PLANTATIONS IN THE CHIBA FOREST OF THE TOKYO UNIVERSITY AND THE EXPERIMENTAL FOREST OF TAIWAN UNIVERSITY: ANALYSES OF 70 YEARS OF DATA FROM THE PERMANENT SAMPLE PLOTS	Proceedings of IUFRO International Workshop on Sustainable Forest Management	146 - 166
丹下 健	東京大学	農学部	スギ造林木の成長に関する生態生理学的研究	東大演報93	65 - 145

発表者全氏名	第一発表者 所属機関	学部等	題名	誌名	ページ
大里 正一・佐倉 詔夫・糟谷 重 夫・岸 洋一	東京大学	農学部	マツノザイセンチュウ抵抗性マツの選抜育 種と抵抗性苗		1-38
酒井 暁子・大沢 毅・大沢 雅彦	東北大学	理学部	Adaptive Significance of Sprouting of Euptelea polyandra, a Deciduous Tree Growing on Steep Slopes with Shallow Soil	J. Plant Res.108	377 - 386
佐倉 詔夫	東京大学	農学部	造林地の遷移	現代生態学とそ の周辺 沼田眞編	156 - 165
丹下 健・八木 久義	東京大学	農学部	Iron Sulfides Contained in the Tertiary Stratum in the Kiyosumi Mountain Area, the Boso Peninsula, Japan	ペドロジスト38-2	83-86
高橋 正義・鈴木 誠・大里 正一	森林総合研 究所		東京大学千葉演習林一杯水林道周辺におけ る一般利用者の実態	森林文化研究16	285 - 290
尾崎 煙雄・大沢 雅彦	千葉県立中 央博物館		Successional change of forest pattern along topographical gradients in warm-temperate mixed forests in Mt Kiyosumi, central Japan	Ecological Research 10-3	223 - 234
山中 征夫	東京大学	農学部	ヤマビルの交尾行動と交尾時期	日林関支論47	75-76
前原 忠・鶴見 康幸・塚越 剛史	東京大学	農学部	ニホンジカの幼齢造林木嗜好性の場所間比 較	日林論106	447 - 450
村川 功雄・鈴木 祐紀・粕谷 伊 佐義・阿達 康眞	東京大学	農学部	千葉演習林平塚に於けるスギ枯損調査事例	平成7年度技術 官等試験研 究・研修会議報 告(東大演)	37-47
山中 征夫	東京大学	農学部	ヤマビルの生態に関する基礎的研究	平成7年度科学 研究費補助金(一般研究C)研 究成果報告書	1-86
菅原 泉・中田 銀佐久・右田 一 雄	東京農業大 学	農学部	針葉形の異なるスギさし木の発根と着花	日林論106	277 - 279
稲村 宏子	東京医科大 学	医学部	冬眠から醒めた直後のヤマビルのブドウ状 組織と脂肪組織	東京医科大学紀 要22	83-92
東京大学農学部附 属演習林	東京大学	農学部	東京大学演習林気象報告(自1994年1月 至1994年12月)	演習林(東大) 34	199 - 232
木佐貫 博光・梶 幹男・鈴木和夫	東京大学	農学部	秩父地方の山地溪畔林におけるシオジおよ びサワグルミ実生の消長	東大演報93	49-57
井出 雄二・木佐貫 博光	東京大学	農学部	ポプラ遺伝子資源と耐性育種	ワークショップ 地球環境変動と 生物資源要旨集	
木佐貫 博光・木村 徳志・倉橋 昭夫・ 梶 幹男	東京大学	農学部	針広混交林における風害地の再生過程 - 風 害14年後の更新状況 -	日林北支論44	58-60
木佐貫 博光・倉橋 昭夫	東京大学	農学部	カラマツ属フェノロジーの種および産地に よる変異	日林論106	363-366
木佐貫 博光・倉橋 昭夫・高橋 康夫	東京大学	農学部	Growth responses of Larix hybrid between L. kaempferi and L. gmelinii var. japonica with altitudinal gradient.	Proc.IUFRO Larch genetics and breeding	127-134
井口 和信・木村 徳 志・岩本 進一・坂 口 敏雄・伊原 重 男・福士 憲司	東京大学	農学部	エゾマツ天然林の伐採にともなうヤツバキ クイムシ成虫個体群の動態 4年間の定点 トラップによる誘殺結果	平成7年度技術 官等試験研 究・研修会議報 告(東大演)	25-35

II 演習林の活動 II-1 利用状況

発表者全氏名	第一発表者 所属機関	学部等	題名	誌名	ページ
宍戸 憲治・岡村 行 治・浅間 雅子・平 田 雅和・佐藤 烈 ・高橋 範和・小池 征寛・河原 漠 ・高橋 康夫	東京大学	農学部	植栽密度を異にしたシラカンバの成長資料	平成7年度技術 官等試験研究 ・研修会議報告 (東大演)	55-61
本阿弥 俊治	東京大学	農学部	択伐施業による針広混交林の林分構造の 変化 東京大学北海道演習林105林班にお ける事例	東京大学卒業論 文	
副島 朋亮	東京大学	農学部	フォワーダによる間伐材集材作業に関 する一考察	東京大学卒業論 文	
倉橋 昭夫・木佐貴 博光・木村 徳志	東京大学	農学部	アカエゾマツとエゾマツの種間雑種F1 および戻し交雑家系の開芽期の変異お よび異状伸長成長の発現	日林北支論44	117-119
福士 憲司・小笠原 繁男・鎌田 登・小 沢 慰寛・澤田 晴雄・木村 徳志	東京大学	農学部	地はぎ地におけるハリギリの根挿し および実生育成苗の生存率と成長	日林北支論44	67-69
浅間 雅子・岡村 行 治・高橋 康夫・山 本 博一	東京大学	農学部	1981年風害跡地の復旧造林 地はぎ 地におけるトドマツ植栽木の成長と 天然更新	日林北支論44	61-63
尾張 敏章	東京大学	農学部	スウェーデン・森林鉄道の旅	北方林業47	290-292
尾張 敏章	東京大学	農学部	第20回IUFRO世界大会の研究発表 に関する報告	森林利用学研究会 誌10	289-290
尾張 敏章・仁多見 俊夫	東京大学	農学部	素材生産事業体における若年労働力 確保一富良野地区M林業の事例一	日林北支論44	176-178
尾張 敏章	東京大学	農学部	森林鉄道 Inlandsbananの旅	ビヨルク49	8
高橋 郁雄・木村 徳 志・犬飼 浩・倉橋 昭夫	東京大学	農学部	トドマツ標高別次代家系苗の植栽 18年目にみられた諸被害	日林北支論44	206-209
宅間 隆二・沢田 晴 雄・広川 俊英・山 本 勝彦・笠原 久臣・高橋 郁雄	東京大学	農学部	トドマツ天然生林における溝腐病 の分布とその被害状況	日林北支論44	210-212
山本 博一	東京大学	農学部	森林と人との関わり	北方林業48	7
龍原 哲・山本 博一・高田 功一 ・犬飼 浩	東京大学	農学部	Effects of stand structure on growth in selection stands dominated by Todo fir	森林計画誌25	17-25
山本 博一	東京大学	農学部	二段林の成長予測に関する研究(3) 、カラマツ・トドマツ混植二段林の システム収穫表	日林誌77	197-204
サイモン ローソン ・古田 公人・片桐 一正	東京大学	農学部	Effect of tree host and beetle density on reproduction and survival of Ips typographus japonica Nijima (Col., Scolytidae) in Hokkaido, Japan	J.Appl.Ent.119	383-390
山本 博一・仁多見 俊夫・木佐貴 博光	東京大学	農学部	種の特性に着目した北方天然林の 林分構造解析	平成7年度科学 研究費補助金(一般研究C)研 究成果報告書	1-94
太田 重之	東京大学	農学部	北海道演習林森林軌道開設の経緯	演習林(東大) 34	61-158

発表者全氏名	第一発表者 所属機関	学部等	題名	誌名	ページ
倉橋 昭夫	東京大学	農学部	北海道演習林における林木育種研究40年史	演習林(東大)34	159-192
金泳信・飯山 賢治 ・倉橋 昭夫・飯塚 堯介	東京大学	農学部	ポプラ天然材(Populus maximowiczii Henry)および早生材細胞壁リグニンの化学構造ヒドロキノン安息香酸類およびヒドロキノン桂皮酸類の結合様式	木材学会誌41	837-843
倉橋 昭夫	東京大学	農学部	森林地域における酸性雨等地球環境モニタリング体制の確立(代表:藤原滉一郎)-ブナ・ポプラ・ナラ類のフェノロジー(分担)-	平成7年度科学研究費補助金(試験研究A)研究成果報告書	18-25
倉橋 昭夫	東京大学	農学部	交雑品種「東演1号」の特性-ゲイマツV-544xカラマツV-307-	北海道の林木育種38	9-10
倉橋 昭夫	東京大学	農学部	トドマツの垂直分布に伴う変異-標高産地別次代植栽木の成長と着果-	北海道の林木育種38	1-4
倉橋 昭夫・梶 幹男	東京大学	農学部	ポプラのフェノロジー観察の状況と結果の概要-全国18ヶ所の植栽地について-	平成7年度科学研究費補助金(試験研究A)研究成果	61-81
芝野 伸策・笠原 久 臣・木村 徳志・福 士 憲司・井口 和信・岡村 行治	東京大学	農学部	ウダイカンバ大径木の年輪解析による成長経過-東京大学北海道演習林での衰退木・枯損木について-	日林論106	263-264
木村 徳志・木佐貫 博光・倉橋 昭夫	東京大学	農学部	北海道に自生する落葉広葉樹25種のフェノロジー-年変動ならびに気温との関係-	日林論106	367-370
澤田 晴雄・梶 幹 男・五十嵐 勇治	東京大学	農学部	秩父演習林内ハンテンボク人工林における2度の台風害の影響と回復状況	日林論106	361-362
倉橋 昭夫・木佐貫 博光・木村 徳志	東京大学	農学部	アカエゾマツとエゾマツ天然雑種の成長およびエゾマツカサアブラの被害	日林論106	267-268
勝木 俊雄・井出 雄 二・鈴木 和夫	森林総合研 究所		日本産トウヒ属樹木のグリセリン酸脱水素酵素の変異	東大演報93	41-48
澤田 晴雄・梶 幹 男・五十嵐 勇治 ・大村 和也	東京大学	農学部	秩父地方山地帯天然林の更新に関する基礎的研究3-約145年前に生じた人為的攪乱がヒノキ林の更新に与えた影響-	東大演報93	21-40
槌本 敬大・中村 昇・有馬 孝禮	東京大学	農学部	木質トラスの振動性状の解析	木材学会誌41	143-150
中村 昇・名波 直道・有馬 孝禮	東京大学	農学部	丸太における等級区分の違いによるラミナおよび縦つきムラシナの強度	木材工業50	215-219
中村 昇・中島 史郎・有馬 孝 禮・市川 淳一郎	東京大学	農学部	八角形実大木造建物の構造耐力試験	木材学会誌42	25-33
中村 昇	東京大学	農学部	苗木のヤング係数測定による選抜育種-1年目と2年目の測定結果の比較-	日林北支論44	127-130
中村 昇	東京大学	農学部	林業と木材工業を直結させる一つの試み	日林北支論44	168-171
中村 昇	東京大学	農学部	在来軸組構法における構造用製材の信頼性解析1.曲げ強度の特性値と終局限界状態における信頼性指標と耐力係数との関係	日本建築学会構造系論文集479	77-82
山本 博一・高橋 康 夫・岡村 行治・浅 間 雅子・河原 漠	東京大学	農学部	二段林の成長予測に関する研究(IV)-カラマツ・トドマツ混植二段林の成長モデル検証-	日林北支論44	158-161
平田 雅和・穴戸 憲 治・山本 博一・岡 村 行治・浅間 雅子・高橋 康 夫・河原 漠	東京大学	農学部	シラカンバ植栽密度試験地における成長特性	日林北支論44	83-85
澤田 晴雄・木村 徳 志・岡平 卓巳・福 士 憲司	東京大学	農学部	ホザキナナカマドの現存量と相対照度との関連	日林北支論44	89-92
木村 徳志・小笠原 繁男・木佐貫 博光 ・倉橋 昭夫・渡邊 定元	東京大学	農学部	エゾマツ7産地苗の苗畑における生残過程	日林北支論44	95-98
尾張敏章・仁多見 俊夫・湊 克之	東京大学	農学部	素材生産作業システム機械化進展モデルの構築	森林利用研究会誌10	145-152

II 演習林の活動 II-1 利用状況

発表者全氏名	第一発表者 所属機関	学部等	題名	誌名	ページ
仁多見 俊夫・河原 漢・穴沢 力	東京大学	農学部	Development of Selective Harvesting System due to the Forest Road Network in a Natural Forest.	Proc. IUFRO Div.3, 4, Furano, Japan	367-373
仁多見 俊夫・山本 博一・河原 漢	東京大学	農学部	天然林択伐作業における新しい素材生産作業システムの構築	日林論106	543-544
仁多見 俊夫・河原 漢・佐藤 義弘・穴沢 力	東京大学	農学部	森林生産基盤の整備と森林作業システムの発展	日林論106	183-184
仁多見 俊夫	東京大学	農学部	森林国フィンランドにおいて議論された地球規模の森林資源環境問題と技術	山林1339	41-46
梶 幹男	東京大学	農学部	秩父地方の山地溪畔林におけるシオジおよびサワグルミの実生の消長	演習林報告93	49 - 57
梶 幹男	東京大学	農学部	果柄痕の観察によるイヌブナ堅果豊作年の推定	演習林報告94	1 - 8
梶 幹男	東京大学	農学部	東京大学秩父演習林の1992～1995の結果	森林地域における酸性雨等地球環境モニタリング体制の確立,平成5～7年度科学研究費補助金試験研究(A)研究成果報告書	6-17
梶 幹男	東京大学	農学部	フェノロジー・ブナ・クローン・広域苗木・気象	森林地域における酸性雨等地球環境モニタリング体制の確立,平成5～7年度科学研究費補助金試験研究(A)研究成果報告書	26 -27
梶 幹男	東京大学	農学部	林内相対照度によるイヌブナ-ブナ林における落葉時期の推定	森林地域における酸性雨等地球環境モニタリング体制の確立,平成5～7年度科学研究費補助金試験研究(A)研究成果報告書	78 -80
梶 幹男	東京大学	農学部	森林地域における酸性雨等地球環境モニタリング体制の確立	平成5～7年度科学研究費補助金試験研究(A)研究成果報告書	180
梶 幹男	東京大学	農学部	フェノロジー・広域分布樹種・クローン・季節	森林地域における酸性雨等地球環境モニタリング体制の確立,平成5～7年度科学研究費補助金試験研究(A)研究成果報告書	203 - 213
蒲谷 肇	東京大学	農学部	森林内に設置するシカ防護柵の研究	日林関東支論47	77 -78
石田 健	東京大学	農学部	"The adrenocortical response to stress in male Bush Warblers, Cettis diphone: a comparison of breeding populations in Honshu and Hokkaido"	Japan. Zool. Sci. 12	615 - 621.
石田 健	東京大学	農学部	ツキノワグマの食物と生活史特性	哺乳類科学 35	71 -78.
石田 健	東京大学	農学部	マルチメディアを利用した森林情報の公開(II)-World-Wide Webサーバ運用の実際-	日林論106	139 - 140
永田 信・安村直樹・新開毅・柴崎茂光	東京大学	大学院農学生命科学研究科	建築の製材・合板使用原単位のマクロ的推計	林業経済研究129	165 - 170
高野充広・齊藤登・山中隆平・大畑 茂・平野和男・芝野伸策	東京大学	農学部	部秩父演習林におけるスギ、ヒノキ造林木のクマハギ被害	平成7年度技術官等試験研究・研修会議報告(東大演)	49 -54.

発表者全氏名	第一発表者 所属機関	学部等	題名	誌名	ページ
澤田晴雄・梶 幹 男・五十嵐勇治	東京大学	農学部	秩父演習林内ハンテンボク人工林における 2度の台風害の影響と回復状況	日林論106	361 - 362
土居隆行	東京大学	農学部	労働量を考慮した人工林の施業指針の作成 - 東京大学秩父演習林の場合 -	東京大学農学部 卒業論文	
越田全彦	東京大学	農学部	秩父山地落葉広葉樹林におけるアカネズミ Apodemus speciosus とヒメネズミ Apodemus argenteus の生息環境選択の季節変化	東京大学農学部 卒業論文	
佐々木廣海	東京大学	農学部	外生菌根菌におよぼす環境ストレスの影響	東京大学大学院 農学生命科学研究科修士学位論 文	
芝野伸策・笠原久 臣・木村徳志・福 士憲司・井口和 信・岡村行治・高 橋康夫	東京大学	農学部	ウダイカンバ大径木の年輪解析による成長 経過 - 東京大学北海道演習林の衰退木・枯損 木について -	日林論106	263 - 264
萩原昇・築比地秀 夫・佐々木和夫			入川林道（東京大学農学部演習林）早春の 蛾類	寄せ蛾記	205 - 320
小林さやか	日本大学	農獣医 学部	野生ウグイスを用いたストレス応答の季節 変化の野外内分泌学的研究	日本大学農獣医 学部卒業論文	
三大寺裕子	埼玉大学	理学部	野生ウグイスの繁殖期とストレス応答の野 外内分泌学的研究	埼玉大学理学部 卒業論文	
矢谷敦史	日本大学	農獣医 学部	野生ウグイスを用いた繁殖年周期の野外内 分泌学的研究	日本大学農獣医 学部卒業論文	
西山教雄・千島茂	東京大学	農学部	ミズナラの直播き試験	東京大学農学部 附属演習林平成7 年度技術官等試 験研究・研修会 議報告	17-20
石原 聡	東邦大学	理学部	太平洋型ブナ天然林におけるブナ当年生実 生の枯死要因について	東邦大学理学部 卒業論文	
渡邊 鈴代	東邦大学	理学部	ブナの天然林と人工林とにおけるアカネズ ミ個体群の動態と種子生態	東邦大学理学部 卒業論文	
	東邦大学	理学部	ブナの実生の生存と生長に及ぼす上層木の 間伐の影響についての研究	東邦大学理学部 卒業論文	
沼本 晋也・芝野 博 文	東京大学	農学部	Characteristics of a Shallow Groundwater Flowing System	Proceedings of the International Sabo Symposium	393-400
土屋 智・田中 隆文 ・芝野 博文	静岡大学	農学部	土壌水分の変動から推定したメラピ火山南 西山麓の地点蒸発散量	日本水文科学会 誌	93-103
芝野 博文	東京大学	農学部	Current Result of the Development of Hydrological Research Technology in Sediment Control against Debris Flow in Mountainous Slope of Active Volcano	Proceedings of the International Seminar and Symposium on Sabo Engineering	1-33
丹下 健・八木 久義	東京大学	農学部	Iron Sulfides Contained in the Tertiary Stratum in the Kiyosumi Mountain Area , the Boso Peninsula , Japan	Pedologist	83-86
石塚 成宏・八木 久 義・佐々木 恵彦	東京大学	農学部	人工酸性雨が土壤中の細菌に与える影響と 団粒による保護効果	日林誌	589-595
BUMARLONG A. Aderaida・八木 久義	Tarlac College of Agriculture	Institu- te of Forestry	Site Classification for Bmbusa blumeana Schultes f. Plantation Establishment in the Philippines	TCA Research Journal	17-45
吉田 孝久	東京大学	農学部	年輪幅の縦断的分布についての数学的表現 の試み（ ）線形増殖過程の応用	日林誌	29-35
荒木田善隆	東京大学	農学部	ヤマガラ の巣箱設置による繁殖個体数増加 と高密度下における繁殖生態	日本鳥学会誌 44(1)	37-65

II 演習林の活動 II-1 利用状況

発表者全氏名	第一発表者 所属機関	学部等	題名	誌名	ページ
渡部 賢・原 孝秀・ 井上淳・荒木田き よみ	東京大学	農学部	ヒノキ壮齡林の立木密度による直径階分布 - 直径階別本数頻度曲線による変化 -	平成7年度技術官等試験研究・研修会議報告(東大演)	63-67
桐村 剛	東京大学	農学部	都市近郊林 - 21世紀万国博候補地 - をめぐる二つの論理	44回日林中支論	9-12
井上 淳・渡部 賢・後藤太成・荒 木田善隆	東京大学	農学部	ヒノキ間伐試験地の成長	44回日林中支論	93-94
築瀬憲次・渡部 賢・原 孝秀	東京大学	農学部	天然生二次林のモザイク状更新に関する研究	44回日林中支論	123-126
後藤太成・荒木田 きよみ・芝野博文	東京大学	農学部	流況曲線にみる森林の水流出に及ぼす影響	44回日林中支論	245-248
辻 和明・渡邊良 広・村瀬一隆	東京大学	農学部	Eucalyptus globulus及びEucalyptus smithiiの実生苗の成長に及ぼす施肥効果	平成7年度技術官等試験研究・研修会議報告(東大演)	21-24
スカルティニンシ ー	東京大学	農学生命科学研究科	フタバガキ科樹木のクローン増殖	東京大学修士論文	69
渡邊良広・斎藤陽 子・井出雄二・池 田裕行	東京大学	農学部	Acacia mangiumのカルス培養における培地条件の検討	44回日林中支論	81-84
小島克己・神長健 夫・大沢裕樹・佐 々木恵彦	東京大学	農学部	熱帯産マメ科樹木の 生長とpH	106回日林講演要旨集	554
大沢裕樹・小島克 己・佐々木恵彦	東京大学	農学部	熱帯産マメ科樹木の酵素活性と 成長に及ぼすアルミニウムの影響	106回日林講演要旨集	677
渡辺 信・小島克 己・井出雄二・佐 々木恵彦	東京大学	農学部	高浸透圧ストレスに対する耐乾燥性ポプラの培養シュートの反応	106回日林講演要旨集	680
康 才明・井出雄 二・佐々木恵彦	東京大学	農学部	Populus euphratica葉肉プロトプラストからの植物体再生	106回日林講演要旨集	691
康 才明・井出雄 二・佐々木恵彦	東京大学	農学部	Isolation and culture of leaf protoplasts from in vitro subcultured, poplars: Populus tomentosa, Populus alba cv. Pyramidalis, Populus tomentos and Populus maximowiczii, Populus platierensis	東大演報93号	59-63
康 才明・丹下 健・小島克己・井 出雄二・佐々木恵 彦	東京大学	農学部	土壤の乾燥にともなう中国産ポプラ3種の光合成速度の変化	東大演報94号	115 - 123
康 才明・小島克 己・井出雄二・佐 々木恵彦	東京大学	農学部	Growth response to the stress of low osmotic potential, salinity and high pH in cultured shoot of Chinese poplars	journal of Forest Research1	27-29
大沢裕樹	東京大学	農学部	アルミニウムストレスに対する熱帯マメ科樹木の反応と 耐性機構	東京大学修士論文	
鈴木和夫・福田健 二・寶月岱造	東京大学	農学部	日本産ナラタケの生物学的種とその生態学的性質の解明	科研報告書	
志賀祐子・福田健 二・鈴木和夫	東京大学	農学部	日本産ナラタケ2種の病原生について	106回日林講演要旨集	80
市原 優・福田健 二・鈴木和夫	東京大学	農学部	材線虫の初期移動と線虫サイズ	106回日林講演要旨集	93
市原 優	東京大学	農学部	マツノザイセンチュウのマツ樹体内における初期移動と、材線虫病の病徴発現	東京大学修士論文	
栗田直明・石塚孝 一・岩本則長	東京大学	農学部	接木を用いたポプラの耐乾燥性について	平成7年度技術官等試験研究・研修会議報告(東大演)	3-9

発表者全氏名	第一発表者 所属機関	学部等	題名	誌名	ページ
岩本則長・栗田直明・石塚孝一	東京大学	農学部	田無試験地におけるマツ属樹木の菌根に関する研究	平成7年度技術官等試験研究・研修会議報告(東大演)	11-16
ムジバル ラーマン・石田京子・鈴木和夫・寶月岱造	東京大学	農学部	Structure of the nodule and effects of pH on nodulation in Acacia mangium	日林誌77(1)	75-78
寶月岱造	東京大学	農学部	図解 1細胞と植物の形態形成	植物の分子細胞生物学	9-14
寶月岱造	東京大学	農学部	細胞形態の構築における細胞壁と微小管の役割	植物の分子細胞生物学	26-37

(3) 全利用者

1 千葉演習林

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
1	千葉	4	1	千葉大学教育学部理科教育教室	1	1	2	0	4	アンモニア菌の発生機作に関する研究
2	千葉	4	1	日本野鳥の会千葉県支部	0	0	0	30	30	探鳥会(野鳥観察会)
3	千葉	4	1	和田町教育委員会教育課	1	0	0	1	2	郷台作業所見学
4	千葉	4	1	和田町教育委員会教育課	1	0	0	9	10	郷台作業所見学
5	千葉	4	2	砂防	0	0	2	0	2	水分調査
6	千葉	4	6	東北大学理学部地学科地学第一	0	1	0	0	1	房総半島上部中新統の微化石による古環境解析
7	千葉	4	2	砂防	0	0	2	0	2	水分調査
8	千葉	4	4	東北大学理学部地圏環境科学科	1	0	0	0	1	房総半島天津層の微古生物学的研究
9	千葉	4	2	砂防	0	0	2	0	2	水分調査
10	千葉	4	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	伐採地における草本の二次遷移
11	千葉	4	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の葉の水分特性の測定
12	千葉	4	3	森林総合研究所木材利用部組織研究室	1	3	2	8	14	日本産木本植物の木材標本採取
13	千葉	4	2	秩父演習林	1	0	0	4	5	房総の自然研究会月例会
14	千葉	4	2	植物	0	0	2	0	2	ヒメコマツの更新とその阻害要因
15	千葉	4	2	砂防	0	0	2	0	2	水分調査
16	千葉	4	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の光合成を測定するため
17	千葉	4	3	京都大学理学部地鋳	0	0	1	0	1	泥岩中の有孔虫の偏向分布について
18	千葉	5	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
19	千葉	5	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
20	千葉	5	1	千葉市立弥生小学校	6	53	0	0	59	林間学校に於けるハイキング
21	千葉	5	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
22	千葉	5	1	砂防	0	1	1	0	2	水分調査、遮断蒸発測定
23	千葉	5	1	千葉大学教育学部理科教育教室	2	0	3	1	6	アンモニア菌の発生機作に関する研究
24	千葉	5	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
25	千葉	5	1	植物	0	0	1	0	1	ヒメコマツの更新と枝のサンプリング
26	千葉	5	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
27	千葉	5	1	秩父演習林	1	0	0	0	1	シカの生息保護地域の森林保全と改良に関する研究
28	千葉	5	1	埼玉大学教育学部植物	1	1	3	0	5	研究材料としてシダ類(ヤブソテツ)の胞子を採集する
29	千葉	5	10	京都大学理学部地鋳	0	0	1	0	1	泥岩中の有孔虫の偏向分布について

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
30	千葉	5	2	砂防	0	1	1	0	2	水分調査、遮断蒸発測定
31	千葉	5	2	植物	0	0	1	0	1	ヒメコマツのこぶ病、見本林での調査内容の決定
32	千葉	5	5	造林	3	28	9	0	40	造林学実験、野外実習
33	千葉	5	3	砂防	1	1	3	0	5	水分調査、遮断蒸発測定
34	千葉	5	4	植物	5	29	6	0	40	森林植物学実習
35	千葉	5	8	京都大学理学部地鋳	0	0	1	0	1	岩石サンプルの採取、地質調査
36	千葉	5	2	立正大学文学部地理学科	1	0	0	0	1	流水による岩盤侵食
37	千葉	5	3	立正大学文学部地理学科	0	1	0	0	1	第三紀砂岩層地域に於ける土層回復と植生
38	千葉	5	5	経理	2	8	0	0	10	森林経理学実習
39	千葉	5	2	秩父演習林	1	0	0	4	5	房総の自然研究会月例会
40	千葉	5	2	砂防	0	1	1	0	2	水分調査、遮断蒸発測定
41	千葉	5	3	立正大学文学部地理学科	0	1	0	0	1	第三紀砂岩層地域に於ける土層回復と植生
42	千葉	5	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	伐採地における草本の二次遷移
43	千葉	5	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の葉の水分特性の測定
44	千葉	5	3	千葉県生物学会	1	0	0	1	2	ハエ・ガの調査
45	千葉	5	3	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	3	0	3	常緑広葉樹の光合成を測定するため
46	千葉	5	2	東京大学農学部附属演習林事務長	3	0	0	0	3	演習林視察
47	千葉	5	2	東京大学演習林長	36	0	0	0	36	演習林交歓会
48	千葉	5	5	東京大学理学部地質学教室	4	17	2	0	23	地質学調査実習
49	千葉	5	2	砂防	0	1	1	0	2	水分調査、遮断蒸発測定
50	千葉	6	1	千葉大学理学部生態学研究室	1	1	0	0	2	常緑広葉樹の葉のフェノロジー
51	千葉	6	1	森林総合研究所植生制御研究室	3	0	4	31	38	常緑広葉樹林およびヤマビルの観察
52	千葉	6	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
53	千葉	6	1	砂防	0	1	1	0	2	水分調査 { 樹冠遮断量観測装置の設定 }
54	千葉	6	1	千葉大学理学部生態学研究室	1	1	0	0	2	常緑広葉樹の葉のフェノロジー
55	千葉	6	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
56	千葉	6	1	千葉大学理学部生態学研究室	1	1	0	0	2	常緑広葉樹の葉のフェノロジー
57	千葉	6	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
58	千葉	6	1	千葉大学理学部生態学研究室	1	1	0	0	2	常緑広葉樹の葉のフェノロジー
59	千葉	6	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
60	千葉	6	1	袖ヶ浦市民会館 (教育委員会)	0	0	0	30	30	袖ヶ浦市民会館の主催事業である「自然とウォーク」開催のため
61	千葉	6	1	植物	0	1	1	0	2	材線虫病の宿主樹木数属における線虫の動態
62	千葉	6	1	千葉大学理学部生態学研究室	1	1	0	0	2	常緑広葉樹の葉のフェノロジー
63	千葉	6	1	砂防	0	1	0	0	1	水分調査 { 樹冠遮断量観測装置の設定 }
64	千葉	6	3	横須賀植物会	0	0	0	7	7	千葉演習林内のシダ植物観察と天然林内植生
65	千葉	6	4	動物	0	0	1	0	1	シカ調査
66	千葉	6	2	東京農工大学農学部演習林	2	0	11	1	14	林業経営学持論
67	千葉	6	2	千葉県立君津農林高等学校	2	36	0	0	38	森林植物生態調査、樹木見本林及び各種森林試験地見学
68	千葉	6	4	砂防	0	1	3	0	4	水分調査 { 樹冠遮断量観測装置の設定 }
69	千葉	6	2	立正大学文学部地理学科	1	0	0	0	1	流水による岩盤侵食
70	千葉	6	9	立正大学文学部地理学科	0	1	0	0	1	清澄砂岩層地域の谷頭における土層回復と植生
71	千葉	6	2	秩父演習林	1	0	0	4	5	房総の自然研究会月例会
72	千葉	6	2	日本テレワーク株式会社制作本部	0	0	0	5	5	クモ類の生態のビデオ撮影 (日本テレビ教育番組制作)

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
73	千葉	6	2	砂防	0	1	1	0	2	水分調査 { 樹冠遮断量観測装置の設定 }
74	千葉	6	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	伐採地における草本の二次遷移
75	千葉	6	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の葉の水分特性の測定
76	千葉	6	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の光合成測定
77	千葉	6	2	砂防	0	1	1	0	2	水分調査 { 樹冠遮断量観測装置の設定 }
78	千葉	6	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の光合成測定
79	千葉	7	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
80	千葉	7	4	動物	0	0	1	0	1	シカ調査
81	千葉	7	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
82	千葉	7	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
83	千葉	7	1	千葉大学理学部生態学研究室	1	1	0	0	2	常緑広葉樹の葉のフェノロジー
84	千葉	7	1	東北大学理学研究科	0	1	0	1	2	ミヤマトベラの花及び果実の採取
85	千葉	7	1	千葉県立中央博物館	0	0	0	4	4	モミ自然林植生構造研究
86	千葉	7	1	植物	0	0	1	0	1	ヒメコマツのコブ病
87	千葉	7	5	静岡大学理学部	3	20	0	0	23	演習林内の地質調査
88	千葉	7	2	砂防	1	0	3	0	4	水文調査
89	千葉	7	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹の葉の階層による変化
90	千葉	7	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林における伐採後の二次遷移
91	千葉	7	5	林産	1	12	2	0	15	林産学科3年生林学実習
92	千葉	7	2	砂防	0	1	2	0	3	水文調査
93	千葉	7	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
94	千葉	7	2	秩父演習林	1	0	0	4	5	房総の自然研究会月例会
95	千葉	7	4	宇都宮大学農学部森林科学科	1	43	0	0	44	樹木学実習
96	千葉	7	5	砂防	0	3	3	0	6	水文調査
97	千葉	7	9	立正大学文学部地理学科	0	1	0	0	1	清澄砂岩層地域の谷頭における土層回復と植生
98	千葉	7	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹の葉の階層による変化
99	千葉	7	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林における伐採後の二次遷移
100	千葉	7	3	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の光合成測定
101	千葉	7	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の水分特性に関する測定
102	千葉	7	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	伐採地における草本の二次遷移
103	千葉	7	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
104	千葉	7	2	砂防	0	2	2	0	4	森林小流域での蒸発散量観測のための鉄塔建設
105	千葉	7	3	東大教育学部附属高校	2	10	0	1	13	「照葉樹林およびスギ植林地の生態系の把握と比較」の実習
106	千葉	7	2	砂防	0	1	2	0	3	水文調査
107	千葉	7	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
108	千葉	8	1	砂防	0	1	2	0	3	山地小流域での水文調査
109	千葉	8	1	県立市川高等学校	45	0	0	0	45	日本生物教育会第50回大会における現地研修会
110	千葉	8	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
111	千葉	8	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	葉層別の葉の形態的变化
112	千葉	8	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
113	千葉	8	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	葉層別の葉の形態的变化
114	千葉	8	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
115	千葉	8	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	葉層別の葉の形態的变化
116	千葉	8	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
117	千葉	8	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	葉層別の葉の形態的变化

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
118	千葉	8	1	千葉大学理学部生態学研究室	1	1	0	0	2	常緑広葉樹の葉のフェノロジー
119	千葉	8	2	造林	1	0	3	0	4	杉高齢林の水分生理特性
120	千葉	8	3	立正大学文学部地理学科	1	2	0	0	3	流水による岩盤侵食
121	千葉	8	3	東京電力環境部	0	0	0	110	110	自然観察
122	千葉	8	3	立正大学文学部地理学科	1	2	0	0	3	流水による岩盤侵食
123	千葉	8	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	二次林の攪乱跡地の二次遷移
124	千葉	8	3	動物	0	0	2	0	2	海岸林における土壌動物の季節的変動
125	千葉	8	4	動物	0	0	1	0	1	シカ調査
126	千葉	8	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の光合成測定
127	千葉	8	2	砂防	0	1	2	0	3	山地小流域での水文調査
128	千葉	8	2	日本放送協会千葉放送局	0	0	0	6	6	NHKの番組撮影のため
129	千葉	8	2	砂防	0	1	2	0	3	山地小流域での水文調査
130	千葉	8	2	秩父演習林	1	0	0	4	5	房総の自然研究会月例会
131	千葉	8	2	秩父演習林	1	0	0	0	1	シカ柵設置、気象観測装置設置
132	千葉	8	2	砂防	0	1	2	0	3	山地小流域での水文調査
133	千葉	8	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	2	0	2	常緑広葉樹の水分特性に関する測定
134	千葉	8	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	伐採地における草本の二次遷移
135	千葉	8	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の光合成測定
136	千葉	8	5	京都大学理学部地質学教室	2	15	1	0	18	地質調査法野外実習
137	千葉	8	2	砂防	0	1	2	0	3	山地小流域での水文調査
138	千葉	8	3	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	2	0	2	常緑広葉樹の水分特性に関する測定
139	千葉	8	2	信州大学理学部物質循環学科	1	0	2	0	3	実習の下見のため
140	千葉	9	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
141	千葉	9	3	東京医科歯科大学	0	0	0	2	2	八工、ガの採集・調査
142	千葉	9	4	動物	0	0	1	0	1	シカ調査
143	千葉	9	12	東北大学理学部地学科地質	0	1	0	0	1	土部中新統の微化石による古環境解析
144	千葉	9	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	葉位別の葉の形態的变化
145	千葉	9	2	砂防	0	1	2	0	3	山地小流域での水文調査及び蒸発散
146	千葉	9	3	植物	1	0	1	0	2	日本学術振興会招聘事業による外国人研究者の演習林見学
147	千葉	9	1	山梨県葎崎林務事務所	35	0	0	0	35	林業関係者研修
148	千葉	9	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
149	千葉	9	6	東北大学大学院理学研究科	1	0	0	0	1	房総半島天津層の微古生物学的研究
150	千葉	9	2	砂防	0	1	2	0	3	山地小流域での水文調査及び蒸発散
151	千葉	9	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	葉位別の葉の形態的变化
152	千葉	9	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
153	千葉	9	5	信州大学理学部	2	26	2	0	30	野外において地質調査を実施し、調査技術を修得させる
154	千葉	9	1	国際空手道連盟極真会館	0	0	0	30	30	極真会創設者故大山倍達氏修行地礼拝のため
155	千葉	9	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	葉位別の葉の形態的变化
156	千葉	9	2	砂防	0	1	2	0	3	山地小流域での水文調査及び蒸発散
157	千葉	9	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の光合成測定
158	千葉	9	2	砂防	2	0	0	0	2	水文調査
159	千葉	9	1	千葉大学理学部生態学研究室	1	0	0	0	1	常緑広葉樹の葉のフェノロジー
160	千葉	9	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
161	千葉	9	2	秩父演習林	1	0	0	4	5	房総の自然研究会月例会

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
162	千葉	9	3	東京大学経済学部	1	9	0	0	10	学生との研究合宿
163	千葉	9	3	造林	1	0	6	1	8	台風20号による被害の処理
164	千葉	9	4	立正大学文学部地理学科	0	1	0	0	1	清澄砂岩層地域の谷頭における土層回復と植生
165	千葉	9	8	島根大学理学部	1	0	0	0	1	二次林における樹冠発達の研究
166	千葉	9	2	砂防	0	1	2	0	3	山地小流域での水文調査及び蒸発散
167	千葉	9	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	葉位別の葉の形態的变化
168	千葉	9	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	伐採地における草本の二次遷移
169	千葉	9	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の水分特性に関する測定
170	千葉	9	1	千葉大学教育学部理科教育教室	0	1	0	0	1	アンモニア菌の発生機作に関する研究
171	千葉	9	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
172	千葉	10	4	動物	0	0	1	0	1	シカ調査
173	千葉	10	1	香取郡多古町役場産業経済課	0	0	0	20	20	香取郡市森林組合多古支部組合員視察研修
174	千葉	10	1	千葉営林署	0	0	0	6	6	東京営林局主催「森林倶楽部」の踏査（林況等の調査）
175	千葉	10	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	1	0	2	常緑樹の葉の階層別の変化
176	千葉	10	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	1	0	2	常緑樹の葉の階層別の変化
177	千葉	10	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	1	0	2	常緑樹の葉の階層別の変化
178	千葉	10	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	1	0	2	常緑樹の葉の階層別の変化
179	千葉	10	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	1	0	2	常緑樹の葉の階層別の変化
180	千葉	10	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	1	0	2	常緑樹の葉の階層別の変化
181	千葉	10	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
182	千葉	10	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
183	千葉	10	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
184	千葉	10	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
185	千葉	10	1	千葉大学教育学部理科教育教室	1	0	1	0	2	アンモニア菌の発生機作に関する研究
186	千葉	10	1	千葉大学教育学部理科教育教室	1	0	1	0	2	アンモニア菌の発生機作に関する研究
187	千葉	10	1	千葉大学教育学部理科教育教室	0	0	1	0	1	アンモニア菌の発生機作に関する研究
188	千葉	10	1	千葉大学教育学部理科教育教室	0	0	1	0	1	アンモニア菌の発生機作に関する研究
189	千葉	10	1	千葉大学教育学部理科教育教室	0	0	1	0	1	アンモニア菌の発生機作に関する研究
190	千葉	10	1	千葉県立中央博物館	0	0	0	2	2	球果類の球果と柄の関係
191	千葉	10	1	天津小湊町立天津中学校	3	0	0	0	3	生徒会主催行事 ウォークラリー 実施の為の安全確認及び林道の下見
192	千葉	10	1	天津小湊町立天津中学校	18	182	0	0	200	生徒会主催行事 ウォークラリー 実施の為
193	千葉	10	1	林道南房総線開発促進協議会	0	0	0	20	20	林道南房総線（一杯水線・奥谷線）計画地の現地視察の為
194	千葉	10	1	千葉県中部林業事務所	0	0	0	10	10	樹木研修
195	千葉	10	1	早稲田大学教育学部地学教室	0	3	0	0	3	地質調査
196	千葉	10	1	千葉県立木更津高校	5	0	0	0	5	生徒による自然観察学習（下見）
197	千葉	10	1	千葉大学理学部生態学研究室	1	1	0	0	2	常緑広葉樹の葉のフェノロジー
198	千葉	10	2	東洋工学専門学校	0	2	0	0	2	千葉演習林周辺のシカ生息調査
199	千葉	10	2	慶応義塾大学経済学部	1	0	0	0	1	カエル類の繁殖と生活史
200	千葉	10	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	照葉樹林の二次遷移
201	千葉	10	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	2	1	0	3	照葉樹林の二次遷移
202	千葉	10	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	1	0	2	照葉樹林の二次遷移
203	千葉	10	2	砂防	0	0	6	0	6	袋山沢小流域での水文調査、水質調査及び鉄塔解体の為の作業
204	千葉	10	3	砂防	0	0	5	0	5	袋山沢小流域での水文調査、水質調査及び鉄塔解体の為の作業

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
205	千葉	10	2	砂防	0	0	6	0	6	袋山沢小流域での水文調査、水質調査及び鉄塔解体の為の作業
206	千葉	10	2	砂防	0	0	6	0	6	袋山沢小流域での水文調査、水質調査及び鉄塔解体の為の作業
207	千葉	10	1	砂防	0	0	5	0	5	袋山沢小流域での水文調査、水質調査及び鉄塔解体の為の作業
208	千葉	10	12	京都大学理学部	0	0	1	0	1	有孔虫化石の偏向分布について
209	千葉	10	1	京都大学理学部	0	0	1	0	1	岩石サンプルの採取
210	千葉	10	4	立正大学文学部地理学科	0	1	0	0	1	清澄砂岩層地域の谷頭における土層回復と植生
211	千葉	10	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	伐採地における草本の二次遷移
212	千葉	10	4	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の水分特性に関する測定
213	千葉	10	2	秩父演習林	1	0	0	4	5	房総の自然研究会月例会
214	千葉	10	3	千葉大学理学部地球科学科	5	29	0	0	34	地質学野外実習
215	千葉	11	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑樹の葉のサンプル採集
216	千葉	11	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑樹の葉のサンプル採集
217	千葉	11	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑樹の葉のサンプル採集
218	千葉	11	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑樹の葉のサンプル採集
219	千葉	11	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑樹の葉のサンプル採集
220	千葉	11	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林のパイオニア木本群落の特性
221	千葉	11	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林のパイオニア木本群落の特性
222	千葉	11	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林のパイオニア木本群落の特性
223	千葉	11	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林のパイオニア木本群落の特性
224	千葉	11	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林のパイオニア木本群落の特性
225	千葉	11	1	千葉県立木更津高校	15	40	0	0	55	生徒による自然観察学習
226	千葉	11	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
227	千葉	11	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
228	千葉	11	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
229	千葉	11	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
230	千葉	11	1	千葉大学教育学部理科教育教室	0	0	1	0	1	アンモニア菌の発生機作に関する研究
231	千葉	11	1	千葉大学教育学部理科教育教室	0	0	1	0	1	アンモニア菌の発生機作に関する研究
232	千葉	11	1	千葉大学教育学部理科教育教室	1	1	1	0	3	アンモニア菌の発生機作に関する研究
233	千葉	11	1	千葉大学教育学部理科教育教室	1	1	1	0	3	アンモニア菌の発生機作に関する研究
234	千葉	11	4	動物	0	0	1	0	1	シカ調査
235	千葉	11	1	福島県下郷町森林組合	0	0	0	13	13	演習林及び標本館の視察
236	千葉	11	1	千葉営林署	6	0	0	0	6	東京営林局「森林倶楽部」の自然観察会打合わせ
237	千葉	11	1	千葉営林署	0	0	0	75	75	東京営林局「森林倶楽部」の自然観察会実施
238	千葉	11	1	千葉県立中央博物館	0	0	0	3	3	JICA カウンターパート研修員 RAVELOMANANA 博士の案内
239	千葉	11	1	千葉大学理学部生態学研究室	1	1	0	0	2	常緑広葉樹の葉のフェノロジー
240	千葉	11	1	財)千葉県観光公社内浦山県民の森	0	0	0	100	100	催事(房総脊梁ロングハイキング)
241	千葉	11	1	上総ロータリークラブ	0	0	0	100	100	上総ロータリークラブ主催による「命の水を訪ねる」ハイキング
242	千葉	11	1	東京農業大学大学院農学研究科	0	1	2	0	3	天然生ヤマモモの生育条件等を調べる為
243	千葉	11	1	砂防	0	2	2	0	4	袋山沢小流域での水文調査、水質調査及び鉄塔解体の為の作業
244	千葉	11	2	砂防	0	2	2	0	4	袋山沢小流域での水文調査、水質調査及び鉄塔解体の為の作業
245	千葉	11	2	砂防	0	2	2	0	4	袋山沢小流域での水文調査、水質調査及び鉄塔解体の為の作業

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
246	千葉	11	2	砂防	0	2	2	0	4	袋山沢小流域での水文調査、水質調査及び鉄塔解体の為の作業
247	千葉	11	2	砂防	0	2	2	0	4	袋山沢小流域での水文調査、水質調査及び鉄塔解体の為の作業
248	千葉	11	2	慶応義塾大学経済学部	1	0	0	0	1	カエル類の繁殖と生活史
249	千葉	11	3	東京工業大学理学部地球惑星科学科	2	40	2	0	44	地質調査を中心とした学生実習
250	千葉	11	5	立正大学文学部地理学科	0	2	0	0	2	清澄砂岩層地域の谷頭における土層回復と植生
251	千葉	11	6	立正大学文学部地理学科	0	2	0	0	2	清澄砂岩層地域の谷頭における土層回復と植生
252	千葉	11	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の光合成測定
253	千葉	11	2	北海道演習林	1	0	0	0	1	林道法面の植生回復
254	千葉	11	3	秩父演習林	2	0	0	0	2	シカの生息保護地域の森林保全と改良に関する研究
255	千葉	11	2	秩父演習林	1	0	0	4	5	房総の自然研究会月例会
256	千葉	11	3	経理	2	0	0	0	2	生長試験地の調査
257	千葉	11	3	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	伐採地における草本の二次遷移
258	千葉	11	3	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹の水分特性に関する測定
259	千葉	12	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
260	千葉	12	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
261	千葉	12	1	千葉大学教育学部理科教育教室	0	0	1	0	1	アンモニア菌の発生機作に関する研究
262	千葉	12	1	夷隅町公民館	0	0	0	36	36	公民館事業「健康づくり歩こう会」の徒歩コースとして
263	千葉	12	1	君津市教育委員会	0	0	0	50	50	君津市「明るい県民づくり推進員」君津支部主催の紅葉ウォーキング
264	千葉	12	4	動物	0	0	1	0	1	シカ調査
265	千葉	12	1	千葉県中学校社会科研究会	0	0	0	1	1	正進社版「地理の資料」に掲載する写真撮影のため
266	千葉	12	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	林内における葉の階層的变化
267	千葉	12	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	林内における葉の階層的变化
268	千葉	12	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	林内における葉の階層的变化
269	千葉	12	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	林内における葉の階層的变化
270	千葉	12	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林の先駆性木本種の生長特性
271	千葉	12	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林の先駆性木本種の生長特性
272	千葉	12	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林の先駆性木本種の生長特性
273	千葉	12	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林の先駆性木本種の生長特性
274	千葉	12	1	千葉市中央区(個人)	0	0	0	26	26	ハイキング
275	千葉	12	1	千葉大学理学部生態学研究室	1	1	0	0	2	常緑広葉樹の葉のフェノロジー
276	千葉	12	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	伐採地における草本の二次遷移
277	千葉	12	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹の水分特性に関する測定
278	千葉	12	5	東北大学大学院理学研究科	2	1	1	0	4	二次林における常緑広葉樹実生の分布(北限域との比較)
279	千葉	12	5	東北大学理学部生物科(大学院研究生)	0	0	1	0	1	フサザクラの萌芽特性
280	千葉	12	2	東京大学	6	0	0	0	6	会計監査及び営繕調査
281	千葉	12	2	砂防	0	3	2	0	5	袋山沢小流域での水文・水質調査
282	千葉	12	2	砂防	0	1	2	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査
283	千葉	12	2	砂防	0	1	2	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査
284	千葉	12	2	砂防	0	1	2	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査
285	千葉	12	2	千葉大学理学部生態学研究室	0	0	1	0	1	常緑広葉樹の光合成測定
286	千葉	12	3	農林水産省森林総合研究所	0	0	0	5	5	土質調査及び土壌ガスサンプリング、河川水サンプリング

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
287	千葉	12	4	経理	2	22	0	0	24	測樹学実習
288	千葉	12	3	秩父演習林	1	0	0	0	1	シカの生息保護地域の森林保全と改良に関する研究
289	千葉	12	2	秩父演習林	1	0	1	12	14	房総の自然研究会月例会
290	千葉	12	2	立正大学文学部地理学科	1	1	0	0	2	流水による岩盤侵食
291	千葉	1	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
292	千葉	1	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
293	千葉	1	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
294	千葉	1	4	動物	0	0	1	0	1	シカ調査
295	千葉	1	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹林の階層別の葉の構造解析
296	千葉	1	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹林の階層別の葉の構造解析
297	千葉	1	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹林の階層別の葉の構造解析
298	千葉	1	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹林の階層別の葉の構造解析
299	千葉	1	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林の先駆性木本種の生長特性
300	千葉	1	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林の先駆性木本種の生長特性
301	千葉	1	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林の先駆性木本種の生長特性
302	千葉	1	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林の先駆性木本種の生長特性
303	千葉	1	2	日本大学農獣医学部林学科	1	0	0	0	1	シカ調査
304	千葉	1	2	秩父演習林	2	0	0	0	2	シカの生息密度調査
305	千葉	1	2	秩父演習林	1	0	0	4	5	房総の自然研究会月例会
306	千葉	1	2	砂防	0	2	1	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査
307	千葉	2	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
308	千葉	2	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
309	千葉	2	4	動物	0	1	0	1	2	シカ調査
310	千葉	2	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹林の階層別の葉の変化
311	千葉	2	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹林の階層別の葉の変化
312	千葉	2	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹林の階層別の葉の変化
313	千葉	2	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	常緑広葉樹林の階層別の葉の変化
314	千葉	2	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林のアブラギリ更新群落の特性
315	千葉	2	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林のアブラギリ更新群落の特性
316	千葉	2	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林のアブラギリ更新群落の特性
317	千葉	2	1	千葉大学理学部生態学研究室	0	1	0	0	1	照葉樹林のアブラギリ更新群落の特性
318	千葉	2	1	林業機械化協会	0	0	0	3	3	高性能林業機械の試験についての現地調査
319	千葉	2	1	千葉県立千葉工業高等学校	5	20	0	10	35	林内設置の道標の見回り点検、及び周辺のゴミひろい
320	千葉	2	1	秩父演習林	1	0	0	0	1	鹿の生息保護地域の森林保全と改良に関する研究（鹿・猪防護柵の設置）
321	千葉	2	2	秩父演習林	1	0	0	4	5	房総の自然研究会月例会
322	千葉	2	1	北海道大学農学部演習林	0	0	0	2	2	演習林の見学
323	千葉	2	1	九州大学農学部北海道演習林	0	0	0	2	2	演習林の見学
324	千葉	2	1	神田外語大学	1	1	0	1	3	千葉県の各種生態系における大型土壌動物の種組成について
325	千葉	2	1	内浦山県民の森管理事務所	0	0	0	100	100	催事（ふれあいウォーク）
326	千葉	2	1	林野庁森林技術総合研修所	0	0	0	2	2	森林技術研修業務の参考とするため
327	千葉	2	1	宇都宮大学演習林	0	0	0	10	10	事務研修
328	千葉	2	3	中国	1	0	1	0	2	千葉演習林見学
329	千葉	2	2	砂防	0	0	3	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査
330	千葉	2	2	砂防	0	0	3	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
331	千葉	2	2	砂防	0	0	3	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査
332	千葉	2	2	砂防	0	0	3	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査
333	千葉	2	3	新潟大学農学部生産環境科学科	1	0	0	0	1	全天林冠写真による林分の構造解析調査
334	千葉	2	2	東邦大学	10	1	0	4	15	動植物の観察（小中高校理科の教材化の為）
335	千葉	2	2	日本大学農獣医学部林学科	1	15	2	2	20	施業見本林、杉品種見本林等の見学
336	千葉	2	3	立正大学文学部地理学科	0	2	0	0	2	流水による岩盤侵食
337	千葉	2	2	動物	2	2	0	0	4	卒論試験地設定
338	千葉	3	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
339	千葉	3	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
340	千葉	3	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
341	千葉	3	1	日本蛾類学会	0	0	0	2	2	蛾類の分布調査
342	千葉	3	4	動物	0	0	1	0	1	シカ調査
343	千葉	3	1	明治製菓薬品総合研究所	0	0	0	1	1	樹木の観察
344	千葉	3	10	林業機械化協会	1	0	0	14	15	半脚式伐倒機の現地実用化試験及び研究会の開催
345	千葉	3	1	千葉県立中央博物館	1	0	0	0	1	球果類球果の成長についての研究
346	千葉	3	3	北海道演習林	2	0	0	0	2	自然環境調査及び林内観察
347	千葉	3	1	神田外語大学	1	0	1	1	3	房総半島の土壌動物層
348	千葉	3	1	動物	2	2	0	0	4	卒論試験地設定
349	千葉	3	5	東北大学理学部生物科（大学院研究生）	0	0	1	0	1	フサザクラ及び比較対象種の萌芽特性
350	千葉	3	2	東大演習林本部	2	0	0	0	2	管財関係事務用
351	千葉	3	2	東大経理部	1	0	0	0	1	管財関係事務手続
352	千葉	3	2	砂防	0	0	3	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査
353	千葉	3	2	砂防	0	0	3	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査
354	千葉	3	2	砂防	0	0	3	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査
355	千葉	3	2	砂防	0	0	3	0	3	袋山沢小流域での水文・水質調査
356	千葉	3	5	立正大学文学部地理学科	1	1	1	0	3	流水による岩盤侵食
357	千葉	3	4	森林総合研究所	0	0	0	2	2	新型横断排水施設の機能状況の調査、林道の法面調査
358	千葉	3	2	経理	1	0	0	0	1	試験地の調査
359	千葉	3	2	京都大学演習林	3	0	0	0	3	演習林施業に関する打合せ
360	千葉	3	2	東京学芸大学教育学部	1	6	0	0	7	地質調査の実習
361	千葉	3	2	秩父演習林	1	0	0	4	5	房総の自然研究会月例会
362	千葉	3	2	動物	0	1	0	0	1	卒業論文のための調査
363	千葉	3	2	東大演習林本部	3	0	0	0	3	平成7年度金庫検査のため
364	千葉	3	3	新潟大学農学部	1	3	0	0	4	全天林冠写真による林分の構造解析調査
計					328	821	265	1042	2456	

2 北海道演習林

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
1	北海道	4	30	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学
2	北海道	4	6	N H K 札幌放送局	0	0	0	1	1	林内撮影、取材
3	北海道	4	2	東京農工大学農学部	2	0	4	0	6	林地利用学、森林経営学
4	北海道	4	3	信州大学農学部	1	1	1	0	3	天然林施業視察
5	北海道	4	3	名古屋大学農学部	1	0	2	0	3	積雪期森林作業調査
6	北海道	4	5	北海道大学農学部	0	8	0	0	8	ヒグマの生態調査
7	北海道	4	4	北海道大学農学部	0	8	0	0	8	ヒグマの生態調査
8	北海道	5	31	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学
9	北海道	5	3	北海道大学農学部	0	4	0	0	4	ヒグマの生態調査
10	北海道	5	1	ヤイユーカーラの森	0	0	0	40	40	林内見学
11	北海道	5	2	演習林	2	0	0	0	2	施設・林内視察
12	北海道	5	1	中富良野町立中富良野小学校	1	0	0	40	41	自然観察
13	北海道	5	1	富良野市立山部小学校	4	0	0	57	61	自然観察
14	北海道	5	2	北海道大学農学部	4	14	2	1	21	林分施業法の実習
15	北海道	5	1	N H K 旭川放送局	0	0	0	1	1	取材
16	北海道	5	4	北海道大学農学部	0	8	0	0	8	ヒグマの生態調査
17	北海道	5	1	旭川野鳥の会	2	0	0	43	45	探鳥と自然観察
18	北海道	5	1	富良野市中央公民館	5	0	0	50	55	野草学習
19	北海道	5	10	農学部	0	1	0	0	1	施業の卒論研究
20	北海道	5	2	経理部	3	0	0	0	3	施設見学、電算化調査
21	北海道	6	30	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学
22	北海道	6	9	農学部	0	1	0	0	1	施業の卒論研究
23	北海道	6	1	南富良野町立北落合小学校	4	0	0	21	25	野鳥観察
24	北海道	6	2	生活の家	0	0	0	12	12	林内見学
25	北海道	6	1	東京都立大学理学部	1	0	1	0	2	林内見学
26	北海道	6	1	ウタリ協会浦河	0	0	0	3	3	林内見学、樹皮採取
27	北海道	6	2	演習林	1	0	0	0	1	林内視察
28	北海道	6	4	筑波大学農林学系	1	0	0	0	1	ヤツバキクイムシに関連する青変病菌に関する研究
29	北海道	6	2	北海道営林局	4	0	0	0	4	演習林における森林施業等について
30	北海道	6	2	教育学部附属高校	1	0	0	0	1	研修打ち合わせ
31	北海道	6	3	農学部	1	0	1	0	2	カラマツに関する研究
32	北海道	6	1	山部厚生病院	0	0	0	8	8	薬草及び山菜の見分け方及び利用方法
33	北海道	6	3	一般	0	0	0	1	1	森林生態撮影
34	北海道	6	1	帯広農業高等学校	3	0	0	40	43	林内見学
35	北海道	6	1	小学館サイ編集部	0	0	0	4	4	森林取材
36	北海道	6	1	南富良野町立下金山小中学校 P T A	0	0	0	30	30	林内見学
37	北海道	6	2	ニッセイ緑の財団	3	0	0	0	3	林分施業法に関する研究
38	北海道	6	2	北海道大学農学部	0	2	0	0	2	森林施業に関する研究打ち合わせ
39	北海道	6	1	旭川地方裁判所	2	0	0	4	6	林内見学
40	北海道	6	1	富良野市立山部小学校	1	0	0	15	16	自然観察
41	北海道	6	1	帯広畜産大学	2	30	1	0	33	森林の生態と管理
42	北海道	6	2	林木育種センター北海道育種場	3	0	0	16	19	トウヒ属の情報交換及び育種素材見学
43	北海道	6	1	九州大学北海道演習林	2	0	0	0	2	林内見学

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
44	北海道	7	31	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学
45	北海道	7	2	S G S	2	0	0	0	2	森林資源の持続的利用管理についての現地視察
46	北海道	7	3	名古屋大学農学部	1	0	0	0	1	森林土壌調査
47	北海道	7	4	東京都立墨田川高校	9	0	0	0	9	天然林施業法の研修
48	北海道	7	2	三重大学	1	0	0	0	1	北方林の天然林施業
49	北海道	7	1	旭川市立緑が丘小学校	0	0	0	7	7	林内見学
50	北海道	7	1	長野県林業大学校	2	20	0	2	24	天然林の更新と施業
51	北海道	7	2	北海道立林業試験場	2	0	0	0	2	アカエゾマツ主要病害の診断技術の向上
52	北海道	7	1	専修大学北海道短期大学	3	41	0	0	44	天然林施業見学
53	北海道	7	3	札幌市立月寒中学校	0	0	0	18	18	林内の植物観察、植樹
54	北海道	7	2	北海道立林産試験場	0	0	0	2	2	林内見学
55	北海道	7	1	一般	0	0	0	9	9	野草の生態研究
56	北海道	7	4	教育学部附属高校	3	0	0	37	40	森林実習
57	北海道	7	2	海外林業コンサルタンツ協会	0	0	0	4	4	マレーシア複層林カウンターパート研修
58	北海道	7	1	富良野市立麓郷小学校	4	0	0	22	26	大麓山登山
59	北海道	7	1	北海道立林産試験場	0	0	0	10	10	林内施設等見学
60	北海道	7	1	モンタナ大学	0	0	1	1	2	森林経営と野生生物保護
61	北海道	7	3	愛知教育大学	3	23	0	0	26	植物分類学・生態学野外実習
62	北海道	7	2	東京農業大学林学科	0	0	2	0	2	森林の効用の具体的評価
63	北海道	7	2	文学部	3	0	0	0	3	林内見学
64	北海道	7	1	幾寅営林署	20	0	0	0	20	天然林の択伐施業
65	北海道	7	1	東京農業大学生物産業学部	2	17	0	0	19	森林の保全管理
66	北海道	7	3	大阪自然教室の会	0	0	0	2	2	林内見学
67	北海道	7	3	東京家政大学	48	0	0	0	48	自然観察
68	北海道	7	1	聖徳大学短期大学	0	0	0	3	3	林内見学
69	北海道	7	1	物性研究所	2	0	0	0	2	林内見学
70	北海道	8	31	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学
71	北海道	8	2	聖徳大学短期大学	0	0	0	3	3	林内見学
72	北海道	8	1	物性研究所	2	0	0	0	2	林内見学
73	北海道	8	2	工学部	1	0	0	0	1	道路植栽に関する研究
74	北海道	8	1	帯広営林支局	0	0	0	60	60	林内見学
75	北海道	8	5	筑波大学農林学系	1	0	0	0	1	ヤツバキクイムシが伝搬する青変病菌に関する研究
76	北海道	8	3	帝京大学医学部	1	0	0	0	1	シラカンバの花粉症の研究
77	北海道	8	5	農学部	1	0	0	0	1	オサムシ科昆虫の分布・生態の把握
78	北海道	8	3	経理部	1	0	0	0	1	林内見学
79	北海道	8	1	中富良野町教育委員会	5	0	0	60	65	小動物・植物の観察
80	北海道	8	1	富良野市東山公民館	0	0	0	20	20	林内見学
81	北海道	8	3	農学部	1	0	2	1	4	立木の材質調査及び見学
82	北海道	8	1	森林総合研究所北海道支所	1	0	0	0	1	林内見学
83	北海道	8	5	北海道大学農学部	0	6	0	0	6	ヒグマの生態調査
84	北海道	8	1	一般	0	0	0	7	7	林内見学
85	北海道	8	2	北海道大学和歌山地方演習林	1	0	0	2	3	カラマツ採種圃の建設技術等に関する研修
86	北海道	8	2	聖徳大学短期大学	1	0	0	0	1	林内見学
87	北海道	8	3	静岡大学農学部	3	1	2	0	6	周辺林業地の伐採調査

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
88	北海道	8	3	明治大学農学部	1	18	1	0	20	樹木の生育密度調査、樹冠透過光率測定
89	北海道	8	2	緑の地球ネットワーク	1	1	0	20	22	原生林の観察、天然更新択伐造林の見学
90	北海道	8	6	農学部	2	21	2	0	25	林学総合実習
91	北海道	9	30	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学
92	北海道	9	1	森林総合研究所北海道支所	1	0	0	14	15	森林学習会及び林内見学
93	北海道	9	5	農学部	1	1	0	0	2	G P S及びレーザ測距計による森林調査
94	北海道	9	1	鷹栖町森林組合	0	0	0	40	40	林内見学
95	北海道	9	4	北海道大学農学部	0	6	0	0	6	ヒグマの生態調査
96	北海道	9	1	旭川営林支局	2	0	0	14	16	熱帯林保全・造成リーダー養成研修
97	北海道	9	1	北海道大学雨龍地方演習林	2	0	0	38	40	林内見学
98	北海道	9	1	一般	0	0	0	4	4	林内見学
99	北海道	9	1	富良野市山部公民館	0	0	0	35	35	林内見学
100	北海道	9	1	富良野市中央公民館	0	0	0	80	80	林内見学
101	北海道	9	1	札幌テレビ放送	0	0	0	5	5	撮影、取材
102	北海道	9	1	一般	0	0	0	3	3	林内見学
103	北海道	9	1	薬学部	3	0	0	0	3	林内見学
104	北海道	9	2	演習林	2	0	0	0	2	林内視察
105	北海道	9	1	南富良野町教育委員会	0	0	0	50	50	林内見学
106	北海道	9	2	東京農業大学	2	5	0	0	7	天然林施業について
107	北海道	9	2	理学部	1	2	1	0	4	林内地質調査
108	北海道	9	4	北海道大学農学部	0	7	0	0	7	ヒグマの生態調査
109	北海道	9	1	一般	0	0	0	30	30	林内見学
110	北海道	9	2	北海道大学経理部	2	0	0	0	2	施設見学、事務打ち合わせ
111	北海道	9	2	教養学部	0	2	0	0	2	林内見学
112	北海道	9	1	熱帯林再生技術研究組合	0	0	0	22	22	天然林施業及び木材・木質材料の試験研究
113	北海道	9	5	東京農業大学	2	27	0	0	29	林内見学
114	北海道	9	4	教養学部	0	28	0	0	28	教養学部少人数講義
115	北海道	10	31	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学
116	北海道	10	1	和寒高等学校	0	0	0	4	4	林内見学
117	北海道	10	1	上川地区理科研究会	6	10	0	0	16	森林の昆虫観察
118	北海道	10	18	農学部	0	1	0	0	1	機械化間伐作業調査
119	北海道	10	2	教養学部	0	2	0	0	2	林内見学
120	北海道	10	17	住友林業紋別山林事業所	0	0	0	2	2	素材生産作業実験
121	北海道	10	4	農学部	1	0	1	1	3	森林調査
122	北海道	10	2	教養学部	0	2	0	0	2	林内見学
123	北海道	10	4	北海道大学農学部	0	6	0	0	6	ヒグマの生態調査
124	北海道	10	2	放送教育開発センター	2	0	0	0	2	林内見学
125	北海道	10	2	事務局	6	0	0	0	6	林内視察
126	北海道	10	2	生産技術研究所	3	0	0	0	3	林内見学
127	北海道	10	1	箱根山御山組合	0	0	0	20	20	天然林の林分施業法について
128	北海道	10	2	北海道大学法学部	1	0	0	0	1	林内見学
129	北海道	10	1	帯広畜産大学	1	0	0	0	1	チシマザサの寿命測定
130	北海道	10	1	夕張市役所	0	0	0	15	15	林内視察
131	北海道	10	2	千葉大学真核微生物研究センター	2	0	0	0	2	林内見学
132	北海道	10	1	テレビ北海道	0	0	0	10	10	撮影、取材

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
133	北海道	10	3	医科学研究所	1	0	0	0	1	林内見学
134	北海道	10	4	北海道大学農学部	0	6	0	0	6	ヒグマの生態調査
135	北海道	10	6	三重大学農学部	1	0	0	1	2	樹病学の研究
136	北海道	10	5	国際協力事業団	0	0	0	2	2	森林施業計画、施業林視察
137	北海道	10	2	先端科学技術研究センター	2	0	0	0	2	林内見学
138	北海道	10	1	三重大学	2	0	0	0	2	林木育種研究
139	北海道	10	2	庶務部	4	0	0	0	4	監査及び林内視察
140	北海道	10	1	興部道有林管理センター	0	0	0	10	10	天然林施業の維持管理、材木育種の更新
141	北海道	10	1	北海道環境科学センター	2	0	0	0	2	エゾシカ個体数の航空ヘリによるカウント調査の事前調査
142	北海道	10	4	教養学部	0	28	0	0	28	教養学部少人数講義
143	北海道	10	2	北海道教育大学札幌校	3	32	0	0	35	菌類の採集と分類
144	北海道	10	3	北海道大学経済学部	1	17	0	0	18	演習、林内見学
145	北海道	11	30	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学
146	北海道	11	1	庶務部	4	0	0	0	4	監査及び林内視察
147	北海道	11	1	北海道環境科学センター	2	0	0	0	2	エゾシカ個体数の航空ヘリによるカウント調査の事前調査
148	北海道	11	4	北海道大学農学部	0	6	0	0	6	ヒグマの生態研究
149	北海道	11	2	社会情報研究所	1	0	0	0	1	林内見学
150	北海道	11	2	演習林	1	0	0	0	1	林木育種に関する研究
151	北海道	11	2	北海道大学雨龍地方演習林	1	0	0	0	1	林内見学
152	北海道	11	4	筑波大学農林学系	1	0	0	0	1	ヤツバキクイムシに伝搬される青変病菌に病原性について
153	北海道	11	1	旭川営林支局	4	0	0	0	4	現地視察
154	北海道	11	2	国際協力事業団八王子国際研修センター	0	0	0	3	3	林業技術協力事業に係るアルゼンチン国のカウンターパート研修
155	北海道	11	4	北海道大学農学部	0	6	0	0	6	ヒグマの生態調査
156	北海道	11	1	国際協力事業団八王子国際研修センター	0	0	0	4	4	天然林施業研修
157	北海道	11	2	農学部	1	0	0	0	1	機械化間伐作業の検討
158	北海道	11	3	経理部	2	0	0	0	2	監査及び林内視察
159	北海道	11	2	経理部	2	0	0	0	2	調査及び林内視察
160	北海道	12	31	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学
161	北海道	12	1	北海道林務部	2	0	0	0	2	北海道の林業機械化進展の意見交換
162	北海道	1	31	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学
163	北海道	1	2	農学部附属牧場	2	0	0	0	2	林内見学
164	北海道	1	1	林野庁	0	0	0	5	5	天然林施業の研修
165	北海道	2	29	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学
166	北海道	2	4	愛知演習林	1	1	0	0	2	量水観測機器更新のための予備調査
167	北海道	2	3	北海道環境科学研究センター	2	0	0	0	2	エゾシカのヘリコプター調査に係る現地視察及び調査地打ち合わせ
168	北海道	2	4	農学部	1	0	0	0	1	G P Sによる林地測位
169	北海道	2	2	北海道大学演習林	11	0	0	0	11	森林利用技術の検討
170	北海道	2	2	北海道大学大学院環境科学研究科	0	2	1	1	4	林内の鳥類観察
171	北海道	2	3	経理部	3	0	0	0	3	林内各施設等調査
172	北海道	2	2	東京大学名誉教授	1	0	0	0	1	林分施業法に関する研究
173	北海道	2	3	北海道環境科学研究センター	0	0	0	36	36	エゾシカの生息数調査
174	北海道	3	31	農学部	0	0	1	0	1	森林利用学

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
175	北海道	3	2	北海道大学電子科学研究所	4	0	10	0	14	林内見学
176	北海道	3	2	旭川財務事務所	0	0	0	12	12	国有財産視察
177	北海道	3	2	社会情報研究所	1	0	0	0	1	事務打ち合わせ
178	北海道	3	2	原子核研究所	3	0	0	0	3	事務打ち合わせ
179	北海道	3	2	医科学研究所	3	0	0	0	3	事務打ち合わせ
180	北海道	3	1	森林総合研究所	3	0	0	0	3	天然林施業技術の検討
181	北海道	3	1	岩手大学演習林	2	0	0	0	2	事務打ち合わせ
182	北海道	3	11	演習林	1	0	0	0	1	管理事務打ち合わせ
183	北海道	3	1	富良野自然に親しむ会	3	0	0	40	43	林内見学
184	北海道	3	2	千葉演習林	1	0	0	0	1	管理事務打ち合わせ
185	北海道	3	2	生産技術研究所	3	0	0	0	3	事務打ち合わせ
186	北海道	3	1	北海道新聞社富良野支局	0	0	0	1	1	林内見学
187	北海道	3	1	施設部	3	0	0	0	3	施設事務打ち合わせ
188	北海道	3	1	北海道大学演習林	2	0	0	0	2	事務打ち合わせ
189	北海道	3	10	北海道大学農学部	0	8	0	0	8	ヒグマの生態調査
190	北海道	3	2	林業経済研究所	0	0	0	1	1	天然林施業に関する研究
191	北海道	3	3	森林総合研究所北海道支所	0	0	0	2	2	ヤツバキクイムシ及びエゾマツ虫害木の研究打ち合わせ
計					309	430	47	1182	1968	

3 秩父演習林

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
1	秩父	4	7	東京大学森林動物	0	0	1	0	1	ツキノワグマ調査
2	秩父	4	2	東京大学森林動物	0	2	1	0	3	ツキノワグマ調査
3	秩父	4	1	埼玉県郷土緑化推進委員会	0	0	0	1	1	節分草の観察
4	秩父	4	9	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ツキノワグマ調査
5	秩父	4	2	埼玉県林業試験場	0	0	0	3	3	環境保全と緑化に関する研究
6	秩父	4	3	東京医科歯科大学教養部	1	3	1	0	5	環境と鳥類内分泌調査
7	秩父	4	1	東京大学林学科	0	1	0	1	2	ネズミ類の調査
8	秩父	4	2	東京大学林学科	2	0	0	0	2	森林土木学実習下見
9	秩父	4	3	東京大学林学科	0	0	1	0	1	モミの外生菌根に関する研究
10	秩父	4	4	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナの適応的変異の研究
11	秩父	4	2	東京大学林学科	0	0	1	0	1	冷温帯林ギャップにおける森林更新様式の研究
12	秩父	4	4	東京大学林学科	0	0	2	0	2	ブナ類の実生による更新について
13	秩父	4	1	東京大学林学科	1	0	0	3	4	腐朽木の調査、立木状態での電気抵抗測定と伐倒調査
14	秩父	4	3	武蔵大学人文学科	3	4	0	0	7	生物学実験、野外実習
15	秩父	4	4	東京大学林学科	0	12	2	0	14	森林土木学実習
16	秩父	4	3	東京大学林学科	2	0	0	0	2	森林土木学実習
17	秩父	4	2	東京大学林学科	1	0	0	0	1	森林土木学実習
18	秩父	4	2	埼玉昆虫談話会	0	0	0	2	2	埼玉県昆虫誌作成のための昆虫採集
19	秩父	5	2	浜松医科大学動物実験施設	0	2	1	0	3	鳥類センサス
20	秩父	5	5	東京大学森林動物	0	3	2	0	5	ツキノワグマの生態調査
21	秩父	5	7	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナ類の更新についての研究

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
22	秩父	5	4	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナの適応的変異の研究
23	秩父	5	1	日本女子大生物学科	0	0	1	2	3	ネズミ類調査の下見
24	秩父	5	11	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ類の調査
25	秩父	5	2	埼玉県林業試験場	0	0	0	3	3	環境保全と緑化に関する研究
26	秩父	5	5	東京大学林学科	0	0	1	0	1	モミの外生菌根に関する研究
27	秩父	5	3	東京大学林学科	0	1	0	0	1	クマの調査
28	秩父	5	3	埼玉県高等学校体育連盟	20	0	0	300	320	埼玉県高等学校生徒登山大会
29	秩父	5	13	東京大学森林動物	0	0	1	0	1	ツキノワグマ調査
30	秩父	5	5	東京大学千葉演習林	1	0	0	0	1	国道140号自然環境調査
31	秩父	5	3	東京医科歯科大学教養部	1	3	1	0	5	環境と鳥類内分泌調査
32	秩父	5	4	東京大学林学科	0	0	1	0	1	冷温帯林ギャップにおける森林更新様式の研究
33	秩父	5	1	埼玉県立自然史博物館	11	0	3	20	34	日本土壤動物学会第18回大会のエクスカージョンでの視察
34	秩父	5	1	東京大学林学科	0	0	5	0	5	国道140号自然環境調査水質調査
35	秩父	5	2	東京大学森林動物	1	0	0	3	4	秩父山地天然生林の節足動物調査
36	秩父	5	3	東京大学森林動物	0	0	0	4	4	秩父山地天然生林の節足動物調査
37	秩父	5	3	千葉大学理学部生物科	0	0	1	0	1	ブナ、ツガ、イヌブナ林調査
38	秩父	5	1	秩父愛鳥会	0	0	0	29	29	自然観察会
39	秩父	5	1	東京大学大学院理学系研究科	2	0	0	0	2	野外実習打ち合わせ
40	秩父	5	2	東京大学演習林	1	0	0	0	1	事務打ち合わせ、施設調査
41	秩父	6	7	東京大学林学科	0	0	1	0	1	モミの外生菌根に関する研究
42	秩父	6	2	東京農業大学造園学科	1	0	0	15	16	林学再研修並びに樹木視察
43	秩父	6	2	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナの適応的変異の研究
44	秩父	6	1	東京大学林学科	0	1	6	1	8	ブナの適応的変異の研究
45	秩父	6	16	東京大学森林動物	0	0	1	0	1	ツキノワグマ調査
46	秩父	6	5	東京大学森林動物	0	2	1	0	3	ツキノワグマ調査
47	秩父	6	3	愛知演習林	1	0	0	0	1	量水施設の巡回と点検
48	秩父	6	1	東京大学林産学科	1	0	0	1	2	形成層から分裂した直後の一次壁しか持たない細胞を集め、その細胞壁中のセルロースの個体構造調査
49	秩父	6	3	埼玉県林業試験場	0	0	0	3	3	環境保全と緑化に関する研究
50	秩父	6	3	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ類の調査
51	秩父	6	6	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ類の調査
52	秩父	6	6	東京大学林学科	0	0	1	0	1	冷温帯林ギャップにおける森林更新様式の研究
53	秩父	6	6	東京医科歯科大学教養部	1	3	1	0	5	環境と鳥類内分泌調査
54	秩父	6	1	秩父市中央公民館	0	0	0	10	10	原生林および人工林の学習
55	秩父	6	2	東京大学林学科	2	0	0	0	2	森林利用学実習準備
56	秩父	6	3	東京大学林学科	2	0	0	0	2	森林動物学実習下見
57	秩父	6	2	東京大学愛知演習林	2	0	1	0	3	水文観測
58	秩父	6	3	東京大学農学部、理学部、生産技研他	16	0	0	0	16	平成7年度東京大学教室系技術職員研修
59	秩父	6	3	東京大学林学科	1	0	0	0	1	平成7年度東京大学教室系技術職員研修
60	秩父	6	2	農学部森林科学専攻	1	0	0	0	1	平成7年度東京大学教室系技術職員研修
61	秩父	6	2	新潟県林業試験場	0	0	0	2	2	ブナ属樹木の開花結実習性研究
62	秩父	6	1	テレビ朝日	0	0	0	3	3	キツツキについて取材
63	秩父	6	1	野生動物保護管理事務所	0	0	0	1	1	シカ調査
64	秩父	6	1	(財)森林文化協会	0	0	0	1	1	朝日グリーンセミナーの現地下見

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
65	秩父	6	4	国際基督教大学理学科	0	24	0	2	26	植物野外実習
66	秩父	6	4	国際基督教大学理学科	3	0	0	0	3	植物野外実習
67	秩父	6	2	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナ類の天然更新の研究
68	秩父	7	7	野生動物保護管理事務所	0	0	0	6	6	ニホンジカ生捕調査
69	秩父	7	3	東京大学林学科	2	0	0	0	2	森林利用学実験
70	秩父	7	3	東京大学林学科	0	28	2	0	30	森林利用学実験
71	秩父	7	2	東京大学森林動物	0	0	1	0	1	クマ調査
72	秩父	7	6	東京大学林学科	0	0	1	0	1	モミの外生菌根に関する研究
73	秩父	7	4	東京大学林学科	2	0	0	0	2	森林植物学実験
74	秩父	7	4	東京大学林学科	0	26	5	0	31	森林植物学実験
75	秩父	7	7	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ類の調査
76	秩父	7	1	東京大学林学科	0	1	0	1	2	ネズミ類の調査
77	秩父	7	1	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ類の調査
78	秩父	7	3	東京大学林学科	0	1	2	0	3	ブナ類の天然更新
79	秩父	7	2	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ類の調査見学
80	秩父	7	5	東洋工学専門学校	0	1	0	0	1	クマ調査
81	秩父	7	3	東京大学林学科	0	1	0	0	1	クマ調査
82	秩父	7	5	東京大学林学科	0	1	0	0	1	クマ調査
83	秩父	7	3	東京大学林学科	0	0	1	0	1	冷温帯林ギャップにおける森林更新様式の研究
84	秩父	7	1	筑波大学応用生物科学系	3	4	9	0	16	森林土壌調査実験
85	秩父	7	1	農学生命科学	3	0	18	0	21	秩父演習林の動物植物相に関する研修
86	秩父	7	3	東京大学林学科	2	0	0	0	2	森林動物学実験
87	秩父	7	3	東京大学林学科	0	30	3	2	35	森林動物学実験
88	秩父	7	4	東京大学農学生命科学	1	2	0	1	4	秩父山地天然林における樹上節足動物調査
89	秩父	7	1	埼玉県林業試験場	0	0	0	3	3	環境保全と緑化に関する研究
90	秩父	7	2	東京大学林学科	0	0	2	0	2	国道140号自然環境調査水質調査
91	秩父	7	1	東京大学林学科	0	0	2	0	2	ブナの適応的変異の研究
92	秩父	7	2	東京大学林学科	1	0	1	0	2	森林景観データ記録打ち合わせ
93	秩父	7	5	東京大学千葉演習林	1	0	0	0	1	国道140号自然環境調査
94	秩父	7	4	東京大学林学科	2	0	0	0	2	森林土壌学実験
95	秩父	7	4	東京大学林学科	0	27	2	0	29	森林土壌学実験
96	秩父	7	3	東京医科歯科大学	1	3	1	0	5	ウグイスの捕獲
97	秩父	7	3	東京農業大学	3	25	3	0	31	冷温帯生樹木の分類学習
98	秩父	8	1	大滝村立大滝小学校	0	0	0	11	11	演習林見学
99	秩父	8	7	東京大学林学科	0	0	1	0	1	モミの外生菌根に関する研究
100	秩父	8	2	埼玉県林業試験場	0	0	0	3	3	環境保全と緑化に関する研究
101	秩父	8	2	埼玉県立秩父農工高等学校	2	0	0	40	42	樹木実習
102	秩父	8	7	東京大学林学科	0	0	1	0	1	冷温帯林ギャップにおける森林更新様式の研究
103	秩父	8	6	東京医科歯科大学	1	3	1	0	5	環境と鳥類内分泌調査
104	秩父	8	7	東京大学森林動物	0	0	1	0	1	ツキノワグマの生態調査
105	秩父	8	10	東京大学森林動物	0	1	1	0	2	ツキノワグマの生態調査
106	秩父	8	2	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナ類の天然更新調査
107	秩父	8	6	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ類の調査
108	秩父	8	2	房総の自然研究会	1	0	0	5	6	無脊椎動物、植物の観察、採集
109	秩父	8	14	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ツキノワグマの生態調査

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
110	秩父	8	9	東洋工学専門学校	0	1	0	0	1	クマの生態調査
111	秩父	8	1	埼玉県生態系保護協会	0	0	0	25	25	植物観察会
112	秩父	8	1	東京農工大学農学部地域生態システム学科	1	1	1	0	3	林地温度センサーの撤去
113	秩父	8	3	東京大学愛知演習林	1	0	0	0	1	トウバク沢水文観測装置取付
114	秩父	8	2	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナの適応的変異の研究
115	秩父	8	1	森林文化協会	0	0	0	86	86	朝日グリーンセミナー
116	秩父	9	1	NHKエドスケーション	0	0	0	4	4	理科教育ビデオ教材及び理科取材
117	秩父	9	5	千葉大学理学部生物生態研	0	0	1	0	1	ブナ、ツガ、イヌブナ林調査
118	秩父	9	11	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ類の調査
119	秩父	9	6	野生動物保護管理事務所	0	0	0	5	5	ニホンジカ発信器装着、個体の追跡生息環境調査
120	秩父	9	2	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナ類の天然更新
121	秩父	9	6	東京大学林学科	0	0	1	0	1	モミの外生菌根に関する研究
122	秩父	9	3	立教大学理学部	2	16	0	0	18	博物館実習
123	秩父	9	3	立教大学理学部	2	15	0	0	17	博物館実習
124	秩父	9	1	東京大学林学科	1	0	0	0	1	国道140号自然環境調査
125	秩父	9	4	東京大学林学科	1	0	2	0	3	日本学術振興会招へい事業による研究者演習林見学
126	秩父	9	3	東京大学林学科	1	0	1	0	2	地理情報システムと樹木成長モデルを用いた森林景観予測システムの開発
127	秩父	9	3	東京大学林学科	1	1	1	0	3	地理情報システムと樹木成長モデルを用いた森林景観予測システムの開発
128	秩父	9	9	東京大学林学科	0	0	1	0	1	冷温帯林ギャップにおける森林更新様式の研究
129	秩父	9	1	埼玉県林業試験場	0	0	0	3	3	環境保全と緑化に関する研究
130	秩父	9	2	東京大学林学科	0	0	1	0	1	シャクジョウソウ科植物の生活史の研究
131	秩父	9	7	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナの適応的変異の研究
132	秩父	9	1	東京大学林学科	1	0	1	0	2	国道140号自然環境調査水質調査
133	秩父	9	12	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ツキノワグマの生態調査
134	秩父	9	2	埼玉昆虫談話会	0	0	0	2	2	昆虫類の調査
135	秩父	9	5	理学部植物学教室	3	12	0	0	15	生態学野外実習
136	秩父	9	1	東京大学林学科	1	0	0	0	1	国道140号自然環境調査
137	秩父	9	3	東京医科歯科大学教養部	1	3	1	0	5	環境と鳥類内分泌調査
138	秩父	9	5	東京大学千葉演習林	1	0	0	0	1	国道140号自然環境調査
139	秩父	9	4	東京医科歯科大学大学院	2	0	0	0	2	ヒミズ、ヒメヒミズの採集
140	秩父	9	2	東京大学林学科	3	2	0	0	5	国道140号自然環境調査
141	秩父	9	2	東京大学林学科	1	0	1	0	2	地理情報システムと樹木成長モデルを用いた森林景観予測システムの開発
142	秩父	9	2	東洋工学専門学校	0	0	0	1	1	クマ調査
143	秩父	10	2	埼玉県林業試験場	0	0	0	4	4	環境保全と緑化に関する研究
144	秩父	10	4	東京大学林学科	1	0	1	0	2	モミの外生菌根に関する研究
145	秩父	10	3	東京大学林学科	0	0	1	0	1	モミの外生菌根に関する研究
146	秩父	10	8	東京大学林学科	0	0	1	0	1	冷温帯林ギャップにおける森林更新様式の研究
147	秩父	10	5	東京大学森林生態社会学	1	0	1	0	2	地理情報システムと樹木成長モデルを用いた森林景観予測システムの開発
148	秩父	10	2	東京大学森林生態社会学	0	0	1	0	1	地理情報システムと樹木成長モデルを用いた森林景観予測システムの開発
149	秩父	10	17	東京大学森林生態社会学	0	0	1	0	1	地理情報システムと樹木成長モデルを用いた森林景観予測システムの開発
150	秩父	10	1	東京大学森林生態社会学	1	1	0	0	2	地理情報システムと樹木成長モデルを用いた森林景観予測システムの開発

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
151	秩父	10	1	東京大学森林生態社会学	1	0	0	3	4	地理情報システムと樹木成長モデルを用いた森林景観予測システムの開発
152	秩父	10	2	東京大学森林生態社会学	3	0	1	2	6	地理情報システムと樹木成長モデルを用いた森林景観予測システムの開発
153	秩父	10	7	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナの適応的変異の研究
154	秩父	10	1	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ヒノキ遺伝的変異の分析
155	秩父	10	15	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ類の調査
156	秩父	10	15	東京大学森林動物	0	0	1	0	1	ミズナラの調査及びクマ調査
157	秩父	10	4	東京大学林学科	0	1	0	0	1	クマの調査
158	秩父	10	4	千葉大学理学部生物生態研	0	0	1	0	1	ブナ、ツガ、イヌブナ林調査
159	秩父	10	4	東京大学林学科	0	1	0	0	1	入川林道法面調査
160	秩父	10	2	東京大学森林動物	1	0	3	0	4	ブナ、イヌブナ林動物調査
161	秩父	10	1	埼玉県立自然史博物館	6	1	1	10	18	花粉化石群の解析のための現植生の学習
162	秩父	10	3	野生動物保護管理事務所	0	0	0	3	3	ニホンジカ生態調査
163	秩父	10	2	東京大学林学科	1	0	1	0	2	溪流の落葉調査
164	秩父	10	2	東京大学林学科	1	0	1	0	2	溪流の落葉調査
165	秩父	10	2	東京大学林学科	1	0	0	0	1	溪流の落葉調査
166	秩父	10	3	東京大学林学科	2	2	2	0	6	入川林道法面調査、140号ワサビ沢測量
167	秩父	10	2	東京大学林学科	1	1	0	0	2	スギ高齡林の施業に関する研究
168	秩父	10	3	東京医科歯科大学教養部	0	3	1	0	4	ウグイスの捕獲
169	秩父	10	2	東京大学庶務部	6	0	0	0	6	給与簿監査
170	秩父	10	3	井上重治	0	0	0	2	2	樹の観察
171	秩父	10	2	三重大学生物資源学部森林育成学	0	1	1	0	2	植生調査
172	秩父	10	2	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナ類の天然更新
173	秩父	10	1	東京大学林学科	0	0	3	1	4	国道140号自然環境調査水質調査
174	秩父	11	11	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ類の調査
175	秩父	11	8	東京大学林学科	0	0	1	0	1	冷温帯林ギャップにおける森林更新様式の研究
176	秩父	11	1	大滝村立大滝小学校	2	0	0	8	10	樹木園見学
177	秩父	11	4	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナの適応的変異の研究
178	秩父	11	2	東京大学害虫学研究室	3	3	8	2	16	研究室の研究中間発表会と演習林見学
179	秩父	11	3	東京大学林学科	0	0	1	0	1	ブナ類の天然更新
180	秩父	11	4	東京大学林学科	0	0	1	0	1	森林景観観測
181	秩父	11	1	東京大学林学科	1	0	1	0	2	森林景観観測
182	秩父	11	3	東邦大学理学部	1	2	1	0	4	イヌブナ堅果の落下量調査及び堅果の採取
183	秩父	11	2	アジア生物資源環境研究センター	3	0	0	0	3	国道140号調査
184	秩父	11	3	東京大学林学科	0	0	1	0	1	モミの外生菌根に関する研究
185	秩父	11	2	埼玉県林業試験場	0	0	0	3	3	環境保全と緑化に関する研究
186	秩父	11	2	東京大学経理部	3	0	0	0	3	会計監査
187	秩父	11	4	東京大学林学科	2	4	1	0	7	成長試験地の調査
188	秩父	11	2	東京大学林学科	1	0	0	0	1	成長試験地の調査
189	秩父	11	1	千葉大学理学部生物生態研	0	0	2	0	2	ブナ、ツガ、イヌブナ林調査
190	秩父	11	3	東京医科歯科大学大学院	2	0	0	1	3	ヒミズ(モグラ科)の分布調査
191	秩父	11	4	東京大学林学科	0	1	0	0	1	クマ調査
192	秩父	12	5	野生動物保護管理事務所	0	0	0	4	4	ニホンジカ生態調査
193	秩父	12	1	(株)セプリ総研	0	0	0	5	5	ビデオ「微生物とバイオ」製作のための編集素材の撮影

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
194	秩父	12	2	東洋工学専門学校建築工コ ロジ-科	0	0	0	1	1	クマ調査
195	秩父	12	2	演習林研究部	2	0	1	0	3	トウバク沢現状調査と遺伝分析資料の採取
196	秩父	12	1	東京大学林学科	0	0	0	1	1	国道140号自然環境調査水質調査
197	秩父	12	1	埼玉県林業試験場	0	0	0	3	3	環境保全と緑化に関する研究
198	秩父	12	4	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ類の調査
199	秩父	12	3	東京大学林学科	3	1	3	0	7	タワーヤーダけん引張力測定ほか
200	秩父	12	2	東京大学林学科	0	1	0	0	1	タワーヤーダけん引張力測定ほか
201	秩父	12	1	東京大学森林生態社会学	1	0	1	0	2	森林景観モニタリング
202	秩父	1	2	演習林研究部	1	0	1	0	2	ヒノキ人工林遺伝子調査
203	秩父	1	4	東京大学森林動物	0	0	1	0	1	クマ調査
204	秩父	1	2	愛知演習林	1	0	0	0	1	久度沢水位計更新水文観測の打ち合わせ
205	秩父	1	1	東京大学林学科	0	1	2	1	4	国道140号自然環境調査水質調査、採水
206	秩父	1	1	林業機械化協会	0	0	0	5	5	林業機械(半脚式伐倒機)のテスト地として 現地調査
207	秩父	2	3	野生動物保護管理事務所	0	0	0	2	2	ニホンジカ生態調査
208	秩父	2	2	東京大学林学科	1	0	1	0	2	国道140号自然環境調査
209	秩父	2	1	東京大学森林生態社会学	1	0	1	0	2	国道140号自然環境調査
210	秩父	3	2	北海道演習林	1	0	0	0	1	自然環境調査及び林内視察
211	秩父	3	3	東京大学森林生態社会学	1	0	1	0	2	国道140号自然環境調査景観解析
212	秩父	3	2	東京医科歯科大学教養部	1	2	1	0	4	ウグイスの捕獲
213	秩父	3	2	東京医科歯科大学教養部	0	2	1	0	3	ウグイスの捕獲
214	秩父	3	1	千葉大学理学部生物生態研	0	0	1	0	1	ブナ、ツガ、イヌブナ林調査打ち合わせ
215	秩父	3	3	東京大学林学科	0	1	0	0	1	ネズミ用トラップ回収
216	秩父	3	6	野生動物保護管理事務所	0	0	0	2	2	ニホンジカ生態調査
217	秩父	3	2	メイン州立大学野生生物生 態学科	2	0	1	0	3	動物調査見学等
218	秩父	3	2	東京大学史料編纂所	2	0	0	0	2	秩父演習林施設見学
219	秩父	3	1	東邦大学理学部	1	0	0	0	1	イヌブナとブナの実生の初期成長
220	秩父	3	1	東京大学林学科	0	1	1	0	2	モミの外生菌根に関する研究
221	秩父	3	2	東京大学経理部	3	0	0	0	3	金庫検査及び立ち会い
計					191	309	178	671	1349	

4 富士演習林

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
1	富士	4	3	演習林	4	0	0	0	4	ブナ人工林の施業に関する研究
2	富士	4	1	東邦大学理学部	1	2	0	0	3	ブナ植栽林における実生の生存と生長
3	富士	5	1	渋谷区教育委員会	52	0	0	407	459	樹木観察
4	富士	5	1	演習林	1	0	1	0	2	ミズナラ試験地調査
5	富士	5	1	早生田大学高等学院	10	0	0	200	210	樹木観察
6	富士	5	1	奏野ネイチャーウォッチングクラブ	0	0	0	8	8	樹木観察
7	富士	5	1	山中湖平野保育園	9	0	0	64	73	野外保育学習
8	富士	6	1	渋谷区教育委員会	102	0	0	694	796	自然観察
9	富士	6	1	演習林	1	0	0	0	1	ブナ実生調査
10	富士	6	1	東邦大学理学部	0	2	0	0	2	ブナ植栽における実勢の生存と生長

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
11	富士	6	1	川崎市立塚越中学校	18	0	0	230	248	自然教室
12	富士	6	1	森とむらの会	2	0	0	20	22	植生とその沿革の観察
13	富士	6	2	風致	3	6	2	0	11	実習
14	富士	7	1	青葉学園幼稚園	22	0	0	97	119	自然観察
15	富士	7	1	渋谷幼稚園	16	0	0	41	57	自然観察
16	富士	7	1	東京丸山学園丸山幼稚園	21	0	0	99	120	自然観察
17	富士	7	1	渋谷区教育委員会	38	0	0	368	406	自然観察
18	富士	7	1	妻野ネイチャ - ウォッチングクラブ	0	0	0	3	3	環境庁セミ観察調査619
19	富士	7	1	八幡幼稚園	18	0	0	93	111	自然観察
20	富士	7	3	演習林	1	0	0	0	1	鳥類調査
21	富士	7	10	馬術部	40	0	0	0	40	合宿
22	富士	8	1	渋谷区教育委員会	41	0	0	355	396	自然観察
23	富士	8	1	東京丸山学園丸山幼稚園	18	0	0	112	130	自然観察
24	富士	8	1	(材)日本児童家族文化協会	0	0	0	180	180	自然観察
25	富士	8	22	馬術部	0	40	0	0	40	合宿
26	富士	9	8	工学部土木工業科	10	58	0	0	68	測量学授業
27	富士	9	7	東邦大学理学部	1	2	0	0	3	ブナ植栽林におけるネズミ個体数の変動
28	富士	9	3	演習林	2	0	0	0	2	光量子センサ - 設置
29	富士	10	1	東邦大学理学部	1	2	0	0	3	ブナ植栽林におけるネズミ個体数の変動
30	富士	11	2	演習林	3	0	0	0	3	研修
31	富士	11	2	東邦大学理学部	1	2	0	0	3	ブナ植栽林におけるネズミ個体数の変動
32	富士	12	7	東邦大学理学部	0	2	0	0	2	ブナ植栽林におけるネズミ個体数の変動
33	富士	2	1	東邦大学理学部	1	0	0	0	1	研究打ち合せ
34	富士	2	3	演習林	2	0	0	0	2	研修
35	富士	2	1	北海道立植物遺伝資源センター	1	0	0	0	1	見学
36	富士	3	2	演習林	1	0	0	0	1	研修
計					441	116	3	2971	3531	

5 愛知演習林

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
1	愛知	4	2	砂防	0	0	1	0	1	ライシメータ観測
2	愛知	4	1	東京農工大学	1	0	3	1	5	酸性雨が森林生態系に及ぼす影響
3	愛知	4	1	林業を体験する会	0	0	0	6	6	ヒノキ植栽体験
4	愛知	4	2	砂防	0	0	1	0	1	ライシメータ観測
5	愛知	4	4	千葉大学理学部	1	1	0	0	2	降雨実験による斜面浸透形態の比較
6	愛知	4	1	砂防	0	0	1	0	1	ライシメータ観測
7	愛知	5	1	砂防	1	0	0	1	2	利用研究会議
8	愛知	5	3	砂防	0	0	2	0	2	ライシメータ観測
9	愛知	5	2	筑波大学地球科学系	1	0	0	0	1	利用研究会議
10	愛知	5	2	千葉大学理学部	1	0	0	0	1	利用研究会議
11	愛知	5	2	名古屋大学農学部	2	0	0	0	2	利用研究会議

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
12	愛知	5	2	東京農業大学農学部	1	1	1	0	3	利用研究会議
13	愛知	5	2	森林風致計画学	3	0	12	0	15	森林レクリエーション利用計画のための現地調査
14	愛知	6	3	森林理水及び砂防工学	1	11	0	0	12	砂防工学実習
15	愛知	6	2	演習林	3	0	0	0	3	打ち合わせ
16	愛知	6	1	名古屋大学	2	0	2	0	4	森林土壌調査
17	愛知	6	2	砂防	0	0	1	0	1	ライシメータ観測
18	愛知	6	1	名古屋大学	2	23	0	0	25	森林土壌調査
19	愛知	7	4	静岡大学農学部	1	3	0	0	4	花崗岩斜面における土層構造と土壌物理性について
20	愛知	7	1	名古屋大学農学部	2	1	1	0	4	森林水文観測
21	愛知	8	4	東京農業大学農学部	0	0	1	0	1	試験地視察
22	愛知	8	2	砂防	0	0	1	0	1	ライシメータ観測
23	愛知	8	5	千葉大学理学部	2	16	4	0	22	水文科学実験
24	愛知	8	4	名古屋大学農学部	6	2	7	0	15	森林水文観測
25	愛知	8	3	東京都立大学理学部	2	7	0	0	9	森林水文観測施設の見学
26	愛知	8	3	東京農業大学農学部	1	18	0	0	19	森林の効用に関する実習
27	愛知	9	8	砂防	0	0	4	0	4	ライシメータの観測
28	愛知	9	7	東京農業大学農学部	0	0	2	0	2	土壌分析調査
29	愛知	9	1	愛知教育大学総合科学	1	14	0	0	15	水文学野外実習の巡検（水文観測施設等の見学）
30	愛知	9	2	名古屋大学農学部	4	3	3	0	10	森林水文観測
31	愛知	9	1	演習林	1	0	0	0	1	事務打ち合わせ
32	愛知	9	1	名古屋大学農学部	1	0	1	0	2	マツ枯損木の調査（マツクイムシ寄生蜂の調査）
33	愛知	9	13	千葉大学理学部	1	0	0	0	1	降雨実験による斜面浸透形態の比較
34	愛知	10	8	名古屋大学農学部	6	7	4	0	17	森林水文観測
35	愛知	10	7	砂防	0	1	3	0	4	ライシメータの観測
36	愛知	10	1	市民団体	1	0	0	9	10	試験地見学とゼミナール
37	愛知	10	3	東京農業大学農学部	0	0	1	0	1	土壌分析測定
38	愛知	10	6	砂防	1	31	2	0	34	測量学実習
39	愛知	10	15	千葉大学理学部	0	1	0	0	1	水文試験
40	愛知	10	1	市民団体	0	0	0	10	10	量水試験地見学及び自然観察実習
41	愛知	10	1	名古屋大学農学部	1	0	2	0	3	マツ枯損木調査（マツクイムシ寄生蜂の調査）
42	愛知	11	1	砂防	1	0	1	0	2	気象観測露場の環境の変化についての資料収集
43	愛知	11	8	名古屋大学農学部	5	7	5	0	17	森林水文観測
44	愛知	11	4	東京農工大学農学部	3	0	8	0	11	森林利用学特論
45	愛知	11	10	砂防	0	3	5	0	8	ライシメータの観測
46	愛知	11	3	国際協力事業団東京国際センター	0	0	0	2	2	水文試験，土壌浸食試験の研修
47	愛知	11	2	秩父演習林	2	0	0	0	2	造林試験資料収集
48	愛知	12	3	砂防	0	0	1	0	1	ライシメータの観測
49	愛知	12	2	東京大学事務局	3	0	0	0	3	東大会計監査実施規定第7条に基づく会計実地監査
50	愛知	12	2	演習林	1	0	0	0	1	同上における立ち会い
51	愛知	12	5	東京農業大学農学部	0	0	1	0	1	土壌の分析
52	愛知	12	1	名古屋大学農学部	2	2	2	0	6	森林水文観測
53	愛知	12	2	東京農業大学農学部	1	6	0	0	7	科研総合A研究打ち合わせ
54	愛知	12	2	京都大学農学部	2	0	3	0	5	同上

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
55	愛知	12	2	千葉大学農学部	1	0	0	0	1	同上
56	愛知	1	1	名古屋大学農学部	2	6	0	0	8	森林水文観測
57	愛知	1	3	静岡大学農学部	1	3	0	0	4	花崗岩斜面における土層構造と土壤物理生について
58	愛知	2	1	名古屋大学農学部	1	1	0	0	2	森林水文観測
59	愛知	2	1	緑地植物実験所	2	0	0	0	2	事務打ち合わせ
60	愛知	2	1	通産省工業技術研究所	0	0	0	3	3	林内の樹木周辺の土壌溶液の採取分析
61	愛知	2	5	東京農業大学	0	0	1	0	1	土壌分析
62	愛知	3	7	名古屋大学農学部	2	14	0	0	16	測量学実習
63	愛知	3	2	森林風致計画学	3	0	9	0	12	大学院「風致工学」成果の報告
64	愛知	3	1	砂防	1	0	0	1	2	森林水文観測施設の視察
65	愛知	3	3	名古屋大学農学部	0	0	1	0	1	水文観測
66	愛知	3	4	演習林	3	0	0	0	3	庶務，会計事務打ち合わせ
67	愛知	3	2	秩父演習林	1	0	0	0	1	施業等打ち合わせ
68	愛知	3	2	事務局	3	0	0	0	3	年度末における金庫検査
計					90	182	97	33	402	

6 樹芸研究所

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
1	樹芸	4	1	一般見学者	0	0	0	16	16	温室見学
2	樹芸	4	2	静岡県植物群落同好会	1	0	0	0	1	樹芸研究所植物群落リスト作成の為の調査
3	樹芸	4	2	演習林	1	0	0	0	1	青野試験林林道網計画策定の為現地調査と検討・打合
4	樹芸	4	1	農学生命科学研究科 造林	0	0	1	0	1	養土の違いがフタバガキ科樹木の芽生の成長におよぼす影響調査
5	樹芸	4	1	農学生命科学研究科 造林	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の造林・増殖に関する研究
6	樹芸	5	1	一般見学者	0	0	0	25	25	温室見学
7	樹芸	5	1	静岡県植物群落同好会	1	0	0	0	1	樹芸研究所植物群落リスト作成の為の調査
8	樹芸	5	2	農学部	40	0	0	0	40	学科主任・附属施設長合同会議
9	樹芸	5	2	静岡県植物群落同好会	8	0	0	0	8	樹芸研究所植物群落リスト作成の為の調査
10	樹芸	5	1	伊豆野鳥愛好会	3	0	0	0	3	野鳥観察
11	樹芸	5	1	千葉大学理学部地球科学科	3	0	0	0	3	中新世化石と現生植物の比較研究 スイショウについて
12	樹芸	6	1	一般見学者	0	0	0	41	41	温室見学
13	樹芸	6	1	農学生命科学研究科 造林	0	0	1	0	1	養土の違いがフタバガキ科樹木の芽生の成長におよぼす影響調査
14	樹芸	6	1	演習林	0	0	1	0	1	ヒノキの遺伝力に関する研究
15	樹芸	6	1	静岡県植物群落同好会	1	0	0	0	1	樹芸研究所植物群落リスト作成の為の調査
16	樹芸	6	1	鹿目佳代子	0	0	0	1	1	絵本創作のため、ユーカリ林等の見学
17	樹芸	7	1	一般見学者	0	0	0	25	25	温室見学
18	樹芸	7	1	二宮果樹園	3	0	0	0	3	温室施設見学と施設栽培の研修
19	樹芸	7	1	横浜国立大学環境科学センター	0	3	0	0	3	トゥルースデーターを利用した緑環境の解析に関する研究
20	樹芸	7	1	農学生命科学研究科 造林	0	0	1	0	1	養土の違いがフタバガキ科樹木の芽生の成長におよぼす影響調査
21	樹芸	7	1	農学生命科学研究科 造林	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の挿木に関する研究
22	樹芸	7	6	静岡県立下田南高校南伊豆分校	0	2	0	0	2	園芸科学生の現場実習
23	樹芸	8	1	一般見学者	0	0	0	26	26	温室見学

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
24	樹芸	8	1	農学生命科学研究科 造林	0	0	1	0	1	クスノキ苗の光質別処理に対する反応調査
25	樹芸	8	1	横浜国立大学環境科学センター	0	3	0	0	3	トゥルースデータを利用した緑環境の解析に関する研究
26	樹芸	9	1	一般見学者	0	0	0	24	24	温室見学
27	樹芸	9	1	鈴木善人	0	0	0	2	2	試験林内導入樹木の観察
28	樹芸	10	1	一般見学者	0	0	0	32	32	温室見学
29	樹芸	10	2	千葉県立中央博物館	1	0	0	0	1	果実サイズと柄の関係に関する研究
30	樹芸	10	1	千葉大学理学部地球科学科	1	0	0	0	1	中新世化石と現生植物の比較研究 スイショウについて
31	樹芸	10	1	静岡県植物群落同好会	1	0	0	0	1	樹芸研究所植物群落リスト作成の為の調査
32	樹芸	10	1	静岡県植物群落同好会	3	0	0	0	3	樹芸研究所植物群落リスト作成の為の調査
33	樹芸	10	1	静岡県植物群落同好会	1	0	0	0	1	樹芸研究所植物群落リスト作成の為の調査
34	樹芸	10	1	農学生命科学研究科 造林	0	2	0	1	3	熱帯樹種の育成に関する研究・種子採集
35	樹芸	11	1	一般見学者	0	0	0	4	4	温室見学
36	樹芸	11	4	演習林	0	0	4	0	4	ヒノキ遺伝力に関する研究
37	樹芸	11	1	千葉大学理学部地球科学科	1	0	0	0	1	中新世化石と現生植物の比較研究 スイショウについて
38	樹芸	11	1	南伊豆町立南上小学校	3	0	0	11	14	第1回樹芸研究所「森林教室」
39	樹芸	11	2	日本製紙連合会	14	0	0	0	14	早生樹種の現地適応試験状況研修
40	樹芸	12	1	一般見学者	0	0	0	13	13	温室見学
41	樹芸	1	1	一般見学者	0	0	0	6	6	温室見学
42	樹芸	2	1	一般見学者	0	0	0	5	5	温室見学
43	樹芸	3	1	一般見学者	0	0	0	20	20	温室見学
44	樹芸	3	1	農学生命科学研究科 造林	0	0	1	0	1	フタバガキ科樹木の挿木
45	樹芸	3	1	農学生命科学研究科 造林	1	0	0	0	1	熱帯産樹種の育成
46	樹芸	3	1	伊豆ハイキングクラブ	6	0	0	1	7	自然林観察会
47	樹芸	3	2	千葉県立中央博物館	1	0	0	0	1	果実サイズと柄の関係に関する研究
計					94	10	12	253	369	

7 田無試験地

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
1	田無	4	4	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態 酸性雨が土壌動物、食葉性昆虫に与える影響
2	田無	4	2	動物	1	0	0	0	1	ゴミグモ属の生活史戦略
3	田無	4	4	動物	0	0	1	0	1	針葉樹寄生性アブラムシの生態
4	田無	4	2	動物	0	0	1	0	1	土壌動物と林相の関係
5	田無	4	5	動物	0	0	1	0	1	カエデの生物季節とモミジニタイケアブラムシの個体群動態
6	田無	4	1	造林	0	0	1	0	1	中国産ポプラの環境ストレス耐性機構解明
7	田無	4	1	植物	0	0	1	0	1	ナラタケの病原性に関する研究
8	田無	4	1	植物	0	0	1	0	1	カラマツの生態、生理
9	田無	4	2	千葉大理学部地球科学科	1	0	1	0	2	武蔵野台地における地下水涵養機構
10	田無	4	1	造林	2	28	2	0	32	造林学実験
11	田無	4	1	一般4月計	0	0	0	551	551	林内見学
12	田無	5	6	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態 酸性雨が土壌動物、食葉性昆虫に与える影響
13	田無	5	2	動物	0	0	1	0	1	針葉樹寄生性アブラムシの生態

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
14	田無	5	4	動物	0	0	1	0	1	土壌動物と林相の関係
15	田無	5	4	動物	0	1	0	0	1	アオキ群落と大型土壌動物の関係
16	田無	5	4	動物	0	0	1	0	1	カエデの生物季節とモミジタイケアブラムシの個体群動態
17	田無	5	3	造林	0	0	1	0	1	中国産ポプラの環境ストレス耐性機構解明
18	田無	5	1	植物	0	0	1	0	1	ナラタケの病原性に関する研究
19	田無	5	1	千葉大理学部地球科学科	1	0	1	0	2	武蔵野台地における地下水涵養機構
20	田無	5	1	動物	3	25	0	0	28	森林動物学実験
21	田無	5	1	一般5月計	0	0	0	775	775	林内見学
22	田無	6	5	動物	1	0	0	0	1	モミジタイケアブラムシの個体群動態 酸性雨が土壌動物、食葉性昆虫に与える影響
23	田無	6	2	動物	1	0	0	0	1	ゴミグモ属の生活史戦略
24	田無	6	4	動物	0	0	1	0	1	針葉樹寄生性アブラムシの生態
25	田無	6	4	動物	0	0	1	0	1	土壌動物と林相の関係
26	田無	6	4	動物	0	0	1	0	1	カエデの生物季節とモミジタイケアブラムシの個体群動態
27	田無	6	4	造林	0	0	1	0	1	中国産ポプラの環境ストレス耐性機構解明
28	田無	6	3	植物	0	0	1	0	1	ナラタケの病原性に関する研究
29	田無	6	2	千葉大理学部地球科学科	1	0	1	0	2	武蔵野台地における地下水涵養機構
30	田無	6	1	造林	2	28	2	0	32	造林学実験
31	田無	6	1	一般6月計	0	0	0	237	237	林内見学
32	田無	7	4	動物	1	0	0	0	1	モミジタイケアブラムシの個体群動態 酸性雨が土壌動物、食葉性昆虫に与える影響
33	田無	7	2	動物	1	0	0	0	1	ゴミグモ属の生活史戦略
34	田無	7	1	動物	0	0	1	0	1	土壌動物と林相の関係
35	田無	7	2	動物	0	0	1	0	1	カエデの生物季節とモミジタイケアブラムシの個体群動態
36	田無	7	6	造林	0	0	1	0	1	中国産ポプラの環境ストレス耐性機構解明
37	田無	7	1	植物	0	0	1	0	1	ナラタケの病原性に関する研究
38	田無	7	2	植物	0	1	1	0	2	材線虫病の宿主樹木数属における線虫の動態
39	田無	7	3	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明
40	田無	7	3	千葉大理学部地球科学科	1	0	1	0	2	武蔵野台地における地下水涵養機構
41	田無	7	1	一般7月計	0	0	0	229	229	林内見学
42	田無	8	5	動物	1	0	0	0	1	モミジタイケアブラムシの個体群動態 酸性雨が土壌動物、食葉性昆虫に与える影響
43	田無	8	6	動物	0	0	1	0	1	土壌動物と林相の関係
44	田無	8	1	動物	0	0	1	0	1	カエデの生物季節とモミジタイケアブラムシの個体群動態
45	田無	8	3	動物	0	1	0	0	1	アオキ群落と大型土壌動物の関係
46	田無	8	6	造林	0	0	1	0	1	中国産ポプラの環境ストレス耐性機構解明
47	田無	8	2	植物	0	0	1	0	1	ナラタケの病原性に関する研究
48	田無	8	3	植物	0	1	1	0	2	材線虫病の宿主樹木数属における線虫の動態
49	田無	8	7	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明
50	田無	8	1	植物	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の誘導抵抗性機構
51	田無	8	2	千葉大理学部地球科学科	1	0	1	0	2	武蔵野台地における地下水涵養機構
52	田無	8	1	一般8月計	0	0	0	180	180	林内見学
53	田無	9	6	動物	1	0	0	0	1	モミジタイケアブラムシの個体群動態 酸性雨が土壌動物、食葉性昆虫に与える影響
54	田無	9	4	動物	0	0	1	0	1	針葉樹寄生性アブラムシの生態
55	田無	9	2	動物	0	0	1	0	1	土壌動物と林相の関係

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
56	田無	9	4	動物	0	0	1	0	1	カエデの生物季節とモミジニタイケアブラムシの個体群動態
57	田無	9	3	造林	0	0	1	0	1	中国産ボブラの環境ストレス耐性機構解明
58	田無	9	2	植物	0	1	1	0	2	材線虫病の宿主樹木数属における線虫の動態
59	田無	9	3	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明
60	田無	9	1	植物	1	0	0	0	1	マツ材線虫病の誘導抵抗性機構
61	田無	9	3	千葉大理学部地球科学科	1	0	1	0	2	武蔵野台地における地下水涵養機構
62	田無	9	1	造林	2	28	2	0	32	造林学実験
63	田無	9	1	動物	3	25	0	0	28	森林動物学実験
64	田無	9	1	一般9月計	0	0	0	335	335	林内見学
65	田無	10	4	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態 酸性雨が土壤動物、食葉性昆虫に与える影響
66	田無	10	1	動物	1	0	0	0	1	ゴミグモ属の生活史戦略
67	田無	10	2	動物	0	0	1	0	1	土壤動物と林相の関係
68	田無	10	6	動物	0	0	1	0	1	カエデの生物季節とモミジニタイケアブラムシの個体群動態
69	田無	10	3	動物	0	1	0	0	1	アオキ群落と大型土壤動物の関係
70	田無	10	1	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明
71	田無	10	1	千葉大理学部地球科学科	1	0	1	0	2	武蔵野台地における地下水涵養機構
72	田無	10	1	一般10月月計	0	0	0	924	924	林内見学
73	田無	11	5	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態 酸性雨が土壤動物、食葉性昆虫に与える影響
74	田無	11	4	動物	0	0	1	0	1	カエデの生物季節とモミジニタイケアブラムシの個体群動態
75	田無	11	1	植物	0	0	1	0	1	マツ材線虫病の枯死機構の解明
76	田無	11	1	千葉大理学部地球科学科	1	0	1	0	2	武蔵野台地における地下水涵養機構
77	田無	11	1	一般11月月計	0	0	0	438	438	林内見学
78	田無	12	3	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態 酸性雨が土壤動物、食葉性昆虫に与える影響
79	田無	12	3	動物	0	0	1	0	1	カエデの生物季節とモミジニタイケアブラムシの個体群動態
80	田無	12	5	動物	0	0	1	0	1	土壤動物と林相の関係
81	田無	12	3	動物	0	1	0	0	1	アオキ群落と大型土壤動物の関係
82	田無	12	1	千葉大理学部地球科学科	1	0	1	0	2	武蔵野台地における地下水涵養機構
83	田無	12	1	一般12月月計	0	0	0	182	182	林内見学
84	田無	1	1	一般1月計	0	0	0	89	89	林内見学
85	田無	2	2	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態 酸性雨が土壤動物、食葉性昆虫に与える影響
86	田無	2	29	アジア生物資源環境研究センター	2	0	1	0	3	遺伝子分析を用いた新しい森林管理法の確立
87	田無	2	29	アジア生物資源環境研究センター	2	0	0	0	2	マツ属樹木の養分吸収における外生菌根菌の役割
88	田無	2	29	植物	2	0	1	0	3	アカシア属樹木の根粒菌形成と生理的反応
89	田無	2	1	一般2月計	0	0	0	147	147	林内見学
90	田無	3	4	動物	1	0	0	0	1	モミジニタイケアブラムシの個体群動態 酸性雨が土壤動物、食葉性昆虫に与える影響
91	田無	3	31	アジア生物資源環境研究センター	2	0	1	0	3	遺伝子分析を用いた新しい森林管理法の確立
92	田無	3	31	アジア生物資源環境研究センター	2	0	0	0	2	マツ属樹木の養分吸収における外生菌根菌の役割
93	田無	3	31	植物	2	0	1	0	3	アカシア属樹木の根粒菌形成と生理的反応
94	田無	3	1	動物	0	0	1	0	1	カエデの生物季節とモミジニタイケアブラムシの個体群動態

II 演習林の活動 II-1 利用状況

No.	林名	月	日数	団体名	教職員	学生	院生	その他	人員計	利用目的
95	田無	3	1	千葉大理学部地球科学科	1	0	1	0	2	武蔵野台地における地下水涵養機構
96	田無	3	1	一般3月計	0	0	0	470	470	林内見学
計					51	141	62	4557	4811	

II-2 教育活動

(1) 大学院（講義・実験・演習）

演習林所属の教官のうち教授、助教授、講師は全員農学生命科学研究科森林科学専攻の担当となっており、森林科学特別演習・特別実験などを通じ博士課程・修士課程の学生の論文指導等に当たっている。また、演習林の教官が直接大学院学生の指導教官となっていない場合でも、現地演習林における大学院学生の研究については、ほとんどすべてのケースで直接、間接に指導をおこなっている。

教官名	講義・実験・演習名	対象研究科	専攻	課程	演習林
大橋邦夫	国際森林学	農学生命科学	森林科学	修士	研究部
大橋邦夫	森林科学特別実験	農学生命科学	森林科学	修士	研究部
大橋邦夫	森林科学演習	農学生命科学	森林科学	修士	研究部
大橋邦夫	森林生態圏管理学 特別講義I	農学生命科学	森林科学	博士	研究部
大橋邦夫	森林生態圏管理学 特別講義II	農学生命科学	森林科学	博士	研究部
大橋邦夫	森林生態圏管理学 実験及び演習	農学生命科学	森林科学	博士	研究部
梶 幹男	森林科学特別実験	農学生命科学	森林科学	修士	秩父
梶 幹男	森林科学演習	農学生命科学	森林科学	修士	秩父
梶 幹男	森林生態圏管理学	農学生命科学	森林科学	修士	秩父
梶 幹男	森林生態システム利用学	農学生命科学	森林科学	修士	秩父
梶 幹男	森林生態圏管理学特別講義I	農学生命科学	森林科学	博士	秩父
梶 幹男	森林生態圏管理学特別講義II	農学生命科学	森林科学	博士	秩父
梶 幹男	森林生態圏管理学実験及び演習	農学生命科学	森林科学	博士	秩父
八木久義	森林土壌学特論	農学生命科学	森林科学	修士	愛知
八木久義	森林生態圏管理学	農学生命科学	森林科学	修士	愛知
八木久義	水循環機能学	農学生命科学	森林科学	修士	愛知
八木久義	森林科学特別実験	農学生命科学	森林科学	修士	愛知
八木久義	森林科学特別演習	農学生命科学	森林科学	修士	愛知
八木久義	森林生態圏管理学 特別演習II	農学生命科学	森林科学	博士	愛知
八木久義	森林生態圏管理学 特別実験II	農学生命科学	森林科学	博士	愛知
芝野博文	水循環機能学	農学生命科学	森林科学	修士	愛知
芝野博文	森林科学特別実験	農学生命科学	森林科学	修士	愛知
芝野博文	森林科学特別演習	農学生命科学	森林科学	修士	愛知
芝野博文	森林生態圏管理学 特別演習II	農学生命科学	森林科学	博士	愛知
芝野博文	森林生態圏管理学 特別実験II	農学生命科学	森林科学	博士	愛知
寶月岱造	森林科学特別実験	農学生命科学	森林科学	修士	田無
寶月岱造	森林科学演習	農学生命科学	森林科学	修士	田無
寶月岱造	森林生態圏管理学特別講義I	農学生命科学	森林科学	博士	田無
寶月岱造	森林生態圏管理学特別講義II	農学生命科学	森林科学	博士	田無
寶月岱造	森林生態圏管理学実験及び演習	農学生命科学	森林科学	博士	田無

(2) 学部講義等

演習林教官はそれぞれの専門分野に応じ、主として林学科（現 森林科学専攻）学生を対象とした農学部の講義科目を担当している他、教養学部における総合科目等、演習林が独自に開講する森林科学に関する講義も行っている。また、林産学科（現 生物材料科学専攻）の学生を主な対象とした林学汎論を演習林教官が分担して開講している。

教官名	講義名	対象学部	学科	学年	演習林
大橋邦夫	林学汎論	農学部	林産学科	3年	研究部
大橋邦夫	森林法律	農学部	林学科外	3年	研究部
大橋邦夫	森林生態圏の科学	教養学部		1、2年	研究部
梶 幹男	樹木学	農学部	林学科	3年	秩父
梶 幹男	林学汎論	農学部	林産学科	3年	秩父
梶 幹男	森林生態圏の科学	教養学部		1、2年	秩父
芝野博文	測量学	農学部	林学科	3年	愛知
芝野博文	測量学	農学部	林学科	3年	愛知
芝野博文	測量学実習	農学部	林学科	3年	愛知
芝野博文	森林生態圏の科学	教養学部		1年	愛知
八木久義	森林土壌学	教養学部		2年	愛知
八木久義	森林土壌学実験	農学部	林学科	3年	愛知
山本博一	森林と人の関わり	教養学部	全科類	1年	北海道
仁多見俊夫	森林利用学実習	農学部	林学科	3年	北海道

(3) 他大学への非常勤講師

演習林教官の一部は、他大学の非常勤講師を併任している。一覧を以下に示す。

教官名	講義名	対象大学	学部
梶 幹男	森林立地学	千葉大学	園芸学部
齋藤 馨	景観土地利用論	千葉大学	園芸学部
仁多見俊夫	大型計算機センタープログラム指導員	北海道大学	大型計算機センター
八木 久義	森林土壌学	三重大学	生物資源学部
八木 久義	生態学実験III	千葉大学	理学部
井出 雄二	林木育種学	新潟大学	農学部
石田 健	博物館巡検実習生物学	立教大学	

(4) 講習会・セミナー等

一般を対象とした自然観察、記念植樹、森林体験セミナーや、研究者・技術者を対象とした講座等を演習林主催により各地方演習林で6件開催した他、東京電力の主催による自然観察会（TEPCOペアウォッチングIN亀山）が千葉演習林で行われた。

講座名	主催	場所	日程
TEPCOペアウォッチングIN亀山	東京電力K.K	千葉演習林郷台作業所管内	8月3日
森林体験セミナー	千葉演習林	千葉演習林	11月14日～11月16日
公開セミナー「森林のしくみと人間との関わり」	北海道演習林	富良野市文化会館・北海道演習林	5月27日～5月28日
エゾマツの青変菌の病原性について	北海道演習林	北海道演習林	11月15日
林木育種40年のあゆみ	北海道演習林	北海道演習林	3月18日
瀬戸市民林業体験講座	愛知演習林	赤津研究林	4月19日
愛知演習林利用者研究集会	愛知演習林	白坂学生宿舎	5月20日～5月21日
森林教室	樹芸研究所	樹芸研究所	11月25日

(5) 実習

本学林学科(森林科学専攻)・林産学科(生物材料科学専攻)の実習・実験の大部分が演習林を利用して行われている他、他学部、他大学の実習・実験も多数行われている。実習は学科の教官が担当する科目であっても、現地演習林の教官が直接に関与する場合はほとんどである。また、実習・実験の準備および現場の作業には多数の演習林技官がこれに当たっている。

教官名	実習名	実習地	大学・学校	学部・研究科	学科・専攻	学年	日程
丹下 健	造林学実験	千葉演習林全域	東京大学	農学部	林学科	3年	5月6日～5月10日
鈴木 和夫	森林植物学実験	千葉演習林全域	東京大学	農学部	林学科	3年	5月10日～5月13日
箕輪 光博	森林経理学実習	千葉演習林札郷作業所管内	東京大学	農学部	林学科	4年	5月15日～5月19日
多田 隆治	地質学調査実習	千葉演習林清澄作業所管内	東京大学	理学部	地学科		5月29日～6月2日
有馬 孝禮	林学実習	千葉演習林清澄作業所管内	東京大学	農学部	林産学科	3年	7月10日～7月14日
谷本 丈夫	樹木学実習	千葉演習林全域	宇都宮大学	農学部	森林科学科	1年	7月17日～7月20日
山岡 寛人	「照葉樹林およびスギ植林地への生態系の把握と比較」の実習	千葉演習林清澄作業所管内	東京大学教育学部附属高校				7月24日～7月26日
前田 晴良	地質調査法野外実習	千葉演習林清澄、札郷作業所管内	京都大学	理学部		3年	8月28日～9月1日
山口 寿之	地質学野外実習	千葉演習林札郷作業所管内	千葉大学	理学部	地球科学科		10月30日～11月1日
丸山 茂徳	地質調査を中心とした学生実習	千葉演習林札郷作業所管内	東京工業大学	理学部	地球惑星科学科		11月6日～11月8日
箕輪 光博	測樹学実習	千葉演習林札郷作業所管内	東京大学	農学部	林学科	3年	12月19日～12月22日
松川 正樹	地質調査の実習	千葉演習林札郷作業所管内	東京学芸大学	教育学部			3月21日～3月22日
宮本 義憲	天然林更新と施業	北海道演習林	長野県林業大学校			2年	7月10日
倉橋 昭夫	森林の保全・管理	北海道演習林	専修大学北海道短期大学		造園林学科	2年	7月11日
倉橋 昭夫	北方樹木実習	北海道演習林	東京農業大学		造林学科	4年	9月10日～9月14日
倉橋 昭夫	植物分類学・生態学野外実習	北海道演習林	愛知教育大学	教育学部		3、4年	7月24日～7月26日
山本 博一・仁多見俊夫・倉橋昭夫・高橋郁雄・有沢浩・宮本義憲・中村昇・木佐貫博光	森林学習	北海道演習林	東京大学教育学部附属高等学校			2年	7月17日～7月20日
倉橋 昭夫	樹木の生育密度調査、樹冠透過光率測定	北海道演習林	明治大学	農学部		3、4年	8月3日～8月5日

II 演習林の活動 II-2 教育活動

山本 博一 ・仁多見 俊夫・倉橋 昭夫・高橋 郁雄・有沢 浩・宮本 義憲・中村 昇・木佐貫 博光	林学総合実習	北海道演習林	東京大学	農学部	林学科	3年	8月21日～8月26日
高橋 郁雄	菌類の採集と分類	北海道演習林	北海道教育 大学	教育学部		1、2、 3、4 年	10月12日～10月13日
梶 幹男	森林植物学実験	秩父演習林	東京大学	農学部	森林科学専 攻	3年	
梶 幹男	植物生態学野外実 習	秩父演習林	東京大学	理学部	生物学科	3年	
蒲谷 肇	森林土壌学実験	秩父演習林	東京大学	農学部	森林科学専 攻	3年	
石田 健	森林動物学実験	秩父演習林	東京大学	農学部	森林科学専 攻	3年	
熊谷 洋 一・下村 彰男・小野 良平	風致工学	愛知演習林犬山 研究林	東京大学	農学生命 科学研究 科	森林科学専 攻	大学院	5月29日～5月30日
執印 康裕	砂防工学	愛知演習林赤津 研究林	東京大学	農学部	森林科学科	3年	6月7日～6月9日
大沢 雅彦	生態学野外実験	愛知演習林赤津 研究林	千葉大学	理学部	生物学科	3年	7月24日～7月29日
佐倉 保夫	水文科学実験	愛知演習林赤津 研究林	千葉大学	理学部	地学科	3年	8月7日～8月9日
増田 耕 一・松山 洋	地学大巡検	愛知演習林赤津 研究林	東京都立大 学	理学部	地理学科	3年	8月21日～8月23日
西尾 邦彦	森林の効用に関す る学生実習	愛知演習林赤津 研究林	東京農業大 学	農学部	林学科	4年	8月28日～8月30日
辻村 真貴	地学実習	愛知演習林赤津 研究林	愛知教育大 学	総合科学 部	地学科	3年	9月7日
武内 和彦	緑地環境計画	愛知演習林赤津 研究林	千葉大学	農学部	農業生物学 科	3年	10月4日～10月5日
芝野 博 文・執印 康裕	測量学実習	愛知演習林赤津 研究林	東京大学	農学部	森林科学科	3年	10月11日～10月16日
竹中 千里	測樹学実習	愛知演習林赤津 研究林	名古屋大学	農学部	林学科	3年	10月17日
諸戸 清一	林地利用学特論	愛知演習林赤津 研究林	東京農工大 学	農学生命 科学研究 科	林学科	大学院	11月8日～11月9日
服部 重 昭・田中 隆文	測量学実習	愛知演習林赤津 研究林	名古屋大学	農学部	林学科	3年	3月1日～3月7日
熊谷 洋 一・下村 彰男・小野 良平	風致工学	愛知演習林赤津 研究林	東京大学	農学生命 科学研究 科	森林科学専 攻	大学院	3月7日～3月8日
下村 彰 男・小野 良平	風致工学	富士演習林	東京大学	農学部	林学科	3年	6月17日
中村 英 夫・吉江	測量学実習	富士演習林	東京大学	工学部	土木工学科	3年	9月1日～9月8日
丹下 健	造林学実験	田無試験地	東京大学	農学部	林学科	3年	4/24, 6/5, 9/18
古田 公人	動物学実験	田無試験地	東京大学	農学部	林学科	3年	5/19, 9/29

II-3 研究活動 - 地方演習林の試験研究課題 -

(1) 千葉演習林

近年、森林の重要性が世界的に強く認識されるようになり、同時に森林の保全を基本原則とした持続的な森林経営が強く求められている。このような情勢を背景に、演習林は、森林の持続的経営および森林の持つ多面的な機能の維持、増進を主たる目標として教育、研究を推進してゆくこととしている。そのための個別課題は、千葉演習林の立地と環境が持つ特色が十分に発揮され、また、これまで100余年にわたって収集、蓄積されて来た膨大な資料を十分に活用できる内容のものであることが望ましい。研究課題には、演習林教官が主体的に実施するもの、本学の各分野の研究者、大学院生、学部学生等が演習林をフィールドとして実施するもの、各種の共同研究により実施するものなどがあるが、いずれの場合も演習林職員の一一致した協力がなければ初期の目標を達成できない。そのため、具体的な課題設定に当たっては、現職員体制において実行可能かどうかについても吟味する必要がある。また、森林研究は長期間にわたる継続的な調査・研究が必要とされるものが多いといわれ、ややもすると資料の収集だけにおわって、論文としての公表が遅れる場合がある。しかし、演習林の教育・研究機関としての機能は、試験研究の成果が公表されることによりはじめて評価されるもので、第10期からの継続課題および今期新たに設定する課題にあつては、期間内になんらかの具体的な成果を得るべきものとして実施する必要がある。以下に予定される研究課題について若干の説明とともに列記した。

I 森林生態系に関する研究

房総半島南西部に位置する千葉演習林は、清澄山(標高383m)を中心に南北にひろがり、安房、上総の分水嶺を堺に、南側の太平洋に注ぐ二夕間川流域と北側の東京湾に注ぐ小櫃川の2流域にまたがっている。この分水嶺を堺にして南側と北側とでは植物相が異なり、南側では多数生育しているのに対し北側では出現しない暖地性植物がある一方で、冷温帯性植物には、北側で自生が見られるが南側では出現しないものがある。こうしたことから当演習林は、植物分布上甚だ重要な位置を占めているといえる。また演習林域は、新第三紀海成層を基盤とし、標高が低く、地形が細かく複雑であり、立地条件の変化が極めて激しいという地況上の特色を持つため、立地条件と植物の生態生理的特性、に関する研究を行うフィールドとして、極めて適した場所である。

一方、演習林は森林の内容においても多様性に富み、暖温帯に属する常緑樹を主とする落葉樹との混交林、モミ・ツガ針葉樹天然林、スダジイ・カン類天然林、スギ・ヒノキ・マツ類等の人工林、内・外国樹種見本林、展示林、苗畑等を有している。とくに本地方固有の極相林的要素をもつモミ・ツガ針葉樹天然林は、演習林内に比較的広い面積で維持、保存されて来ており、関東地方における暖温帯天然林地域として学術、教育上の見地から貴重な地域となっている。その他、かつて薪炭林として利用された広葉樹林が広大な面積で残されている。また、幼齡林から高齡林に至るスギ・ヒノキ人工林が育成されており、人工林の持続的経営を研究する上で恰好のフィールドとなっている。さらに、地況、林況等の多様さに対応して、ニホンザルやニホンジカ等の中型哺乳類が生息しているなど、動物相も極めて豊富であり、森林動物の研究フィールドとしてもまた、最適の環境といえる。本大課題では、以下のような課題に取り組む。

森林生態系の構造と機能の解明

千葉演習林内には、広大な天然林や様々なステージの人工林が多様な立地環境のもとに形成されていることから、極めて多数の動植物種が生育している。これら個々の種の生態的な特性や森林内での位置付け・果たす機能などはごく一部の種を除いてまったく明らかにされていないのが現状である。しかし、高い機能を持った状態で森林を維持してゆく上では、個々の生物種の特性を把握し、それにそった森林の取り扱いを実行してゆくことが必要である。そのため、本課題では、まず個体数の多い種、希少な種、造林木の育成に影響を与える種、人に被害を及ぼす種を中心としてその特性の把握に努める。具体的な課題として、以下のような項目の研究を行う。

- 1) 森林動植物の基礎的な生態の解明
- 2) 個体群動態の変動機構の解明
- 3) 各生物種が森林生態系内で果たす機能の解明

森林に生息する各種動植物の特性と機能の解明

現在形成されている動物群集・植物群落は、過去の環境変動に伴い生物間の関係の形成・喪失が幾度と無く繰り返された末に形作られたもので、集団毎に独特の様相を呈する生物の集合体である。このような生物集団の構造や動態を明らかにすることは、森林環境を保全し生物多様性を維持してゆく上で極めて重要な研究課題である。また、それらを築き上げている生物相互間の関係も安定したものではなく常に変化しており、その解明は森林の持続的維持の観点から必須の課題である。具体的な課題として以下の項目をあげる。

- 1) 動物群集・植物群落の構造把握
- 2) 環境の変化に伴う動物群集・植物群落の変動の解析
- 3) 生物相互間の関係の解明

森林動植物の保護

演習林を含む一帯は、首都圏近郊の自然度の高い地域としてはもっとも大きな地域であり、現在確認されているだけでも植物種約 1,100、動物種約 7,00 が存在している。今後調査が進めば動植物合わせて優に 2,000 種は越えるものと思われる。この多種多様な生物はそれぞれが健全な森林を形成する上で欠かせない存在であり、一つとして失われて良いものはない。また、今日人間活動の広がりによる自然環境への影響が懸念される中、演習林内でも両者のバランスを考えた森林施業を模索していく必要がある。この課題については以下の研究項目を掲げる。

- 1) 演習林内の動植物種リストの作成
- 2) 各種森林施業が生物に与える影響の評価
- 3) 生物保護管理システムの開発
- 4) 遺伝子資源の保存と適正管理 各種森林被害の発生機構の解明とその防止

千葉演習林で現在取り組む必要がある森林被害としては、ニホンジカによる食害とマツの大量枯損がある。これらの問題は全国的に見てもいたる所で発生している問題であり、的確な対応策を講じることは社会的な観点からも非常に意義のあることである。最終的には各種病虫害獣の適正密度維持管理システムを開発し、森林生態系の枠組みのなかで病虫害獣を総合的に防除し、永続的に利用可能な森林を育成することが目標である。そこで、当面以下の項目に取り組む。

- 1) ニホンジカの適正密度維持管理システムの開発
- 2) モミ大径木枯損の要因解析
- 3) マツノザイセンチュウによるマツ枯損防止対策

4) その他病虫獣害の被害監視システムの確立

II 森林の公益的機能に関する研究

森林は地球上の陸地の3分の1を占め、生活必需品としての木材等林産資源を生産供給するほか、生存環境としての重要な役割を果たしている。特に、近年、森林に対して自然環境の保全と森林の持つ公益的機能の高度発揮が強く要請されるようになってきている。そうした背景から、資源の造成・利用と環境機能の調和した森林管理が求められており、そのための研究が極めて重要な位置を占めるようになってきている。

幸いにも本演習林は、周辺に膨大な水需要のある地域の水源域に立地し、水源かん養機能など森林の各種公益的機能に関する教育・研究に適した条件を備えている。

また、近年、一般の自然環境への関心が高まるとともに、森林のレクリエーション利用等のニーズが高まっており、森林の持つ保健休養機能の増進が課題となっている。同時に、森林の持続的維持を考える上で、一般の森林環境に対する正しい理解を促す必要が生じている。このような背景から、成人、青少年のための自然環境教育等の推進に寄与できる、教育・研究の実施が、演習林にとって不可欠な課題となっている。演習林は、優れた自然環境とこれまで100余年にわたる資料の蓄積を有する事から、これらを活用することによって、このような課題に十分貢献できると期待できる。主な課題を挙げると次の通りである。

森林の水土保持・防災機能維持増強に関する研究

水源林としての機能を維持、増強していくために必要な基礎的応用的試験研究を行うもので、天然林・人工林を対象に森林施業が水土保持機能に及ぼす影響を解析し、機能発揮の最適条件を明かにすることを目的とする。また人工林を集水域とする林分で、間伐および皆伐後の流出特性の解析を行う。

- 1) 人工林・二次林の環境醸成機能の解明
- 2) 水資源涵養機能向上のための森林管理システムの開発
- 3) 流域の水環境に与える演習林の森林の評価
- 4) 気象被害の要因解析
- 5) 表土崩壊発生機構の解明，多目的森林利用計画手法の高度化

レクリエーション、生涯教育利用等の増大にともないその機能を最大限に発揮させるため、森林の利用や管理方式の実態とその問題点を把握し、利用の目的にあった管理方式を確立する。

- 1) レクリエーション等の利用にともなう森林管理方式の高度化
- 2) 保健休養のための森林環境の保全・管理方策の究明

森林自然環境教育

森林を対象に社会人のための生涯学習、青少年を主な対象にした自然環境教育の場として、野外自然体験学習、地球環境問題学習、自然環境保全、自然保護、林業教育学習、動植物の生態観察学習等を計画的に実施する。従来から演習林では、地元小・中学生の林内見学、観察や地元高校の野外学習などが実施されているが、さらに地域に密着した東京大学の施設として、この種の教育・研究機能の向上に務めるための試験研究として以下の項目に取り組む。

- 1) 適切な環境教育プログラムの編成とその効果の把握
- 2) 自然環境教育の場として適切な森林整備方策の探求

III 森林生産技術に関する研究

森林の持つ多様な機能を最大限に発揮させつつ、生産目標にそった森林の施業を展開するため、育苗、造林、保育から収穫までの生産技術の向上と環境に適した健全な森林の維持、増強を図る。このため、長伐期林、複層林、天然林など森林の持つ多様な生態的特性を解明し、木材生産性の増大と質の向上を図るための人工林育成技術を開発する。主な課題は次の通りである。

暖温帯林に適合した有用樹種の開発

これまでの皆伐一斉更新林分はスギ、ヒノキが主体であったが、今後林業経営の向上と林地保全を目的としてスギ・ヒノキと優良広葉樹種との混交林の造成を推進するための適応樹種を選定する。開発の目標として以下の項目を掲げる。

- 1) 主要林木における在来品種の特性の解明
- 2) スギ、ヒノキ精英樹候補木の次代検定
- 3) マツノザイセンチュウ病抵抗性マツの選抜と増殖
- 4) 暖温帯林における優良樹種の選抜と増殖
- 5) 複層林、択伐林に適した品種の開発と増殖

施業に関する技術の開発・向上

現在の日本における林業は安価な外材の大量流入と自然保護に対する一般の関心の高さが相まって、これまで行われてきた作業体系・林業技術では対応が限界にきている。更に林業就労人口の減少と高齢化により作業の機械化がより一層今後は推進されるであろう。このような中、日本の林業として十分に採算の取れるシステムや技術の開発・高度化は必要不可欠であり、それを研究する場として長い経験と知識の蓄積された千葉演習林は極めて優れた場であると考えられる。ここでは以下に挙げる項目について研究を進める。

- 1) 各作業の機械化とそれに適した林道網の開発
- 2) 良質材生産の為に植栽、保育管理技術の高度化
- 3) 多様化する森林施業に適応する育苗技術の高度化
- 4) 一斉林施業から複層林施業への移行システムの開発
- 5) 複層林施業地の伐採・搬出に伴う残存木の損傷の発生要因と対策

IV 森林経営に関する研究

多様化する森林に対する社会的要請に対応した森林の管理、経営技術の構築が、現在求められている。そのためには、高精度で効率的な森林資源のモニタリング技術を開発し、そのデータに基づいた森林の推移予測技術を確立することによって、森林資源の持続的活用を可能にする新たな森林管理技術を創出する必要がある。すなわち、森林の環境、資源に関する各種の情報を効率的に収集、処理するシステムを開発するとともに、資源の変化をモニタリングする技術を開発し、また、森林の推移をモデル化し予測する技術を確立する。ここで行う主な課題は次の通りである。

森林資源観測とモニタリング技術の高度化

森林資源を十分に発揮させるためには森林資源および森林環境の観測とモニタリング技術の高度化は不可欠であ

る。そのために、リモートセンシングデータのもつ基本情報の解明、さらに各種手法の開発などを行うことにより、リモートセンシング観測技術の体系化を図る。細目の研究項目を以下に示す。

- 1) リモートセンシング技術を用いた森林観測システムの導入と技術の高度化
- 2) 森林情報のデータベース化と利用手法の開発

森林資源の計測、予測技術の高度化

環境保全等に適した森林施業法を確立するため、森林の計測、解析を行い成長モデルを作成し成長過程の予測を可能にし、データベース、GISなどを活用した林分単位の施業の体系を構築するとともに、それに基づく総合的な森林資源の管理手法と予測方法を開発する。

- 1) 森林資源情報の収集・処理・解析技術の開発
- 2) 森林資源の時間的管理手法と予測手法の開発

暖温带林における森林の最適管理技術の向上

森林の生態系の維持と生産性(収穫)の向上とのバランスを充分考慮した森林管理システムを確立するとともに、これまでのスギ・ヒノキを主とした育林技術に加え有用樹種の育成技術の高度化と生産システムを確立する。

- 1) 長伐期、複層林施業導入に伴う密度管理システムの確立
- 2) 最適保育管理の機械化に伴う作業体系の確立
- 3) 天然林に適合する維持管理システムの開発

V 国際研究協力

持続的な森林経営が世界的な課題となっている中であって、過去100年あまりにわたって、継続的に森林を管理し、人工林の造成に努めてきた千葉演習林の経営は、今後、世界各地の森林の再生、修復とその経営を考究する上で極めて重要な位置を占めるものと期待される。東京大学農学部附属演習林は、国際会議の開催やソウル大学、台湾大学などとの交流を行っており、千葉演習林は其中で大きな役割を担うことができるばかりでなく、より広い範囲の国際交流を目指す。そこで、海外との学术交流だけでなく、外国人の大学院学生や研修生の積極的な受け入れを通じ、千葉演習林の財産である森林を、国際的な視野で有効に活用するよう努める。

国際的な研究交流の促進

現在、森林を対象とする研究は日本だけに留まらず世界各国の森林を視野に入れて行うべきものになっている。このような中、日本における森林研究者は国内だけでなく、国外にむけてインターネット等を通じ情報を発信し、またそのレスポンスを演習林における研究や運営の参考にしてゆくことが常に求められている。更に、外国人研究者や学生の交流や留学は近年特に頻繁に行われており、その体制づくりも急務である。

- 1) 国外研究者の受け入れ体制の確立
- 2) 情報の公開・発信の手段と体制の構築

(2) 北海道演習林

これまでに実施してきた重点的研究課題は、林分施業法の実験、人工林育成技術の究明、林木育種の研究、森林環境の保全等である。

これらの研究は更に内容を整備して継続することとし、演習林内外の状況を勘案した上で新たに次の研究課題を加える。

即ち、風害地の森林形成過程に関する研究、遺伝子資源の保安全管理と利用に関する研究、流域管理に関する基礎研究がそれである。

以上の研究課題について従来の試験研究の成果を踏まえて、以下の重点項目に整理して行うものとする。

i 林分施業法のシステム化に関する研究

1958年より天然林を対象にして、経験的かつ実証的に進めてきた林分施業法の実験は、1/3世紀を経過した段階において総体的に天然林の改良は進み、加えて経済的にも大きな成果を挙げて、北海道の天然林施業に取り入れられつつある。

実験開始以来社会・経済的情勢はかなり変貌しているが、本施業法は基本的には大きく変更することなく、施業組織・施業仕組みを修正しつつ対応して進めてきたが、1981年以後は台風被害木処理のため、一時実験を中止せざるをえなくなった。しかし、その整理を終了した現段階に於いて、本施業法を更に発展させ広く普遍化させるためには、これまでの成果を踏まえつつ、現在未解決の諸問題、即ち森林の発展の裏付けになる森林生態系の解明・森林構造と生産力の定量化・天然更新の技術開発と方式（林道網と伐木集運材技術）・木材の付加価値形成に関する問題等の解決と、更にこれらを統合した最適施業法の確立と、その管理体系のシステム化について理論的・実践的な開発研究を行う。

ii 遺伝子資源の保安全管理と利用に関する研究

近年、地球的規模で自然破壊の悪化が深刻な問題としてとどざたされ、現に数多くの生物種が絶滅し、あるいは絶滅の危機に直面している。就中、森林資源の減少は国際的関心の的となり、森林資源の保全・育成に積極的に対応する必要に迫られている。ここに林木の遺伝子資源の保全が今日的重要課題となっている。

本演では1952年に林木育種の研究が開始され、本道に適する遺伝的に優良な造林樹種の育成と基礎研究が行われている。これまではカラマツ属の交雑育種に関する研究が重点的に行なわれ、その成果は北海道におけるダフリカ系カラマツ各変種とニホンカラマツとの雑種育成の基礎になっている。

一方、北米・北欧・北アジア諸国の林木育種研究機関との交換によって、北方系樹種系統の材料収集に努め、これら系統保存・試植および産地試験など、前記雑種検定林とあわせて約100haの試験地が造成され、生育適性の試験が長期的に行われているとともに、外来樹種の導入と関連して、1905年より現在までに約300種におよぶ木本植物が樹木園・見本林に展示されている。また、林分施業法の展開過程において、原生林や1・2度伐採の加わった天然林約1,300haを保存林として自生種の保全をはかってきた。更に遺伝形質の優れたものを保存木とし、広葉樹の優良形質木とともに現在約3,500本を登録しているなど林木の優良遺伝子群の確保に努めてきた。

本案ではこれら実績・成果を基盤として、従来の林木育種研究領域を拡大強化して、北方地域における遺伝子資源の保全・研究のセンターとして位置付け、これまでの研究を継続するとともに天然林の遺伝子育種に関する課題として天然樹種の生態遺伝学的特性を解明し、優良遺伝子群を更新し、植栽試験地・見本林等を造成する。また林内生物全般にわたる生息環境の保全・保護に関する研究も行う。

iii 風害地の森林形成過程に関する研究

1981年に北海道を襲った台風15号は、本演習林にかつてない大被害をもたらし、被害面積8,735ha、被害材積81万 m^3 にも達した。そして、多くの試験地が壊滅するとともに、広大な無立木地が生じた。

風害木の処理がほぼ完了した現在、風害跡地の復旧造林が緊急の課題となっている。被害地のほとんどが奥地天然林に属しているため、天然林形成過程という科学的重要なかつ稀にしか遭遇しない現象を研究課題として積極的に取り組む必要がある。

具体的には植生遷移・立地と天然更新状況・森林形成過程における動物相の変化・菌類の動向・水収支等を主題とする。

iv 人工林育成技術と施業法に関する研究

人工林育成技術に関する問題究明のため、1955年より特別試験林として主要造林樹種の生育適応試験・針広混交林造成試験・林地肥培等を目的とした植栽地190haが設定され、植栽樹種約130種に及んでいる。一方、施業実験林では1908年以降、今日まで現存する人工林が3,200haに達している。今後は各種人工林の育林体系の確立を図ることが重要である。

特に間伐期に到達した各種人工林が多いことから、間伐の実行システムの開発が急務である。また今後の人工林造成にあたって、地拵・下刈・つる切・除伐の省力化、林内更新法等の問題も重要課題として取り組むこととする。

v 流域管理に関する基礎的研究

本演習林は、北海道の重要河川である石狩川の支流最上流部に位置し、かつ、北海道の中心部を占める地帯に属する。今後北海道における水資源の需要は益々増加していくものと思われ、それと同時に洪水災害や水保全の立場から森林の水文的機能に対する期待度も大きくなっていくものと思われる。

水文観測は、1983年より暫定的に実施してきたが、社会的には本道の中心部という重要な位置を占めていることと、科学的には寒冷多雪地における火山灰堆積地帯の水の季節的変動を解明する意味において、山体・森林、相互の関連を解析し、流出過程を究明することが重要な課題である。

この水文観測を長期的に実施し、北海道における水文問題解明の基礎資料としての意義をもって、研究を継続する。

以上、北演の基幹的研究として取り組むべき重要課題について述べた。この外、従来から森林保護学の一分野である森林昆虫・動物の研究が1956年より行われ、これまで食葉性害虫・野鼠の食害・クマゲラの生活史等に関する研究が進められてきた。

また、森林病理に関する研究が1958年より始められ、天然林・人工林の多数の内・外国産樹種の病原菌の究明に関する研究を行っている。

更に1977年より演習林を含む農山村地帯の就業構造と農林業の労働力市場の分析に関する研究を行っている。

これら各研究は前記主要試験研究と関連し、または個別的専門研究としてきた。

今後もこれらの研究は継続して行う。

(3) 秩父演習林

近年、森林の効用に関して林産物としての資源的な価値だけでなく、人類の生存に不可欠な環境資源としての多面的な価値があるという認識が定着している。当演習林における試験研究は、従来林業生産技術の高度化に関する研究に重点をおいて進められていたが、現在は環境保全、保健休養など森林の公益的機能を高度に発揮させるための基礎的な研究をいっそう発展させる方向に進んでいる。また、演習林林内を通過する国道140号線の共用開始が近づいており、改修工事ならびに車両の通行が周辺の自然環境及び地域社会に与える影響についての調査研究は、演習林の主要研究課題として継続させる。

i 気象・水文観測

・気象観測

気象は、森林被害の攪乱要因として、また動植物の分布・季節事象や成長の要因としてあらゆる課題にとって重要な環境要素である。とくに広い標高域を有する当演習林では、標高・地形等により気象条件が異なるため、林内各所で気温・湿度・降水量等の気象観測を行うことが極めて有意義である。特に、高標高域の気象資料が不足している。

気象観測を9地点で実施した（表）

表 秩父演習林の気象観測地点

観測地点	標高 (m)	地形	周辺植生	観測項目	開始年
栃本	770	南斜面	スギ人工林	気温、地温、湿度、降水量	1929
大血川	520	北斜面	スギ人工林	気温、湿度、降水量	1932
影森	240	平地	苗畑	気温、湿度、降水量	1956
滑沢	1,140	南西斜面	カラマツ人工林	気温、湿度	1984
突出峠	1,630	尾根	針広混交林	気温、湿度、降水量	1980
矢竹沢	1,050	南斜面	マツ類人工林	本、湿度	1980
甲武信岳*	2,460	山頂	シラベ林	気温	1991
雁坂峠*	2,070	鞍部	草地	気温	1991
ダルマ坂*	1,970	尾根	シラベ林	気温	1990

* 演習林外

・水文観測

当演習林は荒川源流域の主要部分を占め、しかも首都から100km圏内に位置する点で、森林の水源涵養・水質浄化昨日等、水資源と森林の関わりについての解明は、単に水文学的な研究にとどまらず、社会的にも重要な意味を持つものである。演習林内の異なる流域における流出特性の解明を目的として、堰堤で水量観測を実施している(表)。この観測により、林況・地況の異なる流域での流出量を比較し、森林力を推定する。

表 水文観測地点

観測地点	標高(m)	流域面積(km ²)	形状係数	観測項目	開始年
大血川東谷	770	5.0	1.03	流量	1989
栃本矢竹沢	940	2.5	0.73	流量、水量	1989
滝川久度沢	680	2.3	0.50	流量、水量	1990

ii 試験林 - 人工林の成長測定 -

森林資源の多目的有効利用と生産性の向上、さらに大径木・高品質用材の生産が、今後の林業の重要課題である。造林地の地力の意地を図りながら、それぞれの生産目標に応じたより価値の高い安定した森林を育成管理していくための育林技術の確立を目指している。

1) 成長試験

秩父山地における人工林施業の基礎資料を得ることを目的とし、年齢別に0.05ha程度の標準値で、5年毎に立木の胸高直径と樹高を測定している。29林班の64生ヒノキ・サワラ人工林等で7～10回目の測定を実施した。また、29林班い1小班のスギ・ヒノキ・サワラの伐採木について、収穫表を調整するための樹冠形を測定した。

2) 間伐試験

29林班い1サララ林で間伐試験を実施した。

iii 育林、育苗に関する研究

当演習林には、ケヤキ、シオジ等の有用広葉樹の造林地がある。将来、機会があればこれら造林地における個々の林木の形質、林分構造解析、大径有料木生産を目指した育林作業を実施したり、成長経過を解析することによって広葉樹育林技術の基礎資料を得、また複層林施業における保育作業の省力化や森林の公益的機能の恒常的な発揮等について解析できる試験地として維持する。

近年、森林に対する社会的要請が大きく変化し、また多様化するなで、とくにその多面的機能の発揮が求められている。国産材の価格低迷、山村における林業後継者・労働力の不足等わが国の林業の今後のあり方が大きな問題となっている今日、資源と環境の両面からバランスのとれた森林の取り扱いが重視される時代に至った。

従来は、原生林の択伐施業を含めて輪伐期を約30～40年にする想定で、植林、保育、伐採作業が行われてきたが、木材受給および、伐採・搬出に係わる林道設備のおくれなどの現状に鑑み、今期は、より長伐期の大径木生産施業への意向をめざした作業の見直しを行っている。また、今後は保育、伐採作業計画に対応した林道配置、密度の最適化伐採木の販売経路、利用目的等の追跡(市場)調査も実施する。

・ケヤキ人工林の成長経過

1林班と29林班のケヤキ人工林で、1991年よりリタートラップを、1993年より成長バンドを設置して調査している。ケヤキ人工林は超伐期大径木生産と風致林造成を目的に設定されたものである。

・複層林試験地

1林班と29林班で複層林試験地を設定した。1林班はスギ人工林を間伐しスギの2段林の複層林とし、29林班はサワラ人工林を間伐しスギ・ヒノキを植栽して2段林とした。

iv 立地、生態系に関する研究

当演習林は広域にわたって多様な自然環境を有しているが、これを最大限に活用し森林の多面的な機能を理解するために、生物学的な視点から様々な専門分野の研究者による森林生態系の構造と機能を解明することが、本研究の目的である。

・秩父山地天然林生態系の解明

大面積プロット・森林鉄塔を設置して、樹木の成長、更新、生産、動物相や群集構造、行動の記録など立体的かつ多面的に山地帯天然林の構造と動態を長期間にわたって解明する。27・28林班

・イヌブナ天然林の更新

イヌブナの萌芽更新と実生更新の実態を明らかにする。さらに、冷温帯天然林において更新法の違いにより空間を占めるプロセスの差を明らかにする。28林班

・主要森林害虫の生態と防除

穿孔虫類の個体数の変動を森林の健康状態の指標として定期的にモニターする発生予察試験によって、森林の状態を監視し、必要に応じて保護策をたてる基礎資料とする。国道および入川林道周辺

・鳥類群集の研究

演習林周辺の鳥類群集の目視観察およびさえずりの録音によるセンサス等によって、動物群集の多様性と環境の関係を理解する。演習林全域

・コゲラ個体群の比較

コゲラの地域個体群の比較を通して、動物種の分散、進化等について理解する。演習林および日本各地

・奥地秩父における植物季節観測

特に、山地の異なるブナの開芽、紅葉の時期を記録し、遺伝的な特性と環境の関係を明らかにする。27林班、29林班、苗畑

・天然ヒノキ林の生態遺伝学的研究

演習林内に自生するヒノキ天然林の遺伝的特徴を明らかにし、遺伝子資源としての保全を図る基礎資料とするための遺伝的分析を行った。1林班、17林班、26林班、29班

- ・ツキノワグマの個体群管理

捕獲・計測・発信機によってツキノワグマ個体群の動態を追跡し、大型動物の保護管理方針および生態系の基礎資料とした。

- ・シカ柵による防除

近年大血川作業所管内の幼齢造林地において、スギ、ヒノキに対する被害が増大したので、防風ネット柵を設置し、被害防止のための研究を行った。2 林班

- ・昆虫相

昆虫採集による昆虫相の記録。28 林班等

- ・奥秩父地域のオサムシ類の生活史及び分布

オサムシ類の標高と林相との関係について調べた。28 林班

- ・自然種の天然分布と保存

全域

- ・秩父山地天然林の更新に関する基礎研究

秩父山地天然林において成長解析ならびに林分構造を調査した。11 林班、23 林班、27 林班、28 林班

- ・マルチメディアを使った森林景観のモニタリングおよび公開

コンピューター制御の自動撮影ビデオカメラによって、1地点40視点ずつの映像を継続的に撮影し、画像データとして蓄積して、データベース化、森林景観および動態を解析するための基礎資料とする。28 林班、29 林班

- ・森林の管理システムに関する研究

森林現況簿、造林原簿など各種森林管理資料のデータベース化を行った。

- ・車両系林業機械の不整地草稿に関する実車実験 林道配置、林道規格と開設単価

施工方法について、技術的な改良を加えながら試験研究計画の趣旨に適合したかたちで配置、距離、幅員、構造物等の検討を行った。入川林道

(4) 愛知演習林

i 森林水文に関する試験研究

試験流域の量水観測成果は、気象要素とともに観測以来70年の資料が集積され、きわめて貴重な学術的価値を有している。現在のところ、量水観測は降雨 - 流出系の観測態勢であり、その種の研究が中心となっている。今後は、この貴重な森林量水試験の集積を継続発展させ、降雨遮断・蒸発散・斜面流出等の水文素過程別の研究とあわせて、水源かん養機能のメカニズムを解明することを目標としている。

量水観測は流域の森林成長と同時並行的に継続観測されることが学術的に貴重である。しかし、過去にさかのぼって森林の成長過程を数量的に追跡する方法論が確立されていないことで、森林状態と雨水流出との関連づけが未だ充分に行われておらず、今後の研究テーマの一つである。

犬山地区では斜面ライシメータで集中的な素過程別収支観測が行われ、山地における水循環機構を詳解するための予備的研究が進められている。この研究は将来、小流域レベルに拡張されることを前提とした研究であり、降雨 - 流出系の制約にとらわれない研究手法である。

蒸発散の直接測定が可能となり、これと組み合わせて森林微気象、樹幹流、降水遮断の研究が赤津でも進展しつつあり、物質循環と水循環の関係の観測・解析と同様に森林生態学と水文学を結びつけた研究が計画されている。

ii 山地保全に関する試験研究

荒廃地復旧の研究も重要テーマであり、これまで大きなエネルギーを投入してきた。犬山地区の山林荒廃はとくに激しく、沢沿いの低地にわずかな緑が認められる程度であったと言われている。しかし1950年来の砂防造林の結果、緑は復活し、当時の荒廃山地の面影は全くない。降雨時の出水も安定し、溜池の農業用水も涸れることはなくなった。まさに名古屋市、犬山市の都市近郊林としての保全・環境保護機能を十分果たしている。

これらの地区の今後の研究課題は、植栽した樹木の生育、裸地斜面の水文特性、地中水の移動と崩壊との関係、山腹緑化工の効果、緑化樹種などに関する研究である。

iii 痩せ地における森林造成に関する試験研究

森林の環境保全機能（水源かん養、洪水防止、保健休養等）を維持しつつ木材生産を行う森林施業法を確立することも、愛知演習林における試験研究の重要な柱である。

天然生林については、1968年からモザイク状皆伐更新法試験（沢を中心に左右交互0.1haを上限に伐採、植栽）を実施している。これは、一斉皆伐に比較して、土壌の保全、あるいは動植物への影響の軽減、台風等気象災害の防止等、有効と考えられる。

人工林においては、間伐法を変えたスギ、ヒノキの総収穫量の比較試験、植栽密度を変えたヒノキ林の生産量の比較試験、恒続的収穫と森林の公益的機能の発揮を両立させる複層林造成試験、成長が劣る林地における肥培効果の比較試験等を行っている。

iv 都市近郊林に関する研究

愛知演習林は立地条件から、東海都市圏をとりまくグリーンベルト地帯にあるので、森林の多元的機能の解明を目的とする研究実験林としての位置づけを明確にし、都市近郊林・環境林に関する自然科学、社会科学を複合する総合的研究が始まろうとしている。

計画段階の項目が多いが、具体的には、都市部と森林との相互作用を水・大気・土壌を媒介として測る自然科学的研究、都市住民あるいは都市部・農村部の作業活動に及ぼす森林環境の機能評価に関する社会科学的研究、森林生態系を保持しながら都市公園の機能を有する森林域の造成実験及びそれに関する各種の試験研究があげられる。

v 森林水文・環境に関わる森林システムの方法論的研究

森林水文、山地保全、環境林、痩せ地造林、社会科学的問題の各研究を総括して、流域管理の方法論を確立する。

(5) 富士演習林

富士演習林は、わが国の代表的なリゾート地にあるため、森林レクリエーション計画、快適環境の維持、景観管理および森林風致施業手法の確立に関する研究を最近の課題としてとりあげている。また、寒地性気候下における森林育成に関する課題をとりあげ、カラマツを中心に寒地性樹種の育苗、育林、林地肥培等に関する研究が継続されている。

(6) 樹芸研究所

i 熱帯・亜熱帯産樹木の増殖・管理・利用に関する研究

温室施設を利用し、造林学研究室と共同で、フタバガキ科樹木の生育条件、生理特性に関する調査研究を進め、熱帯産アカシア属を中心に、酸性土壌に対する生理特性に関する研究を行っている。さらに、温室に導入した熱帯・亜熱帯産樹木について、組織培養による優良個体のクローン増殖、種苗の迅速・大量生産技術の確立を図る。なお、これらの研究は大学院生の研究テーマにもなっている。

また、熱帯・亜熱帯産樹木を温泉熱を利用した温室へ導入して、温室施設内における管理方法を検討し、遺伝子資源の現地外保存に努める。

ii 資源樹木としてのアカシア属・ユーカリ属の造林学的基礎研究

アカシア属・ユーカリ属の導入可能な樹種を選抜するため、現地適応試験を実施する。ある程度可能性のある樹

種について、各地に適応試験地を設定し、導入可能地域を明らかにする。そして、アカシア属・ユーカリ属の現地適応試験地において、優良形質個体の選抜を行い、組織培養、さし木、取り木などのクローン増殖方法を検討する。

また、ユーカリ属の育苗において、ポットの材料、形状が根系に及ぼす影響について調査する。

iii 針葉樹の人工林に関する研究

針葉樹人工林に固定標準地を設定し、経年的に成長経過を測定するとともに樹幹解析などにより、伊豆半島南部の針葉樹人工林の成長量を推定する。

スギ、ヒノキを中心に、枝打ち、除間伐について、省労力化、作業危険性の回避、材の有効利用法を加味した保育管理方法を検討する。

スギの地方品種、ヒノキの採種母樹林別、マツの地方品種・母樹別材料により、選抜育種、交雑育種の研究を行う。

スギ、ヒノキ人工林を広葉樹との二段林に誘導することによって、長伐期大径材の生産と、特用広葉樹導入、混交林による林分の健全化について検討する。

ヒノキの母樹林から育成した実生集団、実生集団から育成したさし木集団、これらの育成過程における遺伝的変化を調査研究する。なお、この研究は大学院生のテーマにもなっている。

iv 環境・資源保全林の造成に関する研究

クスノキ林を中心とした暖帯広葉樹林の非皆伐更新に関する環境条件（林分構造、種子の生産、種子の発芽、稚樹の成長など）について調査研究する。

地理情報システムを活用した調査により、伊豆半島を中心にして、優良形質木の存在位置を確認、登録する。

その他、ブナの樹木フェノロジーに関する研究を進めている。

v 樹木園造成に関する研究

設立以来導入した植物を中心に、保存樹木の生育状況、適応性の調査を行い、データベースに登録する。それについては地理情報システムを活用することを考えている。また、森林教育に寄与するための展示用樹木園、温室等の造成、整備方法について検討する。

(7) 田無試験地

i 苗木、林木の生理に関する研究

種子、苗木、林木の生理・生活現象について、これを理論的に解明し、育苗、育林技術へ応用することを目的とし、具体的には種子の発芽、苗木の繁殖、林木の生長等の仕組みに対して、生殖生理、栄養生理、水分生理、ホルモンおよびガス代謝などの面から解析しようとするものであり、試験地開設以来の中心的課題である。

ii 林木の遺伝育種に関する研究

当試験地で最初の育種研究は、アカマツ、クロマツを中心として、開花、受精、結実に関する基礎的研究が行われてきた。現在では、(1) ポプラ樹木の in vitro での遺伝子保存、(2) 天然生ヒノキの遺伝分析とその活用による新品種の育成、(3) 熱帯産アカシア属樹木の組織培養系の確立などが具体的な研究項目としてあげられている。

iii 森林生態系の構造に関する試験研究

生態系に関する試験研究は、1950年頃からの苗木または成木におけるガス代謝の研究を皮切りに開始され、その後、林木の物質収支に関する基礎的研究、林内に生息する小動物、昆虫等の個体群生態学的研究、昆虫と植物の相互作用など、森林生態系の構造に関する基礎的研究が行われるようになり、現在では中心的研究課題のひとつとなっている。

II-4 研修

(1) 技官

今年度の技官研修は技術官等試験研究研修会議・業務研修発表会・植物群落調査技術研修など、全部で39件であった。参加延べ人数では100人以上にのぼる。演習林内部の研修会の他、日本林学会北海道支部研修・東海地区農学部附属演習林技術職員研修などの外部研修にも積極的に参加し、演習林業務の改善に努めている。

また、ユニークな試みとして、「退職職員の技術伝承研修会」を開催するなど、森林管理技術の継承を図っている。

研修名	研修場所	日程	参加人数
新規採用職員研修	東京大学	4月24日～4月28日	2
造林研修	清澄学生宿舎	6月13日	32
東京大学教室系技術職員研修（コンピュータ関係）	田無試験地	7月17日～7月19日	1
技術官等試験研究・研修会議	田無試験地	10月19日～10月20日	10
業務研修発表会	清澄学生宿舎	2月7日	34
林業機械化協会主催半脚式伐倒機研究会	清澄作業所管内	3月19日	16
平成7年度東京大学教室系技術職員研修（コンピュータ関係）	東京大学大型計算機センター	1月8日～1月10日	1
新規採用職員研修	札幌	4月11日～4月14日	3
中堅職員研修	札幌	9月19日～9月27日	1
日本林学会北海道支部春季大会	札幌	4月3日～4月4日	24
日本林学会北海道支部秋季大会	札幌	10月12日～10月13日	5
北海道大学演習林技術職員研修	北海道大学中川地方演習林	11月13日～11月16日	2
北海道林務部林業技術研究発表会	札幌	1月31日～2月1日	3
帯広営林支局業務研究発表会	帯広	2月8日	9
旭川営林支局業務研究発表会	旭川	2月8日	8
北海道営林局業務研究発表会	札幌	2月8～2月9日	4
森林総合研究所北海道支所研究発表会	札幌	3月26日	10
技術職員研修	新得町、音更町	10月31日	23
平成7年度東京大学教室系技術職員研修（生態系関係）	田無試験地農場	7月17日～7月19日	4
平成7年度東京大学教官系技術職員研修（森林調査・管理関係）	秩父演習林栃本管内	6月18日～6月22日	12
直営生産事業安全講習会	秩父演習林大血川管内	9月22日	15
平成7年度技術連絡会議	埼玉県林業試験場	7月20日	3
国道140号現地検討委員会現地研修会	山梨県三富村	3月4日～3月5日	10
第2回東海地区農学部附属演習林技術職員研修	岐阜大学演習林	9月18日～9月21日	2
森林施業視察研修	北海道大学和歌山地方演習林	3月25日	7

(2) 事務官

大学、演習林における事務を遅滞なく円滑に推進するため、各種業務研修に担当者を参加させている。また、定められた職員研修には該当者を必ず参加させ、資質の向上を図っている。

研修名	研修場所	日程	参加人数
造林研修	清澄学生宿舎	6.13	4
平成7年度契約事務担当者実務研修	東京大学	11.6～11.10	2
平成7年度新規採用職員研修(III務)	東京大学	5.16～5.19	1
平成7年度会計事務担当者実務研修	東京大学	10.3～10.6	2
業務研修発表会	清澄学生宿舎	2.7	4
平成7年度人事事務担当者実務研修	東京大学	10.17～10.20	1
掛長研修	東京大学	6.20～6.23	2
主任研修	東京大学	10.24～10.27	1
災害補償実務担当者研修会	札幌	10.17	1
平成7年度南関東・甲信越地区国際交流担当者実務研修	東京大学	9.27～9.29	1
平成7年度契約事務担当者実務研修	東京大学	11.6～11.10	2
平成7年度国立学校事務長研修	東京大学	10.25～10.27	1

(3) 安全・防災

作業の安全及び職員の健康に関する研修を実施している。演習林独自に実施するものの他、地域で開催される各種講習等にも積極的な参加を図っている。

研修名	研修場所	日程	参加人数
機械器具取扱い安全研修	清澄作業所	7.7	11
作業安全対策検討会	清澄学生宿舎	8.8	35
救急法に関する講習会	北海道演習林	7.12	53
林内作業の安全対策講習会	北海道演習林	7.12	47
交通安全講習会	北海道演習林	12.13	59
健康管理講習会	北海道演習林	12.13	55
平成7年度東京大学安全管理講習会	秩父演習林		1

II-5 山火事予防活動

山火事の防止は森林の管理の中でも極めて重要な位置を占めており、消火訓練や研修だけでなく通常の警戒にも力を入れている。

名称	場所	日程	参加人数
山火事予防警戒春期研修	郷台作業所管内	4.18	30
山火事予防警戒冬期研修	清澄作業所管内	2.3	30
救急法に関する講習会	鴨川保健所	3.19	3
消火訓練	北海道演習林		73
消防訓練（可搬式消防ポンプ操作）	秩父演習林栃本管内		14
山火事防止のための監視（大滝管内入猟者のチェック）大滝村主催共催団体、秩父演習 林他	大滝村	11.15～2.15	14

II-6 国際交流

(1) 国際学術交流協定

本演習林と国立台湾大学農学院演習林（中華民国）との間の共同研究推進の覚え書きを交わし（1993.4.30）、相互の演習林訪問を実現した。

1990年に東京大学とソウル大学校との間で締結された学術交流協定に基づいて、両大学演習林間の交流促進を協議中である。

(2) 国際シンポジウム

集会、シンポジウムへの参加は、以下の通り。

木佐貫博光	第20回IUFRO世界大会	IUFRO	フィンランド	1995年8月6日～8月12日
木佐貫博光	IUFROカラマツの遺伝育種研究集会	IUFRO部会S2.02-07	スウェーデン	1995年7月31日～8月4日
仁多見俊夫	第20回IUFRO世界大会	IUFRO	フィンランド	1995年8月6日～8月12日
芝野博文	The International Sabo Symposium	Japan Society of Erosion Control Engineering	Tokyo	8月30日
芝野博文	International Seminar and Symposium on Sabo Engineering	Directorate General of Water Resources Development	Yogyakartaインドネシア	11月6日～11月9日

(3) 外国人研究者招聘

国立台湾大学農学院の姚榮乃、李國忠の2氏を招聘した。

(4) 外国人研究者の講演会

今年度の該当はなし。

(5) 外国人研究者の来訪

中国科学院新疆生物土壤沙漠研究所より 2名

研究者氏名	国籍	来訪目的
田 荊祥	中国	演習林見学
Mudji.Susanto	インドネシア	天然林施業と育種
Azam.BinDaud他2名	マレーシア	天然林施業
Michel.Roy	米国	森林経営と野生生物保護
賈文武	中国	カラマツ採種園の造成技術
Samran.Tongkkruad他9名	タイ	森林造成技術
Anan.Keetakorn	タイ	天然林施業
Marcello.Intini	イタリア	樹病
Vicente.Sanchez	アルゼンチン	天然林施業
Laigansuen.Batdorj	モンゴル	天然林施業
Scott V. Edwards (ワシントン大助教授)	アメリカ	演習林の森林と鳥類研究の視察・研究打合せ
Daniel Harrison(メイン大準教授)	アメリカ	演習林の森林とツキノワグマの研究の視察
Dr.Nipon	タイ	水文観測施設の視察
Mr. Stephanus	インドネシア	森林復旧計画調査

(6) 外国出張

11件の出張があった。渡航先をすべてあげると、台湾・中国・ブラジル・インドネシア・韓国・ドイツ・スウェーデン・フィンランド・ヴェトナム・・連合王国・タンザニア・フランスとなる。

No	氏名	官職	目的国	目的	期間	種別
1	仁多見俊夫	文部教官助教授	ドイツ・スウェーデン、フィンランド	林木種苗生産システムの調査国際林学会での研究講演	7.7.26～7.8.13	文出張
2	奈良 一秀	文部教官助手	中国	塩類土壌調査	7.7.5～7.7.14	科研出張
3	寶月 岱造	文部教官教授	中国	塩類土壌調査	7.7.5～7.7.12	科研出張
4	八木 久義	文部教官教授	ブラジル	ブラジルにおける湿潤と半乾燥熱帯における樹木の適応戦略に関する研究	7.8.9～7.9.1	科研出張
5	八木 久義	文部教官教授	ヴェトナム	社会林業モデル確立調査計画事前調査のため	7.9.18～7.9.30	JICA出張
6	梶 幹男	文部教官助教授	連合王国、タンザニア、フランス	熱帯アフリカサバンナ林の有用植物の探索とその生理活性物質の化学的研究	7.10.24～7.11.29	科研出張
7	大里 正一	文部教官教授	フィンランド、スウェーデン	林業用ハ・ベスタに関する研究	7.10.28～7.11.12	委任経理金出張

(6') 海外研修旅行

No	氏名	官職	目的国	目的	期間
(1)	木佐貫 博光	文部教官助手	フィンランド、スウェーデン	IUFRO「カラマツの産地と育種」研究発表、IUFRO「第20回世界大会出席	7.7.30～7.8.13
(2)	仁多見俊夫	文部教官助教授	フィンランド、スウェーデン	機械化素材生産作業システムの調査	7.10.19～7.11.8
(3)	芝野 博文	文部教官講師	インドネシア共和国	砂防に関する国際セミナー及びシンポジウム出席のため	7.11.3～7.11.11
(4)	大里 正一	文部教官教授	中国	浙江林学院演習林及び周辺地域の伐出システムに関する調査	8.2.20～8.2.25

(7) 共同研究

「森林利用に関する研究」(台湾大学)および「火山体水収支に関する研究」(インドネシア国)の2件あった。

教官名	研究テーマ	共同研究者氏名	国籍
大里正一	森林利用に関する研究	呉順昭(国立台湾大学教授)	中国

II-7 出版・広報活動

(1) 演習林報告

学術論文「演習林報告」93号（8論文145ページ）、94号（7論文176ページ）を印刷発行し、国内向け484部、国外向け114部を配布した。（配付先変更ないか？）

(2) 演習林

演習林に関する資料集である「演習林」34号（320ページ）を演習林100周年記念の第3巻目として印刷出版した。

(3) 著書

単著、共著を含め演習林教官により4編が発刊された。

著者名	著書名
大里 正一・佐倉 詔夫	マツノザイセンチュウ抵抗性マツの選抜育種と抵抗性苗
佐倉 詔夫	現代生態学とその周辺，沼田眞編 - 造林地の遷移 -
佐倉 詔夫・大里 正一	森へゆこう - 大学の森へのいざない - 全国大学演習林協議会編 牛蒡沢スギ人工林《東京大学農学部附属千葉演習林》
山本 博一	森へ行こう - 大学の森へのいざない - 全国大学演習林協議会編 持続可能な北方林《東京大学北海道演習林》
梶 幹男・大久保達弘	現代生態学の周辺（沼田眞編）ブナ類の堅果生産と実生の発生 に係わる要因とその影響 -
蒲谷 肇	現代生態学とその周辺（沼田眞編 東海大学出版会）千葉県におけるシカとサルによる農林業被害と対策
蒲谷 肇	生物-地球環境の科学（大沢・大原編，朝倉書店）房総丘陵のニホンジカによる植生へのインパクト

(4) その他

学内広報に8件の記事が掲載された。他の広報は以下の通り。

No.	誌名		内容
1	学内広報	1027号	北海道演習林で開催した公開セミナー -
2	学内広報	1029号	森林体験セミナー - への参加者募集
3	学内広報	1033号	森林体験セミナー - への参加者募集、北海道演習林で職員安全対策講習会開かれる
4	学内広報	1039号	平成7年度演習林技術官等試験研究・研修会議開催される
5	学内広報	1044号	第5回森林体験セミナー - 行われる 森林体験セミナー - に参加して
6	文教速報	5415号	千葉演習林で森林体験セミナー -
7	文教ニューズ	1344号	東大附属演習林で第5回森林体験セミナー -
8	学内広報	1045号	農学部附属演習林（樹芸研究所）で森林教室行われる
9	文教速報	5419号	東大演習林樹芸研究所が森林教室を開催
10	文教ニューズ	1345号	東大演習林樹芸研究所が森林教室を開催
11	広報みなみいず	339号	東大演習林樹芸研究所が森林教室を開催
12	学内広報	1051号	停年退官教官の紹介
13	文教速報	5453号	全国優良素材展で演習林産材が金・銀賞を受賞
14	文教ニューズ	1358号	東大農学部附属演習林産材全国優良素材展示会で金賞、銀賞
15	学内広報	1054号	全国優良素材展示会で演習林産材が金賞・銀賞

II-8 科学研究費・受託研究等によって行われた研究（1995年度）

(1) 科学研究費

教官名	研究種目	研究課題	研究代表者名	研究代表者所属
大里正一	一般研究(A)	亜寒帯林における森林衰退現象の実態把握と環境要因の解析	大里正一	千葉演習林
大里正一	試験研究(B)(1)	広葉樹枝払い機能付ハーベスタの開発に関する研究	湊 克之	北海道大学農学部 附属演習林
前原 忠	一般研究(C)	サル・シカの生息保護地域の森林保全と改良に関する研究	蒲谷 肇	秩父演習林
前原 忠	奨励研究(A)	森林に生息する大型土壌動物群集の構造と機能の解明	前原 忠	千葉演習林
山中征夫	一般研究(C)	ヤマビルの生態に関する基礎的研究	山中征夫	千葉演習林
梶 幹男	試験研究(A)(1)	森林地域における酸性雨等地球環境モニタリング体制の確立	藤原晃一郎	北海道大学農学部
梶 幹男	一般研究(B)	大面積プロットによる秩父地方山地帯天然林生態系の解明	梶 幹男	秩父演習林
梶 幹男	国際学術研究	熱帯アフリカサバンナ林の有用植物の探索と生理活性物質の 化学的研究	大東 肇	京都大学農学部
蒲谷 肇	一般研究(C)	サル・シカの生息保護地域の森林保全と改良に関する研究	蒲谷 肇	秩父演習林
蒲谷 肇	一般研究(B)	大面積プロットによる秩父地方山地帯天然林生態系の解明	梶 幹男	秩父演習林
石田 健	一般研究(C)	コゲラ個体群の生態的・分子生物学的な比較	石田 健	秩父演習林
石田 健	一般研究(B)	大面積プロットによる秩父地方山地帯天然林生態系の解明	梶 幹男	秩父演習林
井出雄二	一般研究(B)	耐乾燥性ポプラ属樹木の遺伝変異および遺伝子保存に関する研究	井出雄二	研究部
井出雄二	創成的基礎研究	東アジアにおける地域の環境に調和した持続的生物生産技術開発のための基盤研究	佐々木恵彦	東京大学農学部
井出雄二	試験研究(B)(2)	新しい森林管理法「家系管理法」の確立	寶月岱造*	アジア生物資源環境研究センター
山本博一	一般研究(C)	種の特性に着目した北方天然林の林分構造の解析	山本博一	北海道演習林
山本博一	一般研究(C)	森林資源の持続的利用技術と基盤整備	仁多見俊夫	北海道演習林
仁多見俊夫	一般研究(C)	森林資源の持続的利用技術と基盤整備	仁多見俊夫	北海道演習林
仁多見俊夫	一般研究(C)	種の特性に着目した北方天然林の林分構造の解析	山本博一	北海道演習林
中村 昇	一般研究(C)	針葉樹若齢木のヤング係数測定法の検討と選抜育種	中村 昇	北海道演習林
木佐貫博光	奨励研究(A)	DNAフィンガープリント法によるカラマツ属交雑家系の遺伝構造の解明	木佐貫博光	北海道演習林
木佐貫博光	一般研究(C)	エゾマツとアカエゾマツの種間雑種の遺伝的多様性の評価	倉橋昭夫	北海道演習林
木佐貫博光	一般研究(C)	種の特性に着目した北方天然林の林分構造の解析	山本博一	北海道演習林
木佐貫博光	試験研究(B)(2)	新しい森林管理法「家系管理法」の確立	寶月岱造*	アジア生物資源環境研究センター
倉橋昭夫	一般研究(C)	エゾマツとアカエゾマツの種間雑種の遺伝的多様性の評価	倉橋昭夫	北海道演習林
倉橋昭夫	試験研究(A)(1)	森林地域における酸性雨等地球環境モニタリング体制の確立	藤原晃一郎	山形大学農学部
仁多見俊夫	一般研究(C)	森林資源の持続的利用技術と基盤整備	仁多見俊夫	北海道演習林
八木久義	一般研究(B)	強酸性黒色土の生成機構の解明	八木久義	愛知演習林
八木久義	試験研究(B)(2)	A0層を用いた酸性雨に起因する森林土壌の酸性化防止技術	八木久義	愛知演習林
八木久義	総合研究(B)	地球環境計画における土壌生態系機能の保全と修復	浅見輝男	茨城大学
八木久義	試験研究(A)(1)	森林地域における酸性雨等地球環境モニタリング体制の確立について	藤原晃一郎	北海道大学

芝野博文	総合研究(A)	火山体における雨水流出・地形発達の相互作用に関する比較水文学的研究	小橋澄治	京都大学
芝野博文	一般研究(B)	強酸性黒色土の生成機構の解明	八木久義	愛知演習林
芝野博文	試験研究(B)(2)	A0層を用いた酸性雨に起因する森林土壌の酸性化防止技術	八木久義	愛知演習林
芝野博文	一般研究(B)	大面積プロットによる秩父地方山地帯天然林生態系の解明	梶 幹男	秩父演習林
春田泰次	一般研究(B)	強酸性黒色土の生成機構の解明	八木久義	愛知演習林
春田泰次	試験研究(B)(2)	A0層を用いた酸性雨に起因する森林土壌の酸性化防止技術	八木久義	愛知演習林
寶月岱造*	一般研究(B)	マツ材線虫病における宿主抵抗性の細胞生物学的解析	寶月岱造*	アジア生物資源環境研究センター
寶月岱造*	試験研究(B)(2)	新しい森林管理法「家系管理法」の確立	寶月岱造*	アジア生物資源環境研究センター
寶月岱造*	創成的基礎研究	東アジアにおける地域の環境に調和した持続的生物生産技術開発のための基盤研究	佐々木恵彦	農学部
寶月岱造*	試験研究(B)(2)	植物機能物質の動態の可視化による解析用装置の開発と応用	室伏 旭	農学部

寶月岱造*: 平成7年8月1日アジア生物資源環境研究センターに異動

(2) 他研究機関との共同研究

4件の共同研究があった。

教官名	研究課題	共同研究者(社、団体)名
前原 忠	多摩川およびその流域の都市化と環境保全	(財)日本自然保護協会(とうきゅう環境浄化財団助成研究)
八木久義	地球環境計画における土壌生態系機能の保全と修復	浅見輝男
八木久義	森林地域における酸性雨等地球環境モニタリング体制の確立について	藤原晃一郎
芝野博文	火山体における雨水流出・地形発達の相互作用に関する比較水文学的研究	小橋澄治

(3) 受託研究

演習林が受託している秩父演習林環境調査に演習林の多くの教官が関った。

教官名	研究課題	委託機関
前原 忠	秩父演習林自然環境調査	建設省
梶 幹男	秩父演習林自然環境調査	建設省
石田 健	秩父演習林自然環境調査	建設省
石田 健	『豊かな森』を実現するための森林性鳥獣の保護管理手法に関する研究	緑と水の森林基金
寶月岱造・奈良一秀	秩父演習林自然環境調査	建設省
大橋 邦夫	秩父演習林自然環境調査	建設省

(4) 奨学寄付金

高橋郁雄	ヤツバキクイムシにより伝搬されるオフィオストマキン科菌類のエゾマツに対する病原性
仁多見俊夫	森林作業用小型車両機械の作業システムの研究開発

II-9 各種委員会報告

(1) 運営委員会

運営委員会は、演習林規則第5条により設置したもので演習林の管理及び運営に関する重要事項を審議する。今年度は平成7年7月14日および平成8年3月1日の2回開催された。

また、委員は、委員長である演習林長が

- ・演習林の教授及び助教授
- ・農学部長が推薦する農学部の教授又は助教授

に委嘱する。

(2) 地方林長会議

演習林における種々の活動について報告及び審議がなされる。今年度の開催は平成7年7月14日、平成7年12月12日および平成8年3月1日の3回であった。

会議は、

- ・地方演習林の林長
- ・事務長、事務長補佐、掛長

で構成されている。

地方林長会議の前に本部研究部の講師以上の教官を含めた、小委員会を開催し、林長会議の議題整理並びに検討を行った。

(3) 補佐会議

本演の林長の補佐会議であり、演習林会議と同様に演習林長の諮問機関である。毎月1回会議がもたれた(8月を除く)。

(4) 演習林会議

演習林長の諮問機関の役割を持つ。毎月1度開催された(8・9月を除く)。会議のメンバーは、助教授以上の教官、事務長である。

(5) 将来計画委員会

1992年3月3日の演習林長会議で、自己点検・評価を行うために発足した。委員会による検討結果は林長に報告され、演習林長会議に諮られ、すでに各地方演習林の「試験研究計画」にも反映されている。本年度の開催日と議論の内容は以下の通りである。

平成7年7月14日 演習林の運営上の問題を考慮した展望と施策策定の必要性を指摘。(資料)

平成7年12月12日 21世紀の演習林像について検討。人間活動と森林の相互関係の構築が課題であることを指摘。

平成8年1月29日 演習林の組織機構の改革について検討。事務組織の必要性を指摘。

平成8年3月1日 平成7年度の将来計画委員会の活動について演習林運営委員会に報告。

資料

1995.12.12 林長会議資料

21世紀の演習林像

演習林将来計画委員長 井出雄二

1. 21世紀における森林と人間の関係

これまで、森林と人間との関係は利用されるものと利用するものという片務的な関係に終始してきたといえる。古代文明の発祥から今日にいたるまで、人間は連綿として天然資源としての森林の収奪の上に自らの生活を築いてきた。21世紀は、これまで以上の人口増加が予想され、さらに森林をはじめとする生物資源の収奪が激しさを増すと予想される。このような状況にあって、森林を持続的に維持し、人間生活に必要な物質の生産と環境を保障することは極めて重要であり、多くの困難な条件を克服しつつ実現しなければならない課題であるが、まさにこれが21世紀の森林科学に課せられた命題であるといえる。一方、森林は木材という形で直接資源を提供するだけでなく、有機物の生産という形で地域の生物生産を支え、また、地球全体の生物圏環境を維持するために多くの働きをしているが、我々がこのような視点での森林を理解しようとしはじめたのはごく最近のことである。地球環境を維持し、持続的に生物生産を維持してゆくことが人類の最大の課題といわれる今日、これまでの片務的な森林と人間の関係を清算し、森林と人間の共存を可能にする新たな相互関係の構築が必要とされている。こうした課題を解決するためには、これまでのように森林を人間が利用するものとしてとらえる考え方を抜本的に改めて、人間も含めた生物の生活全てを支える根源として認識し、ただ単に森林の造成や管理のための技術体系の構築にとどまらず、日常的な生活習慣の改変、思想的なバックグラウンドの構築など、人間活動の幅広い分野で、森林と人間のこれまでにない新たな相互関係を構築する必要がある。

2. 東京大学演習林が目指すもの

これまで、東京大学演習林は、森林の維持・造成にかかわる教育・研究のための農学部施設として、その機能を十分に発揮してきたところであるが、演習林の様々な活動（また、木材生産や国土保全といった人間から見た森林利用という点を重視したものであったことは否定できない）。しかし、そうした中において、北海道演習林における「林分施業法」という独特の持続的森林経営、千葉演習林における「集約的な人工林施業」、秩父演習林における「奥地天然林の保全」、愛知演習林における「砂防造林」など、他に類をみない先取的な森林の取り扱いを実践してきていることは、他の森林研究機関に無い極めてユニークな特徴である。21世紀における新たな森林と人間の関係を構築するためには、これまでの林学、農学の分野にとどまらず自然科学、人文科学の幅広い分野の研究者の参加を求め、学際的な森林研究を行うことが必要不可欠である。また、多くの人々に新たな森林との付き合い方を理解してもらう必要がある。さらに、そうした森林と人間の関係を現実のものとするための森林管理の実験場として機能する、有効なフィールドを確保できることも必須の条件である。このような、研究、教育と森林管理を一体のものとして実現できる組織は、研究、教育のために必要とされる質と量の森林を有し、先進的な森林管理の実績のある東京大学演習林以外に無い。

3. 具体的な取り組み

東京大学演習林は、21世紀における森林と人間の新たな関係の構築に寄与すべく、これまで共同研究の推進などに取り組んできているが、今後さらに学際的な研究を強化し、研究組織の拡大・充実に努めるとともに、新たな課題に即応できる森林管理体制の強化を図りたい。さらに、こうした目標は、一般に理解されて初めてグローバルなものとなる。そこで、これまで行ってきた、一般学生や市民に対する森林・環境教育も一層強化充実させ、一般の理解を得ることに努めたい。東京大学演習林は、全国7ヶ所にそれぞれの気候や森林帯に応じた多様な森林を保有している。現実には、それぞれの演

習林には過去100年におよぶ森林施業の歴史に裏打ちされた、森林管理システムが存在し、それぞれ目標とする森林形態も異なっている。そこで、地方演習林ごとの特質を考慮した、持続的な森林と人間の関係のあり方について、研究することが必要となる。新たな森林と人間の関係の構築を目指す演習林の研究組織として、様々な学問分野の教官がそれぞれの専門の立場において自由に討議できるような場と、それをふまえて具体的な森林管理法を研究する場（現在の「森林生態圏管理学協力大講座」と地方演習林）の両者が両輪になって推進できるものが必要と考えられる。森林の管理においては、一過的なエモーションによって方針が揺れ動くことは、森林そのものの持続性を脅かす脅威となる。安定した、森林研究の発展のためには、確固とした方針の下に森林施業が行われていることが必要である。そのためにも、具体的な森林管理を実現できる安定した組織は必要不可欠である。なお、演習林が森林に関する新たな研究を担ってゆくためには、それに対応すべき教官・技官・事務官・フィールドの充実が不可欠である。

4. 実現すべき組織機構の検討

これまで、東京大学農学部附属演習林は農学部の大学院重点化の中で、現在の学部附属施設から大学院附属施設化の方向で将来の方向を検討してきた。上のような取り組みを実現するために必要な組織・機構上の課題については、現在検討中である。

(6) 試験研究計画委員会

農学部改組や演習林の協力講座化に対応して演習林全体の試験研究計画のあり方について検討するため、地方演習林長を委員として、平成6年度に発足した。平成7年度においては3回の委員会を開催して、「東京大学演習林試験研究計画大綱」と「北海道演習林第11期試験研究計画の基本方針」について検討した。これらの「大綱」（資料）と「基本方針」は、平成8年3月1日開催の地方林長会議、運営委員会の議を経て承認されている。

資料

1996・3・1

東京大学演習林試験研究計画大綱
試験研究計画委員会

1 基本的な理念

地球的規模の環境問題及び森林の破壊・劣化を目の前にして、森林の持続的経営に多大の関心が寄せられている。熱帯林の減少問題、温帯林の酸性雨等による森林衰退問題、寒帯林の更新問題、森林遺伝子資源の消滅問題等々、広範囲の森林問題の解決に対処し、森林資源の維持と再生は21世紀の人類に課せられた最大の課題である。このような課題に対して、各種森林の維持管理、森林資源の再生利用等の森林造成に関して、100年以上の歴史と実績を有する東京大学演習林は、これまで持続可能な森林経営を実践し、学部及び大学院の教育施設としての役割を果たすとともに、多様な森林問題に対応した各種試験研究を実施し、それらの成果は広く社会へ還元してきたところである。

従って東京大学演習林は、今後ともわが国の気候帯を代表する総面積3万3千haの多様な森林の機能を遺憾なく発揮させ、以下のような研究教育に関する課題を実行できる森林の管理を進める。そのために、より多様な天然林の維持、長伐期施業も視野に入れた人工林の造成、森林遺伝子資源の保全・収集、超長期にわたる森林環境モニタリング等に努め、東京大学演習林の将来計画に基づき、各種多様な研究教育のフィールドを提供し、現実の森林に即した臨森研究教育の展開を可能ならしめることを基本的な理念とする。

2 全演的な主要な課題

(1) 地球規模での森林資源の再生と活用技術の開発

森林資源は持続的利用可能な再生資源として注目されているが、特に天然林の生理生態メカニズムは未だ未知の部分が多く残されている。天然林の育成、利用、保続管理手法を総合的に研究し、その再生と活用技術を開発する。

(2) 森林遺伝子資源の保全・収集と活用技術の確立

演習林内に現存する遺伝子資源の保全管理に努め、その生態遺伝的評価を推進する。同時に、森林遺伝子資源を世界的規模で収集維持するとともに、それらの遺伝的特性を解明するとともに、その情報に基づく林木の育種研究を進展させる。

(3) 森林環境のモニタリングと野生動物管理システムの確立

森林環境のモニタリングによって動植物の動態評価手法を構築する。特に、野生動物を適切に保護しつつ、これらを合理的に管理するシステムの確立に努める。

(4) 森林の水源涵養機能と水文分析に関する研究

森林地域における水源涵養機能発揮、治山、治水、利水に関する研究は、水資源の確保、災害予防等の点から近年ますます重要となっている。そこで演習林の植生、土壌、地質、水文に関する資料を蓄積し、その分析を通じて当該研究の進展を図る。

(5) 都市近郊林等の森林整備に関する研究

都市住民の増加及び人口の高齢化に伴う新しいライフスタイルに適応した都市林・都市近郊林整備計画、余暇の増大と自然志向型レクに対応した森林風致計画に関する研究を進める。

(6) 森林地域社会の活性化に関する研究

高度経済成長以降、森林が立地する農山村地域は、過疎化と高齢化が進行し、その文化的・社会的・経済的基盤の整備が急務となっている。演習林資源を中核とした地域経済、地域文化の活性化に関する研究を進める。

(7) 演習林編集委員会

当演習林の発行する「東京大学農学部演習林報告」、「演習林」の発行編集を行う委員会である。

1995年度は計5回の委員会が開催され、「東京大学農学部演習林報告」は93号（8論文145ページ）、94号（7論文176ページ）を印刷発行し、「演習林」は34号（320ページ）を印刷出版した。

(8) 演習林施設委員会

演習林の「施設の適正利用と改善の方策について」検討するため、平成8年2月16日から委員会を設置し、平成7年度には、第一回の委員会が開催され、田無試験地について意見交換が行われた。

(9) 全演の事務主任会議

平成7年8月3日～8月4日に開催された。当初予算配分の説明、地方演の近況報告、各掛所管事項の説明などが行われた。周知確認のための会議であり、構成員は本部事務部掛主任以上、地方演事務主任である。

(10) 技術官等試験研究・研修会議

本会議は年に1回開催される会議で、各地方演習林における日頃の研究成果を発表する技術発表と、主に教官による最新の研究内容などを盛り込んだ講義形式に似た技術研修から成る。毎年、各演習林の持ち回りで主催され、今年度の会議は田無試験地にて行われた。

II-10 学外各種委員会

延べ 27 人の教官が学外で各種委員会の委員となっている。

教官名	委員会名称	委員会所轄団体
有沢 浩	漁岳周辺森林生態系保護地域設定委員会	北海道営林局
石田 健	森林科学編集委員会	日本林学会
石田 健	目録編集委員会	日本鳥学会
井出 雄二	樹木医認定委員会	(財)日本緑化センター
井出 雄二	熱帯林再生技術研究組合技術開発委員会	熱帯林再生技術研究組合
大里 正一	国土利用計画審議会	千葉県
大里 正一	日本林学会評議委員会	日本林学会
大里 正一	林業機械検査委員会	林業機械化協会
大里 正一	森林審議会	千葉県
大里 正一	機械開発委員会架線用フェラーシステム研究会	(社)林業機械化協会
大橋 邦夫	林木育推進中央協議会	林野庁林木育種センター
梶 幹男	林業技術編集委員会	林業技術協会
梶 幹男	RDB群落編作業委員会	日本自然保護協会
梶 幹男	自然環境保全基礎調査植生分科会	環境庁自然保護局
梶 幹男	自然環境保全基礎調査検討会	環境庁自然保全局
蒲谷 肇	天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会	千葉県富津市・君津市
蒲谷 肇	千葉県史自然誌系維管束植物・植生執筆委員会	(財)千葉県史料研究財団
佐倉 詔夫	千葉県史編纂，維管束植物・植生執筆委員会	(財)千葉県史料研究財団
仁多見俊夫	機械開発委員会育林機械(植付機械)研究会	(社)林業機械化協会
仁多見俊夫	基礎調査専門委員会調整会議構成委員会	上川南部流域林業活性化センター
八木 久義	熱帯林保全農業・農村開発調査委員会	農用地整備公団
八木 久義	学術審議会	文部省学術国際局
八木 久義	林業分野プロジェクト方式技術協力に係る国内委員会	文部省学術国際局
芝野 博文	ホフマン工事に関する検討会	(財)砂防フロンティア整備推進機構
芝野 博文	地球環境観測委員会	宇宙開発事業団
山中 征夫	千葉県鳥獣保護委員会	千葉県安房支庁
山本 博一	旭川営林支局入札監視委員会	旭川営林支局

II-11 試験研究業務

(1) 各演の森林施業と土地管理

1 千葉演習林

i 森林施業

人工林の主間伐材積を年成長量以下とし、主伐は伐期齢を70年から95年までのうち年間約4ha、2,500m³。間伐は高輪伐期施業林を中心とした高齢林を主とし、年間約15ha、1,000m³（本数間伐率で30%前後程度）を目標にしている。処分方法は、一般競争入札による立木売払処分である。材積調査は処分前年の12月に毎木調査を行い、処分年度の7月に立木で競争入札にかける。

人工植栽は基本的には春植えとし、皆伐跡地の二代目造林で、その20～30%は岩石地等により植栽不能地が出る。植栽樹種は、スギ、ヒノキ、マツを主とし、ha当り、スギ・ヒノキ3,500～4,500本、マツ5,000～6,500本として、土地の肥沃度に応じ樹種を選定し、植栽されている。

当演習林の林道は森林施業路としての機能の他に、教育研究の場としてさらに森林の視察や資材、人員を運搬する輸送路としての機能がある。

したがって、林道開設や維持管理は、これらのニーズに応じて行われている。

林道開設は、近年尾根筋に多く、その理由は下記のとおりである。

- (1)集材機械の発達により、上げ荷集材が可能になった。
- (2)最新の集材機械（タワーヤーダー）は主に上げ荷集材を行うため、尾根線林道で実験を行っている。
- (3)尾根線林道からは、見本林等の林分全体を観察することができる。
- (4)開設費、維持費が谷沿林道より先安価である。
- (5)谷沿林道と比較して災害が少ない。

林道維持管理については、当演習林の林道は、一般の林道と違い、実験フィールドとして利用されることもある。近年の直接的利用としては、新しい横断排水の方法を試験的に行っている。間接的利用としては、タワーヤーダー、プロセッサ等の試験を行っている。また日常業務においては、路面状態に合致した砕石の種類及び敷均し方を模索しながら行っている

以上、当演習林の林道は、演習林の試験研究機関としての機能を最大限に発揮できるように開設及び維持管理を行っている。

ii 土地管理

千葉演習林の総面積は2,171haで、行政区画上は天津小湊町に861ha、君津市に1,310haである。その境界は総延長82kmに及び、現在大部分の境界杭は木柱からコンクリート杭に立替えられたが、一部木柱の腐朽や山地崩壊、河川敷地の流亡等によって不明な箇所がある。これらは早急に明らかにする。

現在計画されている追原ダムの建設、それに伴う道路の開設さらに林道南房総線の開設等重要な課題をかかえ、教育・研究機関としての慎重な対応がせまられている。

2 北海道演習林

北海道演習林は北方林業・林学に関する研究・教育を目的として1899年に設立されて以来96年を経過している。この間、森林に関する自然科学の探求と森林経営を実証的かつ実践的に進め成果を挙げるとともに、北海道中央部の富良野地域における地域社会、地域経済の発展に少なからぬ影響を与えてきた。一方、研究林・教育林としてだけでなく、University Forestとして大学の財産的施設としての性格をも併せ持ち、林産物収入によって大学の運営に貢献してきた。近年、社会経済環境の変化に伴って演習林をめぐる状況も多様化し、学内外から自然科学を中心とするあらゆる分野の研究・教育利用が増大している。特に地球的規模で進行している環境変化に伴い、森林資源の維持造成への関心が高まるとともに、大学等の研究機関による研究利用、一般市民による教育利用などに開かれた演習林としての役割が強要請されている。

北海道演習林に対する要請は時間の経過とともに変化しており、適宜対応してゆかねばならないが、農学・生命科学分野における人類社会への知的貢献を基本とし、学内・学外の幅広い分野の研究・教育の場として健全な森林を維持造成することを試験研究業務の目的とする。

特に、北海道演習林の特筆すべき特長である

- 1)冷温帯林と亜寒帯林の特徴を併せ持つ自生植物種の多様性
- 2)樹木園の北方系樹木コレクション
- 3)多様な自然環境とそれに基づく生態系の豊富さ
- 4)面積2万3千ha、標高差1300mの連続した空間的スケールの大きさ
- 5)96年間にわたる持続的森林経営の時間的スケールの大きさ
- 6)高レベルの森林生態系管理技術をもつ林業技術者の集団
- 7)高密度の林内到達林道網による利便性
- 8)地域のていねいな素材生産技術と林産物の高度利用システムの存在

を十分に活かし、

北方林の自然生態系を尊重した持続的森林経営のための施業実験
 多様な生態系を基盤とした遺伝子資源の保全管理と天然樹種の生態遺伝特性の解明
 広大な森林を対象とした気候変動・酸性降水物などによる森林環境変化の組織的モニタリング
 森林資源を基盤とした農山村社会・経済システムの研究
 森林生態圏が生み出す水資源および水辺の環境に関する研究

を今後充実させるべき研究テーマと位置づけて試験研究体制を整備する。

また、演習林は森林全体が継続的研究の対象となっていることから、演習林を利用した研究にあたっては、その管理方針を尊重したものでなければならない。

健全な森林を育成する過程で森林の機能をより多様に発揮し、人類社会に必要な資源の持続的利用を図るため、択伐と天然更新によって持続的に運営できるよう、本来の自然生態系を尊重した森林の管理を行う。こうした森林では種構成を攪乱しないよう自生種以外の生物種の導入は行わない。そして、森林環境の多様性、種の多様性を維

持するため保存林・保護区の規模および箇所数を拡大する。

i 森林施業について

1)天然林施業(16,871ha)の考え方

- ・林分施業法に基づき、個々の林分の状況に応じた持続的森林経営を実行する。
- ・蓄積経理の方法は照査法に準拠する。択伐にあたっての伐採率は材積成長率の範囲内とし、選木にあたっては立木本数・樹種構成・後継樹の維持に配慮する。
- ・回帰年は第1作業級 10年、第2作業級 20年とする。
- ・択伐率は第1作業級では固定標準地の調査結果から年平均成長率 2.07%を採用し 16%とする。第2作業級では年平均成長率 1.16%を採用し択伐率 17%とする。
- ・林況調査の簡素化を図るためにメッシュ法による現存量調査を実施する。
- ・ヤツバキクイムシによる虫害を回避するため、第2作業級では伐区が連続しないよう伐採順序に配慮する。

2)人工林施業(3,067ha)の考え方

- ・人工林は針広混交複層林へ誘導し、択伐施業の対象とするため、風害に配慮しながら本数密度調整のための間伐を積極的に促進する。(829ha, 52,000m³)
- ・原則として人工林の皆伐は行わないため、伐期齢は定めない。
- ・間伐率の決定には相対幹距比を指標として用い、常に相対幹距比が 20 ~ 30%程度となるようにする。
- ・間伐の時期はドマツ・エゾマツは 30 ~ 35 年生、カラマツ、広葉樹は 20 ~ 25 年生以降とし、10 年目ごとに繰り返し実行する。

3)更新事業(677ha)の考え方

- ・種構成を攪乱しないよう植栽種は自生種とし、種子は林内健全木から採取する。
- ・天然更新の困難な風害跡地(193ha)、無立木地(20ha)では地拵えの翌年、人工植栽(650,000本)を実行する。
- ・更新場所は機械地拵えを実行する観点から、面積のまとまりがあり、緩傾斜地を優先させる。実行にあたっては更新指令書を作成する。押し幅は将来の保育作業の機械化に備え、従来より広くし、少なくとも8m以上とする。
- ・植栽後の作業条件の悪い場所(224ha)では、天然更新木を優先させる地がきを実行する。地がき地への播種作業はこれまでの更新成績が不良であるため方法を見直し、補助造林(112,000本)を行い、原則としてあとの保育は行わない。
- ・補植林分(396ha)、皆伐林分(80ha)において、更新技術を継承するために必要な伐採実行後、人工植栽(101,700本)を実行する。
- ・奥地林においては北方林帯を代表する樹種であるエゾマツの個体数の維持に配慮し、後継樹の少ない場所では伐採後の林間にエゾマツの補助造林を実行する。
- ・地拵え跡地の植栽木は 1,500 本 /ha、地がき跡地の補助造林は 500 本 /ha、奥地林択伐跡のエゾマツの補助造林は 50 本 /ha を基準とする。

ii 特別試験林(1,856ha)の整備について

- ・特別試験林については特に断らない限り、施業の対象とはしない。

- ・試験地の調査方法、調査間隔、試験地としての期間、担当掛を明確にする。
- ・環境の変化により試験地としての機能を失ったり、当初の目的を終了した試験林は一般施業林に編入する。

1)天然林試験林

- ・天然林施業試験地（固定標準地）のうち風害により成長量試験地としての機能を失った17箇所を廃止し、広葉樹を主体とした林分で新たに8箇所を新設する。
- ・保存林以外の天然林試験林では、一般施業林と同様の取扱いを行う。

2)風害試験林

- ・箇所数は変わらないが、風害無処理区の周辺に緩衝区を増設して、面積は2.8倍に増加。

3)育種・遺伝資源試験林

- ・目的の終了した育種系統試験林9箇所を廃止し、面積も47%に減少。
- ・外来樹種試験地9箇所、23haは、一般造林地に編入し、施業対象とする。
- ・目的の終了した採種園・採種林の26箇所のうち、11箇所は一般造林地に編入し、14箇所は遺伝子保存林、1箇所は参考林に編入し、残りは5箇所4.5haに縮小。

4)人工林試験地

- ・設定後、長期間を経過し、個体サイズが大きくなったため当初の目的を果たした試験林は一般造林地に編入し、施業対象とする。
- ・林地肥培試験林23箇所、7.8haは、設定目的終了のため一般造林地に編入する。
- ・学術参考林は6箇所、11.8haを新たに設定。
- ・新たに広葉樹林造成試験地14箇所、16haを設定し、植栽木の成長を調査する。この試験地では通常の保育を実行する。

5)1981年災害復旧造林

- ・新たに1981年風害跡復旧造林地に、74箇所11.6haの試験地を設定し、植栽木と侵入天然木の成長を調査する。植栽木には一般造林木と同様の保育を実行する。

6)森林衰退観察試験林

- ・本当に森林衰退が生じているか否かを検証するために9箇所、2.3haを設定。

7)保存林・保護区

- ・保存林は13箇所、166haを追加し、多様な森林環境を保全する。このうち、原生保存林は1箇所のみである。
- ・特殊植物保護区はエゾムラサキツツジ群落の岩屋保護区を追加する。

iii 土地管理の基本方針

北海道演習林は富良野地域における地域社会、地域経済の発展に少なからぬ影響を与えてきた。演習林に対する要請は時間の経過とともに変化しており、適宜対応してゆかねばならぬが、研究・教育林としてだけでなく、大学演習林として大学の財産的施設としての性格を考慮し、土地の管理については、慎重に対処していかなければならない。

森林地域の土地利用の変更は、試験研究に与える影響が多大なものになることから、健全な森林を維持造成する上からも、今後河川改修工事・道路拡幅工事・電線敷地等の申請があった時は、従来どおり公共性のあるもので試

験研究に支障がなく、他の方法や場所がない場合に限り使用を承認・許可し、工事完了後は必要最小限について、所管換・売払する。

また、除地（林地以外の土地）については、1950-1964年に開放できないまま残っている、一級河川（河川管理は北海道）、普通河川（河川管理は富良野市）については、現在改修計画のある、西達川・ボン布部川以外にも改修工事が予見されるので、土地の使用にあたっては、残り少ない河畔林を保全する見地から、できるだけ自然を残す施工法でなければ許可しない。

農地内にある用水路・排水路敷地については、増水時の氾濫、崩壊が生じているため、今後関係機関による改修工事が行われると見込まれるが、面積も小さく管理の上からも、研究・教育目的に利用することは適切でなく、関係機関に移管・売払処分するのが妥当と思われる。

3 秩父演習林

i 森林施業

気象害、病虫害に抵抗性の高い林として維持するために、保育を主目的とした間伐を行い、長伐期の施業を目指す。林地保全を観点から、裸地化による土砂の流亡を避けるために皆伐は極力控える。間伐率の高い林分では、複層林の造成のために下層植栽を行う。

林道は研究教育を基本とした円滑な林内到達機能を発揮し、また木材森林資源の有効活用ができるよう維持管理している。

ii 土地管理

大滝村に山林5,816ha、作業所・学生宿舎等敷地1.02ha、秩父市に実験林1.93ha、苗畑1.64ha、事務所宿舎敷地等0.88ha合計5,821haを所有し、その管理については国有財産監守計画表に基づき、監守者は林長、補助監守者は各口座に所属する事務主任、掛主任および関係職員（作業所）が林内の保護巡視等により、林道、建物、火気防火消火栓、給排水、境界石、標識等の点検をそれぞれの項目により毎日から3カ月に1回実施している。

4 愛知演習林

愛知演習林創立時には犬山事業区・新居試験地・穴の宮試験地はほとんど樹木を見ない荒地であり、赤津事業区も多くの禿地を含む貧弱な林地であった。その後、精力的な砂防造林が進められ、現在は往時の面影を見ることはできない。このような状況下で研究業務の目的も砂防造林の推進とその改良、森林水文観測・森林気象観測の継続と森林属性の資料収集、瘠悪林地での造林技術の模索を柱として特徴的な目標を掲げてきた。現在では、二次林はみごとに成立し過去の研究業務により成し遂げられた遺産を受け継ぎ、さらに将来に向けて発展させる方向を見出していかなばならない。

高精度、長期の水文観測資料は緩慢な森林回復過程とともに水循環過程の変化を捉えており、さまざまな角度から分析の可能性を秘めた貴重な学術的財産となっている。観測の継続のために教官・事務官・技官が総力を挙げて維持管理に当たっているが観測方法・データベース作成方法を一新して省力化と質の向上を図る必要に迫られている。

また、営々として推進されてきた砂防造林および育林事業は、関連した事業の記録や学術的な資料の集積があり、その歴史的な経過を纏め、今後の方向を模索する時期にさしかかっていると見える。多くの試験地は継続的な調査

の対象となり、数々の研究成果をもたらした。一部は、本来の設定目的が達成されて、試験地として残され成長を続けている林分もある。今後検討を重ね新たな研究業務の方向を見出さなければならない。たとえば、ヒノキの複層林あるいは他に類例を見ないモザイク状更新試験地は森林の公益的機能を重視した施業法であり、生態学的に多様性を持たせた環境を形作りつつ林業的経営を行うという理念のもとに育成された林分である。一旦、形成された森林は荒廃地であった時期の土砂流出や洪水頻度を大きく緩和している事実を強調せねばならないが、収穫の方法の検討と合わせて、今後これらの試験地を育成していく理念も変わっていかねばならない。森林が回復するにつれて都市近郊林としての性格と質を備えはじめたということができ、都市住民からの森林観も変化しつつあるなかでより具体的な研究の方向と業務のあり方が問われている。

・ 量水観測

白坂・東山・穴の宮の試験流域では水位観測が70年の歴史を背負いつつ現在も継続されている。それぞれの観測所ではデータの取得が自記記録計によなされているが、最低週一回の巡回と記録紙交換の作業が行われ、水位観測の異常に対処するための監視が続けられている。また、試験流域には気象観測露場が配され、巡回時に降雨、温湿度、地中温度の記録紙交換も実施されている。さらに、不定期ではあるが、高頻度で各試験流域には主任がさらに綿密な巡回を行っている。記録紙の読み取り整理の業務も大きな労力を要する作業であるが、記録のデジタル化を導入し巡回時の労力を軽減するとともに読み取りのための労力を一挙に解決することが望まれる。

仮に完全な自動化が進展しても、巡回による観測の質の維持・異常への対応、土砂の排出作業などは省くことはできない。

i 植伐

1)量水試験の対象流域は原則として禁伐とし、森林の自然の回復過程に対応した水文現象の観測を達成することとしている。ただし、森林の属性を把握する作業はリモートセンシングの技術の応用と合わせて、研究業務として今後組織していかねばならない課題である。

2)復旧された荒廃地が2次林として広域に生育している。ここでは主にマツノザイセンチュウによる病虫害の駆除あるいは緑化の遅れた部分の山腹工事と砂防植栽を導入している。原則として拡大造林を行わず、一部に試験的な施業を行うことがある。

豊かな自然を内包している愛知演習林の二次林は希少種が多く見られるが、都市近郊に位置するため、その維持のための対応が迫られつつある。学術的な財産として守るだけでなく、その生態学的な生育の機構を明らかにしていくことも課題である。

3)上記以外は森林のもつ公益的機能の最大限の発揮を標榜した一般的な施業の対象となっており、毎年0.5ha程度の小面積皆伐を実施している。ただし、水源かん養保安林、土砂流出防備保安林の規制がほとんどの林地に課せられており、業務上の理念を条件づけている。

ii 林道

新設は行っていない。ただし、上記の理念に従って保守を行う。愛知県林務部による治山事業が行われているが、治山工事のための道路整備により維持が行われているといえる区間も多い。今後の土地管理のためにも整備が望まれる林道区間は多く残されている。

iii 土地管理

都市に近いこと、伝統産業である窯業と関連したことなど特徴的な立地をもっている。大学の研究施設として試験

研究と森林保全・育成を第一の目的とした土地管理を行い、地元との協調関係を損なわない範囲での協力を慎重に進めている。高圧線の鉄塔の新設・増強工事、道路建設、国指定の史跡となっている窯跡の整備、ため池とその周辺の整備などの申し出があるが、愛知演習林で慎重に協議を行い演習林本部の指示を仰ぎつつ、大学としての研究を損なわないように対応している。

犬山事業区、新居試験地では職員を定期的に派遣して管理をおこなう状況にあり充分に対応ができていない面も否定できない。犬山市の場合は地元からの自然教育を望む声が高い。現在、地元の小学生を対象に野鳥観察会を実施して高い評価を受けている。さらに幅広い対応を検討する必要があるものの、大学の研究の主体性を損なう過剰な対応は避けなければならない。

また、市道、県道に面する樹木の道路への倒伏を未然に防ぐために対象樹を伐採するケースが増えてきている。

以上のように、都市近郊に所在するという性格と森林の回復によって土地管理のために対処しなければならない問題があり、今後もこのために割かなければならない業務が増大することが十分に予測される。

5 樹芸研究所

樹芸研究所は、試験林や温室に収集保存している熱帯・亜熱帯樹木を中心とする豊富な遺伝子資源を背景に、これらの保存と試験研究に有効な活用を図っている。特に、熱帯・亜熱帯樹木の増殖・育成研究、ユーカリ属・アカシア属樹木による森林育成にかかる研究など、幅広く世界的規模での森林環境問題の解決を基礎付ける研究は、当所の最重要課題である。また、暖帯林における森林育成全般に関する施業に関する実験も、地域森林の維持・増進および他演習林との比較研究の上から重要な課題として位置付けている。

i 森林施業

樹芸研究所における試験研究は、上記の課題にそって、外国産樹種の導入試験として、アカシア属、ユーカリ属の現地適応・成長比較試験地、遺伝子資源の収集・保存、評価のための、スギ地方品種試験地、採種母樹林別ヒノキ試験地、マツの産地別・母樹別試験地など多くの試験地を設定し研究を行っている。

これらの研究を遂行するために、1960年代には6.7ha / 年、1970年代には1.8ha / 年、1980年代には1.1ha / 年の試験地設定を行ってきたが、最近では人員削減による人手不足から、新たな大面積の試験地設定が難しい状況になってきた。このことは、学生の教育と研究を目的とする演習林にとって大きな問題である。

また、人員削減の状況下において、熟達した現地担当職員の退職に伴い、今後の試験地管理には、地理情報システムを取り入れた試験地等のデータベース化により、各種意思決定支援を行うことが必要になっており、現在システムの構築に取り組んでいるところである。

樹芸研究所は、1943年に設立された比較的若い演習林のため、1970年頃までは薪炭林の伐採・売り払いがあったが、針葉樹人工林の伐採・売り払いはほとんどなかった。針葉樹は7齢級以下の若い林がほとんどであるため、当分の間主伐の計画はないが、間伐の必要がある。しかし、間伐による売り払い収入は見込めない。

1995年現在、車道3,199m (13.0m / ha)、歩道11,753m (47.8m / ha)と林道密度は非常に低い状態で、試験研究、試験地管理、林内巡視、山火事予消防、作業員送迎などの研究、管理面において多大な不便をきたしている。また、車道が少ないため、間伐材などの売り払いもできない状態である。

1967年には15名であった職員が、1995年には定員削減により、7名(53%の削減)に減少した。また、試験地の管理業務を中心に行っている非常勤職員も、1978年には5名であったが、1995年現在2名となり、その2名も1998年には定年退職する予定である。

このような人員削減の状況下において、研究、試験地管理を効率的に行うために、2林班を中心に、林道網の充実を計画している。この計画に基づいて、1991年以来継続的に予算の配布を受け、車道の延長工事を実施している。今後もこの工事を遂行するとともに、林道保守管理用の大型機械の導入も計画している。

ii 土地管理

樹芸研究所は、1943年民有林を購入して設立された。試験林は比較的民家に近く、里山的状態の所もあるが、境界測量、境界石標の埋設も進んでいるため、民地との境界線に関する問題はない。また、13.2kmの境界と、2.3kmの林班界について、毎年、境界石標の確認、防火線を兼ねた境界の刈り払い手入れを実施している。

今後とも、国有財産管理の上から境界管理、試験地内の利用者に対する対応を検討する必要がある。特に、休日における無断利用者と山火事予消防の問題が大きい。人員削減の状況下においては、十分な境界管理、林内巡視、利用者対応が出来なくなることが危惧される。

また、人員削減の状況下においては、熟達した現地担当職員の退職に伴い、今後の土地管理・試験地管理には、地理情報システムを取り入れた試験地等のデータベース化により、各種意思決定支援を行うことが必要になってくる。

iii 温泉・温室管理

樹芸研究所では他の演習林と異なり温泉と温室を有しており、特に、100以上の源泉の維持管理は非常に危険を伴う作業である。また、配管内への付着物による温泉供給機能の低下や配管の破損などに対して、常時点検と監視を行っていただければならない。

一方、化石エネルギーを利用しない、クリーンなエネルギーの温泉熱を利用した温室で、熱帯・亜熱帯の樹木に関する研究、遺伝子資源の収集・保存と展示を行っている。

温室では、温度の管理や機器の点検、鉢植え植物の生育状態を観察しながら、それぞれの種特性に応じたきめの細かい管理が必要である。これらの作業を職員の経験に頼っているのが現状であり、温泉管理の安全確保、配管内付着物の除去、配管の破損時における対処法のマニュアル化、コンピューターを使った温室環境・育成植物の管理、休日中の諸問題に対する対処法の検討、研究材料の安定供給などが今後の大きな問題である。また、農学部大学院重点化に伴う学生実習の実施など新たな状況に対処するためにも、研究施設・環境の充実、研究システムの検討などの問題に積極的に取り組む必要がある。

(2) 業務関係

1. 林相別面積集計表 (単位 : ha)

	合計	樹林地									竹林	伐採跡地	未立木地	その他
		計	人工林				天然林							
			小計	針葉樹林	混交林	広葉樹林	小計	針葉樹林	混交林	広葉樹林				
千葉	2,170	2,103	842	812	21.4	8.7	1,261	0	366	895	-	-	-	67
北海道	22,825	20,734	3,442	3,257	142	43	17,292	1,808	12,442	3,043	-	-	971	1,120
秩父	5,821	5,757	767	749	-	18	4,990	117	4,813	60	-	-	-	64
愛知	1,292	1,252	380	378	-	2	872	-	872	-	-	-	-	40
富士	37.9	35.2	35.2	30.9	0.9	3.4	-	-	-	-	-	-	-	2.7
樹研	246	214	132	73	-	59	82	-	-	82	-	-	-	32
田無	9	6	6	2	3	1	-	-	-	-	-	-	-	3
合計	32,401	30,101	5,604	5,302	167	135	24,497	1,925	18,493	4,080			971	1,329

(備考)

針葉樹林とは針葉樹蓄積が75%以上占める林

広葉樹林とは広葉樹蓄積が75%以上占める林

混交林とは上記以外の林

2. 林相別蓄積集計表 (単位 : m³)

	計	人工林	天然林
千葉	257,260	179,368	77,892
北海道	3,678,000	258,000	3,420,000
秩父	760,677	134,030	626,647
愛知	195,565	58,751	136,814
富士	911	911	0
樹研	36,993	26,427	10,566
田無	194	194	0
合計	4,929,600	657,681	4,271,919

(備考)

3.1995年度 立木伐採量（単位：m³）

		伐採材積（主伐）							間伐材積	主間伐合計
		計	人工林			天然林				
			小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	広葉樹		
千葉	立木処分	2,180	2,180	2,090	90				1,835	4,015
	素材生産資材量									
	その他									
	合計	2,180	2,180	2,090	90				1,835	4,015
北海道	立木処分	23,452.75	5,310.84	5,082.42	228.42	18,141.91	10,102.20	8,039.71		
	素材生産資材量	7,921.95	-	-	-	7,921.95	5,929.95	1,992.00		
	その他									
	合計	31,374.70	5,310.84	5,082.42	228.42	26,063.86	16,032.15	10,031.71		
秩父	立木処分	25				25	2	23		25
	素材生産資材量								137	137
	その他									
	合計	25				25	2	23	137	162
愛知	立木処分	153	153	153	0	0	0	0	173	326
	素材生産資材量									
	その他									
	合計	153	153	153	0	0	0	0	173	326
富士	立木処分	0								
	素材生産資材量	0								
	その他	0								
	合計	0								
樹研	立木処分	0							0	0
	素材生産資材量	0							0	0
	その他	0							0	0
	合計	0							0	0
田無	立木処分									
	素材生産資材量									
	その他	6*	6*	6*						6*
	合計	6*	6*	6*						6*
合計	立木処分	25,811	7,644	7,325	318	18,167	10,104	8,064	2,008	27,814
	素材生産資材量	7,922				7,922	5,930	1,992	137	8,054
	その他	6	6	6						6
	合計	33,739	7,650	7,331	318	26,089	16,034	10,054	2,145	35,879

（備考）北演：人工林はすべて間伐、収入の伴わない間伐は「切り捨て間伐」＝「除伐」として材積は算定せず

* 松食い虫被害木

4.1995年度 育林実行量（単位：ha、本）

	更新		育林	備考	
	面積	植栽本数			
千葉	2.15	8,920	32.59	つる切り・除伐 下刈 間伐	14.66ha 16.29ha 1.64ha
北海道	56	46,550	454	つる切り・除伐・枝打 下刈り（2回延べ） 間伐	96ha 282ha 76ha
秩父	0.45	1,700	114.48	補植 つる切り 枝打 下刈り 除伐	9.72ha 39.30ha 18.63ha 14.31ha 31.91ha
愛知	0.47	2,500	12.02	つる切り・除伐・枝打・下刈 地拵え	11.50ha 0.52ha
富士	-	-	-		
樹研	0.27	727	9.23	つる切り 枝打 下刈り 除伐	0.66ha 1.78ha 0.76ha 6.03ha
田無	-	-	-		
合計	52	60,397	622		

(備考) 育林の内訳など

5.1995年度 植栽樹種・本数

千葉	樹種	スギ	ヒノキ	アカマツ					
	本数	3,570	3,450	1,900					
北海道	樹種	トドマツ	エゾマツ	アカエゾマツ	シウリザクラ	カツラ	アオダモ	シラカンバ	ミヤマハンノキ
	本数	8,190	6,630	23,280	4,400	1,350	1,600	700	400
秩父	樹種	スギ	ヒノキ						
	本数	1,350	1,450						
愛知	樹種	ヒノキ							
	本数	2,500							
富士	樹種	-							
	本数	-							
樹研	樹種	ミズメ	イヌマキ	イチイガシ	ヤブニツケイ				
	本数	572	140	53	50				
田無	樹種	-							
	本数	-							

(備考)

6.1995年度 素材生産総括表 (単位:m³,%)

	素材生産 資材量			素材生産 量			歩留		
	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹
千葉									
北海道	7,921.95	5,929.95	1,992.00	5,746.414	4,529.379	1,217.035	72.54	76.38	61.10
秩父	136.92	136.92		112.098	112.098		81.9	81.9	
愛知									
富士									
樹研									
田無									
合計	8,058.87	6,066.87	1,992.00	5,858.512	4,671.477	1,217.035			

(備考)

7.1995年度 土木実行総括表 (単位:m)

千葉	実行内容	自動車道 新設	自動車道 維持	歩道維持				
	実行数量	278	26,396	58,745				
北海道	実行内容	作業道新 設	林道補修	林道草刈	林道法面 柴切	林道砂利 柴切	地拵	地がき
	実行数量	11,400	168,600	242,200	12,000	12,000	13.92ha	31.81ha
秩父	実行内容	自動車道 新設	自動車道 維持	自動車道 改修	歩道維持	渡り橋修 理		
	実行数量	72	11,495		22,200			
愛知	実行内容	-						
	実行数量							
富士	実行内容	-						
	実行数量							
樹研	実行内容	自動車道 新設	自動車道 維持	歩道維持	渡り橋修 理			
	実行数量	48	5,678	1,508	6箇所			
田無	実行内容	-						
	実行数量							

(備考) 北海道: 林道補修の内訳、グレーダー 73,000 m、ブルドーザー 95,600 m

8. 道路現況 (単位 : m,m/ha)

	車道延長				歩道延長	
	自動車道延長	作業道延長	計	m/ha	延長	m/ha
千葉	31,022			14.3	126,181	58.0
北海道	484,500					
	内訳					
	幹線林道 113,900					
	経営林道 370,600	410,500	895,000	39.2	7,800	-
秩父	9,661	1,834	11,495	2.0	216,071	37.1
愛知	11,840	1,500	13,340	10.3	12,400	9.6
富士	-	-	-	-	-	-
樹研	3,199		3,199	13.00	11,753	47.8
田無						
合計	540,222	413,834	954,056		248,150	

(備考)

II-12 主要設備

概ね 100 万円以上の主要設備の所有は 37 件である。

設備名称	設備用途	購入時期
三菱ファイターダンプ	土砂等運搬用	9.29
T C Mホイールローダ 806型	整地、積込、運搬、はい積用	3.28
三菱ストラーダ S4WD	人員、機材等運搬用	3.28
トラクタショベルBS3F	林道維持管理	S.58.3
油圧ショベルE110	林道維持管理	S.63.3
油圧ショベルPC05-6	作業道開設	H.2.3
全輪駆動林内作業運搬車	間伐材搬出	H.2.12
キャディトラクター	利用学実習	H.2.3
フォークリフト	素材極積	H.5.3
ハイエース	人員輸送	S.58.9
キャラバン	人員輸送	H.1.3
デリカスペースギア	人員輸送	H.7.12
日野レインボー	人員輸送	H.8.8
日野クルージングレンジャー	素材運搬	H.4.12
レオーネバン	業務連絡	H.3.10
ダイナダブルキャブ	人員輸送	S.56.3
エルフダンプ	林道維持管理	S.60.9
ワークステーション SUN	UT-net	H.4.8
林内走行車 T-10	利用学実習	S.63.7
林内走行車 フォレストアント	利用学実習	S.63.7
ヤンマートラクタ	種苗事業	S.59.3
万能投影機	研究会議	H.1.2
ミニ高速冷却遠心機	試料分析	H.5.11
バイオフィリーザ-BF310	試料保存	H.5.8
顕微鏡	鉱物サンプルの分析	9月
原子吸光光度計	土壌分析	10月
イオンクロマトグラフ	土壌分析	10月
2級GPS	測量学実習	3月
オートレベル	測量学実習	3月
トータルステーション	測量学実習	3月
植物組織培養機(植物細胞育成チャンバー)トミーCU355	試験及び測定機器	H6.7.12
ランドスケール(自動気象観測機)タヤマ計測システム(株)MDL-1000	試験及び測定機器	H6.7.12
顕微鏡オリンパスAHB-LB-1	試験及び測定機器	H6.12.20
恒温恒湿槽 日立製作所EC-82MHD	試験及び測定機器	H6.2.14
小型自動車三菱デリカスター4WDGLX2000G昭和60年式	車両及び軌条	S60.9.7
小型自動車トヨタトヨエースダブルキャブジャストローT-Y Y 6 1 - M D P L T J平成3年式	車両及び軌条	H3.11.1
ミニパワーショベル	整地・苗木の掘取り移植	H8.3.25

II-13 年間行事表

月	行事内容
4月	火防警戒(千葉)、富良野市林野火災予消防対策協議会・東山森林愛護組合総会・布部地区林野火災予消防対策協議会・麓郷森林愛護組合総会・林野火災予防強調期間・消火訓練・日本林学会北海道支部春季研修(北海道)、植樹祭・林学科森林土壌学実習・秩父事務所構内環境整備作業実施(秩父)、造林週間・予定案作成・植樹祭(愛知)、植樹祭(樹芸)、林学科造林学実験(田無)
5月	演習林交歓会・動植物不法採取取締特別巡林・林学科造林学実験・林学科森林植物学実験・林学科森林経理学実習・理学部地質学調査実習(千葉)、山部地区森林愛護組合総会・植樹祭・公開セミナー「森林のしくみと人間との関わり」開催・林長交渉(北海道)、大血川管内太陽寺例大祭・営林署植樹祭・埼玉県植樹祭(秩父)、利用者研究集会(愛知)、風致計画学実習(富士)、農学部主任施設長会議(樹芸)、林学科森林動物学実験(田無)
6月	造林研修(千葉)、平成7年度東京大学教室系技術職員研修(森林調査・管理関係)・国際基督教大学 理学科植物野外実習(秩父)、東大砂防工学実習(愛知)、林学科造林学実験(田無)
7月	立木処分入札・林業機械取扱い安全研修・林産学科林学実習・宇都宮大学農学部樹木学実習・東京大学教育学部附属高校実習(千葉)、安全会議・教育学部附属高校実習・一般定期健康診断(北海道)、本学林学科学生実習(利用・植物・動物・土壌)・筑波大学応用生物化学系学生実習・平成7年度技術連絡会議埼玉県林業試験場に於て(秩父)、量水堰堤砂出し・安全会議(愛知)、学生実習(高校生)(樹芸)、東京大学教室系技術職員研修(生態系関係)(田無)
8月	TEPCOペアウォッチング・作業安全対策検討会・京都大学理学部地質調査法野外実習(千葉)、林学総合実習(北海道)、埼玉県立秩父農工高等学校森林科学科樹木実習・矢竹沢量水観測堰堤清掃・トウバク沢土捨場堰堤量水観測稼働・森林文化協会朝日グリーンセミナー開催(秩父)、予定案作成(樹芸)
9月	胃・肺ガン検診・北海道地方演習林業務担当者会議・林内における安全対策現地指導・救急法に関する講習会・教養学部小人数講義(北海道)、立教大学理学部博物館実習・本学理学部植物学教室生態学野外実習・直営生産事業 安全講習会(秩父)、立木調査・処分入札・予算会議(愛知)、工学部土木工学科実習(富士)、健康診断(樹芸)、林学科造林学実験・森林動物学実験(田無)
10月	土木工事入札・千葉大学理学部地質学野外実習(千葉)、北海道地方演習林協議会・日本林学会北海道支部秋季大会・給与簿監査(北海道)、秩父市内に所在する国の機関12官署の会議「合同庁舎建設」が秩父市長の主催により開催・給与内部監査・直営生産事業完了素材112m3(秩父)、林学会中部支部会・東大測量学実習・健康診断(愛知)、技術官等試験研究・研修会議(田無)
11月	立木処分入札・森林体験セミナー開催・東京工業大学理学部地質調査実習(千葉)、オスシカ猟解禁・特別定期健康診断・内部監査・営繕関係調査(北海道)、林学科森林経理学研究室各所生長試験地の測樹・入川林道開設工事入札・会計内部監査・入川林道200m地点法面崩落及び路床決壊の災害発生・職員定期健康診断(秩父)、山神祭・給与内部監査(愛知)、森林教室、岩樟園林道延長(5工区)工事入札(樹芸)
12月	内部監査・営繕調査・林学科測樹学実習(千葉)、特別定期健康診断・健康管理講習会・交通安全講習会(北海道)、更新車両三菱デリカスペースギア購入(納車)・秩父事務所構内環境整備作業(秩父)、内部監査・営繕関係調査・事務所各作業所構内美化作業(愛知)
1月	消防訓練(可搬式消防ポンプ操作)・育林技術研修会・素材入札(秩父)、予算会議(愛知)
2月	風倒木請負作業入札・火防警戒・業務研修発表会(千葉)、北海道林業技術研究発表会・各営林支局業務研究発表会(北海道)、技術系職員7名振動病検診(宇都宮市珪肺労災病院職業病検診センターにおいて)(秩父)、松くい虫被害木伐倒処理・薬剤散布(愛知)
3月	ホイールローダ入札・増築竣工検査・金庫検査・東京学芸大学教育学部地質調査実習(千葉)、上川地区林野火災予消防対策協議会・麓郷ラングラウフ・森林総合研究所北海道支所 研究発表会・金庫検査・現地検討会(北海道)、金庫検査(秩父)、名古屋大測量学実習・金庫検査・有名林業地視察(愛知)

毎週、業務予定連絡会(千葉)、業務予定連絡会・山火事危険強調期間巡視・日直(1995.4.22~1995.5.28)(北海道)、山火事防止のための監視(1995.11.15~1996.2.15、秩父)

毎月、主任会議・事業計画会議(千葉)、主任会議(北海道)、主任会議(秩父)、定例会議・試験研究会議(愛知)